

1. 評価の趣旨

当該事業年度において、中期計画の実施状況を調査・分析し、業務の実績の全体について総合的な評価を行うことにより、以降の業務運営の改善に資する。

2. 評価の過程

評価は、法人から事業の説明を受けヒアリングした後、各委員が書面評価した上で合議により決定した。また、資料として、実績報告書（自己点検評価を含む）、財務諸表、外部評価委員会の評価等を使用した。

**独立行政法人日本芸術文化振興会に係る業務の実績に関する評価（平成15事業年度） - [全体評価]**

事業活動、業務運営について、項目別評価の結果等を踏まえつつ、法人の業務の実績について記述式により評価する。

評価項目	評価の結果
<p>芸術文化活動に対する支援</p>	<p>日本芸術文化振興会が実施している芸術文化活動に対する支援事業は、現在の日本の舞台芸術に対して極めて重要な役割を果たす位置にあり、これまでのところ誠に適切に機能していると思われる。</p> <p>平成15年度については、年度途中の組織変更にもかかわらず、審査及び公表等の情報提供を含め、ほぼ円滑に進められ、舞台芸術振興事業については90件を、芸術文化振興基金については749件を採択し、総額約20億円を交付している。舞台芸術振興事業助成金交付要綱・同取扱細則及び芸術文化振興基金助成金交付要綱・同取扱細則の制定・公表や審査のための運営委員会・4部会・11専門委員会の設置、さらにはホームページ等による助成対象活動・助成金額・審査委員、審議経過等の公表などは、審査における客観性及び透明性を確保する手段として有効であると認められる。</p> <p>また、資金内容及び経済情勢の把握に努め基金を適切に運用し、計画より約3千万円の増収を得たことは、評価できる。</p> <p>今後とも、客観性・透明性を確保しつつ、交付事務の一層の効率化、簡素化に努めるとともに、基金の運用については、安全性に配慮しつつ、効果的に行われることが望ましい。</p> <p>なお、各種媒体とともに、実地説明会を開催するなど広報活動に努めているが、いまだ基金による支援を知らない者も見受けられる。全国的な視野に基づく広報活動の充実についての検討が望まれる。</p>
<p>伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p>	<p>全般的に、企画意図に沿って制作・実施され、公演及びその他の事業とともに、成果があがったものと認められる。一部の公演については、入場者数が目標に達しなかったものもあるが、定量的な要素より、企画の創造性・先駆性という定性的な要素を重視する視点も、芸術文化事業においては、肝要であろう。</p> <p>伝統芸能の公開は、平成15年度において、歌舞伎、文楽、邦踊、邦楽、声明、雅楽、民俗芸能、大衆芸能、能楽、国立劇場おきなわ開場記念公演について、87公演・538回実施し、延べ約25万人の入場者を得ている。約120年ぶりに復活した「通し狂言 競伊勢物語」では出演の市川猿之助一門の特色を生かし、また、民俗芸能公演「奥三河の花祭」などは担当者の高い識見と熱意が感じられ、高く評価できる。また、国立劇場おきなわの開場は、国の重要無形文化財である組踊をはじめ、特色ある地域文化の再発見・保護のために画期的なことであり、今後の活動が期待される。なお、歌舞伎の新作脚本の募集については、その意義は認められるが、実施方法などに検討の余地があると思われる。</p> <p>現代舞台芸術の公演は、平成15年度において、オペラ、バレエ、現代舞踊、演劇について、20公演・160回実施し、約12万人の入場者を得ている。いずれの公演もオペラ・舞踊・演劇各分野の芸術監督の明確な方針のもとに行われ、市川團十郎演出のオペラ「鳴神（間宮芳生作曲）/俊寛（清水脩作曲）」は邦人によるオペラ上演の可能性を示し、また、山崎正和作「世阿彌」などが出色の出演者を得た点等高く評価できる。</p>

	<p>よるオペラ上演の可能性を示し、また、山崎正和作「世阿彌」などが出色の出演者を得た点等高く評価できる。</p> <p>また、青少年を対象とした文楽鑑賞教室では、初めての者にも親しみやすい「団子売」「夏祭浪花鑑」を演目に採り上げるとともに、解説にも工夫があり成果があがっていると認められるが、今後ともニーズの把握に努めるとともに、積極的に動員を図る工夫を行っていくことが望まれる。</p> <p>なお、伝統芸能の公開、現代舞台芸術の公演とともに、地方公共団体等外部団体との連携協力を図っているが、今後ともさらなる連携協力が望まれる。</p>
<p>業 活</p>	<p>伝統芸能の伝承者の養成、現代舞台芸術の実演家の研修とともに、事業目的に沿った成果があがっていると認められる。</p> <p>伝統芸能の伝承者の養成は、平成15年度において、歌舞伎（俳優第17期生、音楽（鳴物・第12期生、長唄・第2期生）、大衆芸能（寄席囃子第12期生、太神楽・第3期生）能楽（第6期生・第7期生）文楽（第20期生）の養成が行われており、授業内容、講師陣、方法等も適切であると認められる。特に、歌舞伎俳優、文楽三業（太夫、三味線、人形）における人材の養成については、高く評価することができる。今後とも、関係団体との協議・検討を踏まえつつ、より多くの者が研修機会を得られるよう、斯界の実情も踏まえつつ事業の充実を図るとともに、一層充実した広報活動が望まれる。なお、組踊の立方・地方の研修については、今後の展開を注視する。</p> <p>現代舞台芸術の実演家等の研修は、平成15年度において、オペラ（第4・第5・第6期生）バレエ（第2期生）の研修が行われており、授業内容、講師陣、方法等も適切であると認められる。特に、新国立劇場の公演への出演、試演会、研修公演、さらには新進芸術家海外研修受験といったプロセスの確保は、機能的に働いており評価できる。演劇の研修については、今後の展開を注視する。なお、今後とも、新国立劇場で行う意義を明確にしつつ、その充実について検討していくことが望ましい。</p>
<p>動</p>	<p>伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <p>伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用については、事業目的に沿った成果があがっているものと認められる。</p> <p>伝統芸能に関しては、平成15年度においては、調査研究の成果として上演資料集・近代歌舞伎年表の刊行、古文献の復刻などのほか、自主公演記録の作成（67公演）、図書約3千点・資料約1万点の収集とともに、データベース化、展示公開（5施設・延べ10回）など成果があがっているものと認められる。特に、上演資料集は専門家の評価も高く、また、「近代歌舞伎年表」も基礎資料として整備が急がれていたものであり、高く評価できる。さらに、当該事業に係る利用者へのアンケート調査を実施し、利用者のニーズを適切に把握している。なお、これまでの出版物の改訂や新たな視点での著作の刊行、さらには外国語による出版について、今後検討していくことが望まれる。</p> <p>現代舞台芸術に関しては、伝統芸能に比べ端緒にたったばかりであり、平成15年度において、研究成果として「日本洋舞史年表」を刊行したことは高く評価できるが、今後とも、新国立劇場で行う意義及び方針を明確にし、活動の充実について検討することが望まれる。</p>
<p>劇場施設の利用</p>	<p>各劇場施設の貸与については、事業目的に沿った成果があがっているものと認められる。</p> <p>各劇場施設の貸与は、自主公演等を踏まえつつ、外部資金の獲得の観点からも、積極的に行うことが望ましい。今後とも、芸術家・芸術団体における公演機会の提供のため、自主公演等の早期決定、関連サービスの提供等を推進していくことが望ましい。特に、新国立劇場オペラ劇場については、貸与についての方針等を明確にしていくことが望まれる。</p>
<p>教育普及事業及びその他の劇場利用者へのサービス等</p>	<p>教育普及事業及びその他の劇場利用者へのサービス等については、事業目的に沿った成果があがっているものと認められる。</p> <p>教育普及事業に関しては、平成15年度においては、25の講座等を実施し、延べ約3千人の参加者を得ている。また、参加者の満足度も90%となるなど成果をあげていると認められる。さらに、内容、講師の人選も妥当で、地道で着実な実績を上げている。また、文化デジタルライブラリーについては、今後ともコンテンツの充実を図るとともに、広報活動の一層の充実が望まれる。なお、教育普及事業は、今日の社会情勢等を踏まえた新たな着想・展開が必要であり、それについて検討していくことが望まれる。</p> <p>広報活動に関しては、平成15年度において、広報誌の刊行（4種・約20万部）、ホームページへのアクセス（約60万件）など事業目的に沿った成果をあげている。また、各種情報の決定からホームページへの掲載期間が大幅に短縮できたことも評価される。</p> <p>交流事業については、平成15年度において、伝統芸能、現代舞台芸術各分野で交流公演等が実施されおり、今後とも充実していくことが望まれる。</p> <p>劇場利用者等へのサービスの向上に関しては、観劇環境の向上のためのバリアフリー化、外国語への対応、イヤホンガイドの導入など、おおむね事業目的に沿った成果があがっていると認められる。特に、字幕の導入は伝統芸能、現代舞台芸術の理解を増進する上で、イヤホンガイドは我が国の文化を紹介する上で、有意義な手段と考えられ、今後とも整備していくことが望まれる。なお、国立劇場・新国立劇場の活動を支援する会員組織については、新たな層の開拓も含め増員につい</p>

		て検討していくことが望まれる。
業 務 運 営	運営（理事長等の トップマネジメント）	<p>日本芸術文化振興会のトップマネジメントは、理事長、理事及び監事で行われた。</p> <p>平成15年度は、年度途中における独立行政法人への移行であったが、従来の法人運営について種々の観点から検討し、企画・分析機能の強化のための組織・機構の再編や年度計画達成状況の適切な把握のための月例報告の導入などを行ったことを評価する。また、国際化に対応した、英語版イヤホンガイドの導入（歌舞伎5公演、文楽2公演）や英語版パンフレット等を作成している。さらに、各関係団体との密接な連携協力のもと開催した「歌舞伎400年展」は、平成15年度前半の東京、名古屋に引き続き、広島、金沢で開催し、より多くの国民が歌舞伎の魅力に触れる機会を提供するものであった。</p> <p>今後とも、国立劇場本館、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場、国立劇場おきなわ及び新国立劇場の有機的な連携を図りつつ、各施設の特色を活かした業務運営を行っていくことを期待する。特に、我が国の文化に興味・関心を持つ外国人の来場や国民の芸術文化の理解の増進を図るための対策が望まれる。</p>
	財 務	<p>平成15年度においては、一般競争入札による外部委託の推進、事務の一元化、省エネルギー・リサイクルの推進、汎用品の活用等とともに、公演事業費の節減等にも努め、損益計算の結果、約1億4千万の利益を上げている。また、事業費の効率化については、達成目標である「1%」を大きく上回る「2.2%」の効率を達成している。日本芸術文化振興会の目的は、より良い舞台芸術の創造と普及、芸術文化活動への支援であることは言を俟たないが、効率化等による質の低下は見られなかった。</p> <p>今後とも、劇場利用者へのサービス等の業務の質の向上を考慮しつつ、事業費の効率化とともに外部資金の多角的な獲得が望まれる。</p>
	人 事	<p>日本芸術文化振興会の事務事業は、芸術文化活動への支援、国立劇場本館・国立演芸場・国立能楽堂・国立文楽劇場・国立劇場おきなわにおける伝統芸能の公開・伝承者の養成、新国立劇場における現代舞台芸術の公演・実演家等の研修、さらにはそれらに資するための調査研究、資料の収集・展示等と幅広い。これらが有機的に融合し、適切に運営されるためには、専門的な知識を有する者とそれらを支えていく事務的な能力を有する者が適正に配置されていることが肝要であるが、平成15年度においては、組織の再編とともに、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団との人事交流を行うなど、効果的・効率的な人材活用が十分検討されていたと評価する。また、職員が必ずしも直接携わる必要のない事務事業については、外部委託を積極的に推進している。このことは、限られた人材を有効かつ適切に活用する上で有効な手段であり、その成果をあげていると評価する。</p> <p>今後とも、日本芸術文化振興会の事務事業が適切かつ効果的に実施できるよう、国立劇場本館・国立演芸場・国立能楽堂・国立文楽劇場はもとより、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団をも視野に入れた人材配置が望まれる。</p>
	施 設	<p>日本芸術文化振興会は、劇場利用者へのサービス等の業務の質の向上を図って行くことが求められているが、その物的手段である劇場施設の整備は、入館者の鑑賞環境を向上するとともに、出演者等の安全を確保する上でも重要である。平成15年度においては、施設整備計画に基づき、国立劇場本館大劇場音響設備整備、国立文楽劇場給水設備整備等が行われている。</p> <p>日本芸術文化振興会が設置する劇場施設には、開場後既に40年近く経過したものもある。今後とも、長期的な展望にたつ施設整備計画を作成し、計画的に施設整備を行い、入場者・出演者等の快適性・安全性などを確保していくことが望まれる。</p>
	総 評	<p>日本芸術文化振興会は、年度途中にもかかわらず独立行政法人への移行を円滑に成し遂げ、芸術文化活動への支援、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演や伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等の研修、また、伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施など、事業活動及び業務運営の両面ともに適切に執行・運営し、全般的に見て着実な成果があったものと評価する。</p>

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成15年度に係る業務の実績に関する評価〔項目別評価〕

評価基準について

- A：中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
  - B：中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
  - C：中期計画を十分には履行しておらず、中期目標の達成のためには業務の改善が必要。
- \*特に優れた実績を上げた場合は、A+の評価を付すことができる。  
その場合は、理由等を必ず記述する。  
\*部会として、業務改善の勧告が必要と判断される場合は、C-の評価を付すことができる。  
その場合は、理由等を必ず記述する。

複数の評価がある場合の調整  
委員の協議により、評価を決定する。

定性的評価等

評価を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。  
原則として、Cの評価を受けた項目については、その理由及び改善点、要重点等を記述する。

一般管理費など事務的経費に係る効率化の評価基準

- A：13.5%以上の効率化を達成
  - B：13.0%以上13.5%未満の効率化を達成した場合
  - C：効率化13.0%未満の場合
- \*平成14年度予算を基準として中期計画目標中に13.0%以上の効率化を図る。

事業費に係る1%以上の効率化の評価基準

- A：1.5%以上の効率化を達成した場合
- B：1.0%以上1.5%未満の効率化を達成した場合
- C：効率化1.0%未満の場合

業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	段階的評価	評価		
		A	B	C			定性的	定評等	
1-1. 劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮した業務運営の効率化	業務運営の効率化状況	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評価を決定する			<p>1. 企画・分析機能の強化 従来の法人運営について分析を行った上、今後の機能強化の方策について検討を実施した。その結果、総務部及び経理部の再編により、計画課を新たに設置各部に連絡調整担当課を設け、情報伝達をスピーディに行う各事業の年度計画に対する達成状況を把握するため、役員会において実施状況を毎月報告各公演専門委員会の再編成各事業委員会の再編成</p> <p>の結果を得、 については16年4月から、 については15年10月からの実施となった。 については15年度中に再編成及び設置を行った。また、1月に効率化及び事業の実施状況のヒアリングを行った上で理事長が指示を与え、効率的な運営及びサービスの向上を図った。役員会、部長会の在り方の検討を行い、見直しを図った。</p> <p>2. 情報システムの活用 (1) イン트라ネットの活用 館内LANの有効活用のためのインフラの整備 ・国立劇場、能楽堂、文楽劇場及び新国立劇場との間のネットワークを接続した。 ・各職員が使用するパソコンの整備を進めた。 ・サーバ機器の整備を進めた。 館内LAN、グループウェアの利用 ・グループウェアにより会議室の利用管理を行った。 ・各種告知及び事務連絡のメール、電子掲示板による通知を進め、効率的な事務の遂行を図った。 ・職員が共通で利用・閲覧する文書等を載せる内部ホームページを設置した。 (内部ホームページ活用状況)規程集、内線番号表、事務連絡・通知、各種様式、マニュアル等の最新版を掲載 (2) 基幹業務システムの整備 会計システム、物品管理システム、人事・給与システム、出演料システム、文書管理システムを運用・整備し、業務の効率的な遂行を図った。また、そのための各館における利用環境を同一化した。 (会計システム) 入金、支出、請求書データの入力及び帳票出力収支データの集計等 (物品管理システム) 物品の購入から廃棄にいたるまでのデータの管理 (人事・給与システム) 人事管理、給与計算等 (出演料システム) 源泉徴収の計算、データの蓄積・管理 (文書管理システム) 原議書記案出力、文書の保存データ管理等</p> <p>【特記事項】 情報処理業務管理運用委員会を3月に1回実施し、振興会における情報基盤や文化デジタルライブラリーの整備状況等について報告・審議された。</p> <p>3. 手続きの簡素化 (1) 文書専決規程の見直し 文書専決規程の見直しによって、従来は理事長専決であった事項を業務の重要度を考慮して理事専決とするなど、事務の迅速化を進めた。契約に関する専決権限について、会計規程実施細則と併せて見直しの検討を行う一方、原議書の合議の部署数を厳選し減少させるなど、決裁事務を簡素化した。 (2) 劇場施設の利用に関する規程改正のための見直し 国立劇場本館・演芸場、能楽堂及び文楽劇場の各施設使用規程について、各館の担当者による検討会において申し込み手続き等、運用上による問題点の検討を行った。引き続き16年度において手続きの簡素化、利用者の利便性を高めるため、改正の検討を進めることが確認された。 (3) 旅費支給手続きの見直し 旅費の支給は原則現金で旅行者本人に直接手渡していたが、銀行口座振込みに変更し支給に関する現金の出納事務を簡素化することができた。 (4) 契約に関する事務手続きの見直し ・独立行政法人化に伴い、会計規程及び会計規程実施細則を見直した。具体的には、契約方式の基準を整備し、事務の合理化及び簡素化を図った。 ・一般競争入札参加資格は振興会独自の審査に加え、全省庁統一資格も有効とし、入札参加機会の拡大と同時に手続きが簡素化された。 ・振興会全体の契約書の見直しを行い、記載内容等について統一化を推進した。</p>	A	A	A	<p>日本芸術文化振興会（以下「振興会」という。）の業務運営の効率化については、企画・分析機能の強化のための組織の再編、情報システムの活用、手続きの簡素化、一般競争による外部委託の推進、本館及び演芸場の事務の一元化、省エネルギー・リサイクルの推進、汎用品の活用等、全般的に改善が顕著である。また、外部評価等についても着実に実施されていると認められる。</p> <p>これらにより、事業費の効率化に関し、目標の「1%」を上回る「2.2%減」を達成している。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>振興会の事業の中心が、芸術文化活動に対する支援、伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演など国民に対するサービスの提供であることを認識し、それらに支障が生じないよう、今後とも効率化を図っていくことが望ましい。</p> <p>なお、運営機能の強化、事務の簡素化に対する職員の継続的な意識改善が図られるよう、職員に対する研修については、今後ともさらに徹底を図ることが望まれる。</p>

4. 一般競争による外部委託の推進  
 (1) 施設・設備管理業務に関するより効率的な外部委託の推進  
 15年度の施設・設備管理業務（通年の契約を含む）に関しては、14年度に大幅に導入した一般競争入札を維持している。（契約額300万円以上35件中31件で一般競争入札を導入）  
 15年度の本館及び能楽堂の警備については14年度に引き続いて一括した業務委託を行い、経費を節減できた。16年度分についても同様の入札を実施したが、とくに本館の警備に関しては、伝統芸能情報館の受付業務をも含ませたことで、一層の効率化を図ることができた。  
 なお、国立劇場の電話交換業務に関しては、平成16年度からの全面的な業務委託に向けて、そのための検討準備、入札を行った。  
 (2) 入札情報のホームページへの掲載に関する検討・準備  
 入札公告や入札参加資格基準等に関して、16年度からのホームページにおける掲載に向けて検討した結果、技術面、運用面での問題が解消できたため、計画を前倒しして16年2月から掲載を行っている。  
 2月2日：「一般競争入札有資格者一覧」掲載  
 「競争入札参加に必要な資格について」掲載  
 2月9日：「一般競争入札公告」掲載開始（3月末までの掲載数53件）

5. 事務の一元化  
 (1) 決算事務  
 決算事務に関しては、従来は各館個別のシステムで対応していたが、独立行政法人化に伴って導入した統一した会計システムにより効率的な事務を進めることができた。  
 (2) 調達事務  
 組織の見直しの検討の結果、本館及び演芸場の各部課で行っていた契約事務を一元的に取り扱う契約課の設置が決定された。（16年4月設置予定）  
 (3) 文書管理事務  
 文書管理システムにより、情報公開を含めて適切な文書管理を一元的に実施している。日常の作業とともに、法人文書ファイル管理簿の更新に向けた作業を効率的に進めることができた。

6. 省エネルギー、リサイクルの推進  
 (1) 光熱水量  
 ・電気使用量  
 本館・演芸場 2,426,648kwh（前年度比 1.84%減）  
 能楽堂 461,064kwh（前年度比 5.76%減）  
 文楽劇場 1,262,930kwh（前年度比 6.84%増）  
 合計 4,150,642kwh（前年度比 0.17%増）  
 ・ガス使用量  
 本館・演芸場 19,548㎡（前年度比 15.87%減）  
 能楽堂 46,349㎡（前年度比 14.38%減）  
 文楽劇場 64,245㎡（前年度比 4.96%減）  
 合計 130,142㎡（前年度比 10.23%減）  
 ・水道使用量  
 本館・演芸場 42,427㎡（前年度比 0.94%増）  
 能楽堂 4,458㎡（前年度比 5.93%減）  
 文楽劇場 9,847㎡（前年度比 3.85%増）  
 合計 56,732㎡（前年度比 0.86%増）  
 （14年度は伝統芸能情報館が本格稼働していなかったため、14年度・15年度ともに伝統芸能情報館の使用量を除いた実績である。）  
 ・光熱水量の節減のため、次のような取り組みを行った。  
 （共通） 交換の際の電気製品について省エネタイプを採用  
 節電節水に対する意識向上のための掲示  
 （本館・演芸場）空調稼働時間の短縮  
 劇場使用後の速やかな消灯の推進  
 （能楽堂） 照明の点滅に人感センサー利用（4箇所）  
 （文楽劇場） 空調稼働時間の短縮  
 (2) 廃棄物  
 ・一般廃棄物 165,128kg（対前年度比 9.13%減）  
 うち資源ゴミ 26,783kg（対前年度比 54.14%減）  
 ・産業廃棄物 23,156kg（対前年度比 43.00%減）  
 うち資源ゴミ 11,400kg（対前年度比 63.25%減）  
 ・コピー枚数 1,508,910枚（対前年度比 9.67%増）  
 うち事務所部分 506,528枚（対前年度比 18.05%増）  
 ・廃棄物の減量化のため、ペットボトル等の分別収集の徹底、会議資料の両面印刷、反古紙の再利用の促進等を行った。なお、コピー枚数の増加は、15年度上半期決算作業等独立行政法人化及び基金の審査資料の増加等による。  
 (3) ペーパーレス化の推進  
 振興会法規集、各種事務連絡・通知、マニュアル、公演月間予定表、公演タイムテーブル等をデータ化し、館内LANでの運用を始めた。  
 (4) グリーン購入法に基づいた調達  
 チケット用紙など特殊な仕様をのぞき、グリーン調達法に基づいた調達率がほぼ100%となっている。  
 【特記事項】  
 コピーについては両面コピーを推進するなど節減に努め、用紙代としては1,025,279円で、対前年度比で362,715円の減とすることができた。

7. 汎用品の活用等業務運営の効率化対策  
 (1) 音響調整卓の調達にあたり、調整卓そのものは汎用品ではないものの、劇場の機器仕様、システム構成及び汎用品のスペックを考慮し、その部品については可能な限り汎用品を用いることができるようにした。  
 (2) 映像記録関係のカメラ、ハイビジョンモニター、カメラ用モニターやマイク等について、従来はプロ仕様の製品を利用していたが、今年度から使用に耐えうる民生機器を精査の上、積極的に採用した。  
 (3) インターネットによるチケットの販売について、劇場独自のシステム開発を行わず、広く顧客に認知されている既存のインターネット販売システムを利用することで経費を抑えることができた。  
 (4) 事務用品については、基本的に全て汎用品を調達した。

	一般管理費など事務的経費の効率化の達成率	13.5%以上	13.0%以上 13.5%未満	13.0%未満	効率化計数計算式 (A - B) ÷ A【一般管理費の効率化の達成率】 A:19年度一般管理費決算額 B:14年度一般管理費予算額 事業年度の評価は実施しない。 中期目標最終年度において評価。		
	事業費の効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	効率化計数計算式 (A - B) ÷ A A:(当該年度事業費予算額(退職手当を除く) - 当該年度特殊要因予算額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 B:(当該年度事業費決算額(退職手当を除く) - 当該年度特殊要因決算額) (A - B) ÷ A = 0.0220 2.2%減 事業費予算額(退職手当を除く) 特殊要因予算額 次年度債務繰越額 A:(6,112,106,000 - 0 - 75,621,697) ÷ 0.99 = 6,097,458,892 (単位:円) 事業費決算額(退職手当を除く) 特殊要因決算額 B: 5,963,159,924 - 0 = 5,963,159,924 (単位:円)	A	
1-2. 効率化の進捗状況を踏まえた組織機構の検討	組織機構の在り方の検討状況	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評価を決定する		効率的な法人運営のための組織機構の在り方について理事長を中心に人員配置等の視点から検討を行い、次の結果を得た。 ・評価関係の対応業務など事業運営機能を充実するための計画課の設置 ・本館、演芸場の契約事務を一元的に取り扱う契約課の設置 ・国立劇場おきなわ開場(16年1月)に伴い、国立劇場おきなわ担当室を廃止して総務課に国立劇場おきなわ係を設置 ・国立演芸場部の舞台技術課を舞台技術係として演芸課に整理・統合 ・国立能楽堂部の舞台技術課を舞台技術係として管理課に整理・統合 上記のいずれについても16年4月からの実施が決定された。	A		
2. 外部評価の実施、職員の意識改革	外部評価の実施状況	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評価を決定する		1. 自己点検評価実施規程の整備等 業務運営の効率化及び国民に対するサービスの質の向上へ向けた改善を図るため、各事業年度終了後に自己点検評価を行うこととし、15年度の実績に関する自己点検評価に向けて、自己点検評価実施規程を整備した。 また、年度中においても、事業の実施状況の把握により年度計画の達成状況を点検し、機能的な法人運営を行うため、毎月の役員会で各事業の実施状況を報告した。 2. 評価委員会の設置 独立行政法人日本芸術文化振興会評議員会規則(平成15年10月1日評議員会決定)に基づき、独立行政法人日本芸術文化振興会評価委員会を設置した。15年度の開催回数は1回(15年12月)で、振興会の業務及び評価に関する説明を行った。 3. 各公演専門委員会の設置・開催 15年度計画に対する公演事業の達成状況について、意見聴取を行った。 歌舞伎 2回開催、16年2月・3月 文楽 (本館) 2回開催、16年2月・3月 (文楽劇場) 2回開催、16年1月・3月 雅楽・声明 2回開催、16年1月・3月 邦楽 2回開催、16年1月・3月 舞踊 2回開催、16年1月・3月 民俗芸能 2回開催、16年1月・3月 大衆芸能 2回開催、16年1月・3月 能楽 2回開催、16年2月・3月 短期公演(文楽劇場) 2回開催、16年1月・3月 4. 各事業委員会の設置・開催 15年度計画に対する公演事業の達成状況について、意見聴取を行った。 国立劇場養成事業委員会 1回開催、16年3月 国立劇場調査事業委員会 1回開催、16年3月 新国立劇場調査事業専門委員会 1回開催、16年3月	A	A	
	職員に対する研修の実施状況	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評価を決定する		1. 劇場利用者等へのサービスの質の向上を図るため、内部研修を次のとおり実施した。 (本館)職員フォローアップ研修 2日 24人 自衛消防訓練 2日 240人 セクシャルハラスメント職員防止研修 2日 105人 メンタルヘルス職員研修 1日 16人 (能楽堂)応急救護研修・自衛消防訓練 1日 35人 (文楽劇場)観客サービス研修 1日 8人 電話マナー研修 1日 7人 自衛消防訓練 1日 40人 2. 専門的知識の習得等による円滑な業務の遂行を図るため、会計及び人事を中心に、外部の研修へ職員を次のとおり派遣した。 ・財務省関係法人関係事務職員研修 45日 1人 ・給与関係実務研修会 8日 19人 ・各政府関係機関等内部監査業務講習会 5日 1人 ・公正採用選考人権啓発推進員研修 1日 2人 ・パートタイム労働者雇用管理改善セミナー 1日 2人 ・セクシャルハラスメント防止実践講習会 1日 2人 ・特別管理産業廃棄物管理責任者研修会 1日 1人 ・人権に関する国家公務員等研修会 1日 2人	A		

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	段階的評価	評 定 性 的 評 定 等																																																																						
		A	B	C																																																																									
1. 芸術文化活動に対する支援	(1)-1 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成金の交付実施状況	〔振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕			1. 15年度助成金の交付実績（15年10月1日以降分） (1) 舞台芸術振興事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>交付件数 (件)</th> <th>助成交付金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音 楽</td> <td>22</td> <td>192,000</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>21</td> <td>85,500</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>41</td> <td>234,000</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>84</td> <td>511,500</td> </tr> </tbody> </table> (2) 芸術文化振興基金 <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>交付件数 (件)</th> <th>助成交付金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術創造普及活動</td> <td>137</td> <td>479,500</td> </tr> <tr> <td>地域文化振興活動</td> <td>89</td> <td>93,700</td> </tr> <tr> <td>文化振興普及団体活動</td> <td>79</td> <td>99,300</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>305</td> <td>672,500</td> </tr> </tbody> </table> 2. 15年度助成対象活動の募集実績 (1) 舞台芸術振興事業 <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>応募件数 (件)</th> <th>採択件数 (件)</th> <th>助成金交付予定額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音 楽</td> <td>111</td> <td>25</td> <td>216,500</td> </tr> <tr> <td>舞 踊</td> <td>60</td> <td>23</td> <td>107,500</td> </tr> <tr> <td>演 劇</td> <td>230</td> <td>42</td> <td>286,000</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>401</td> <td>90</td> <td>610,000</td> </tr> </tbody> </table> (2) 芸術文化振興基金 <table border="1"> <thead> <tr> <th>助成対象分野</th> <th>応募件数 (件)</th> <th>採択件数 (件)</th> <th>助成金交付予定額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芸術創造普及活動</td> <td>1,040</td> <td>333</td> <td>948,000</td> </tr> <tr> <td>地域文化振興活動</td> <td>321</td> <td>212</td> <td>230,000</td> </tr> <tr> <td>文化振興普及団体活動</td> <td>317</td> <td>204</td> <td>216,500</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,678</td> <td>749</td> <td>1,394,500</td> </tr> </tbody> </table> (3) 募集案内の作成に当たっては、運営委員会等における改善意見等を踏まえ、全体の紙面構成の見直し及び分野別の記入例を設けるなど、利便性の向上に向け内容の改善・充実を図った。 (4) 助成対象活動の募集に当たっては以下の点に考慮のうえ実施。 ア：芸術団体等の自主性を尊重し、活動目的及び内容等に関する助言については、極めて慎重に対応する。 イ：都道府県経由で応募のあった地域文化活動及び文化振興普及団体活動について、都道府県担当者からのヒアリングを実施する。 ウ：同一の活動に対して、文化庁の助成と重複して行わないことを明確にする。	助成対象分野	交付件数 (件)	助成交付金額 (千円)	音 楽	22	192,000	舞 踊	21	85,500	演 劇	41	234,000	合 計	84	511,500	助成対象分野	交付件数 (件)	助成交付金額 (千円)	芸術創造普及活動	137	479,500	地域文化振興活動	89	93,700	文化振興普及団体活動	79	99,300	合 計	305	672,500	助成対象分野	応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)	音 楽	111	25	216,500	舞 踊	60	23	107,500	演 劇	230	42	286,000	合 計	401	90	610,000	助成対象分野	応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)	芸術創造普及活動	1,040	333	948,000	地域文化振興活動	321	212	230,000	文化振興普及団体活動	317	204	216,500	合 計	1,678	749	1,394,500	A	芸術文化活動を支援するための助成金の交付については、募集のための広報活動、審査の客観性・透明性の確保のための運営委員会及び4部会・11専門委員会の設置、審査後の助成対象活動・助成金の額・審査委員・審査経過等の公表などが、適切に行われていると認められる。 また、基金の管理運用にも成果をあげ、現下の厳しい経済情勢のなかで、年度計画を上回る増収を図っている。 【より良い事業とするための意見等】 今後とも、交付事務の一層の効率化、簡素化に努めるとともに、基金の運用については、安全性に配慮しつつ、効果的に行われることが望ましい。 また、舞台芸術振興事業と芸術文化振興基金の役割の一層の明確化とともに、全国的な視野に基づく広報活動の充実についての検討が望まれる。
	助成対象分野	交付件数 (件)	助成交付金額 (千円)																																																																										
	音 楽	22	192,000																																																																										
舞 踊	21	85,500																																																																											
演 劇	41	234,000																																																																											
合 計	84	511,500																																																																											
助成対象分野	交付件数 (件)	助成交付金額 (千円)																																																																											
芸術創造普及活動	137	479,500																																																																											
地域文化振興活動	89	93,700																																																																											
文化振興普及団体活動	79	99,300																																																																											
合 計	305	672,500																																																																											
助成対象分野	応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)																																																																										
音 楽	111	25	216,500																																																																										
舞 踊	60	23	107,500																																																																										
演 劇	230	42	286,000																																																																										
合 計	401	90	610,000																																																																										
助成対象分野	応募件数 (件)	採択件数 (件)	助成金交付予定額 (千円)																																																																										
芸術創造普及活動	1,040	333	948,000																																																																										
地域文化振興活動	321	212	230,000																																																																										
文化振興普及団体活動	317	204	216,500																																																																										
合 計	1,678	749	1,394,500																																																																										
(1)-2 助成金交付事務の効率化・簡素化状況	〔振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕	助成金交付申請書受理から交付決定までの期間について短縮を図るための検討 ア：部長及び課長からなるワーキング・グループを部内に設置した。 イ：事務の効率化・簡素化に向けた施策の検討の結果、部内決裁を見直すなどの対応をとることにした。			A																																																																								
交付申請書受理から交付決定までの期間の効率化の達成状況	60日未満 60日以上 87日未満 87日以上	(平成14年度実績 約60日) *15年度は評定を実施しない。																																																																											
(2) 審査における客観性及び透明性を確保するための体制の整備等	〔振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する〕	助成金交付に関する体制整備について (1) 舞台芸術振興事業助成金交付要綱及び同取扱細則並びに芸術文化振興基金助成金交付要綱及び同取扱細則の制定（10月1日付）ホームページにおける公表 (2) 芸術文化振興基金運営委員会及び次の4部会、11専門委員会を設置し、次のとおり審査を行った。 舞台芸術等部会（2回開催・3月） ア：音楽専門委員会（2回開催・12月、2月） イ：舞踊専門委員会（2回開催・11月、3月） ウ：演劇専門委員会（2回開催・11月、3月） エ：伝統芸能専門委員会（2回開催・12月、3月） オ：美術専門委員会（2回開催・11月、2月） 映像芸術部会（1回開催・3月） ア：劇映画専門委員会（2回開催・11月、3月） イ：記録映画専門委員会（2回開催・12月、3月） ウ：アニメーション映画専門委員会（2回開催・12月、3月） 地域文化・文化団体活動部会（1回開催・3月） ア：地域文化活動専門委員会（2回開催・12月、2月） イ：文化団体活動専門委員会（2回開催・11月、3月） 文化財部会（1回開催・3月） ・文化財保存活用専門委員会（2回開催・11月、2月） (3) 15年度助成対象活動の決定に係る審査経過及びその公表 4月8日付で助成対象活動について公表。 広報誌「芸術文化振興基金 18」（6月30日発行）に、助成対象活動一覧のほか審査経過等について掲載。あわせてホームページにおいても公表。 (4) 16年度助成対象活動の決定に係る審査経過・公表状況 [16年度助成対象活動の審査状況]			A																																																																								

11月中旬～12月中旬	各専門委員会において「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。
1月中旬～2月初旬	各専門委員会による応募活動1件ごとの事前審査。
2月初旬～3月中旬	各専門委員会において専門委員の事前審査結果をもとに、合議により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。
2月24日	運営委員会開催 「芸術文化振興基金助成金交付の基本方針」を引続き踏襲することについて、審議、決定。 応募状況についての報告及び助成金の分野別配分について審議、決定。
3月中旬～3月下旬	各部会において助成対象活動の採否及び助成金額の審議。
3月24日	運営委員会開催 ・助成対象活動について審議、決定。16年4月8日付公表。

(3) 基金の管理運営

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

芸術文化振興基金の管理運営について(15年10月1日以降分)  
 (1) 運用実績  
 ・運用実績：924百万円(運用利回り2.49%)、計画より29百万円の増収  
 ・当初計画：895百万円(運用利回り2.42%)  
 (2) 資金内容及び経済情勢の把握  
 基金の預け先である金融機関からの情報収集、打合せを密に行うことで、資金内容及び経済情勢の把握に努めた。その結果、償還された資金のスムーズな再投資や新たな外国債の組み入れなどに取り組み、運用利回りを上げることができた。  
 (3) 運用方針の検討状況  
 15年度運用資金の運用については、現在の経済状況等を考慮すると国内債券の低金利状況は今後しばらく継続すると考えられることから、ある程度の金利水準を確保できる外国債(仕組債)に再投資を行う。なお、外国債の運用に当たっては、信用リスクを極力排除する観点から国際格付会社による格付けがAAA以上を対象とする

A

(4)-1 助成対象活動の実施状況等の調査

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

(1) 助成対象活動への調査等実施状況(15年10月1日以降分)  
 ア：会計調査：17件  
 イ：公演等調査：24件  
 (2) 外部委託による都道府県・政令指定都市・中核都市における助成事業の現状についてのアンケート調査の実施(3月)

A

(4)-2 芸術団体等に対する各種情報等の提供

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

芸術文化振興基金の広報活動について  
 (1) 基金による助成事業の概要等を紹介したチラシ(2種類)を作成  
 (2) 広報誌「芸術文化振興基金 18」を発行(6月30日)し、15年度助成対象活動の決定等の記事掲載。  
 (3) 「日本芸術文化振興会ニュース」及び「文化庁月報」へ、基金の概要、助成対象活動の募集案内等の記事掲載(毎月)  
 (4) 専門誌(17誌)への16年度募集案内の記事掲載(10月上旬～11月下旬)  
 (5) NHK(本局・支局)における16年度募集案内広報の放送(10月下旬)  
 (6) 16年度助成対象活動募集説明会の開催  
 (大阪)10月2日：映画の製作活動を除く芸術団体等対象(会場：プリムローズ大阪)  
 (東京)10月7日：映画の製作活動を除く芸術団体等対象(会場：こまばエミナースホール)  
 10月9日：映画の製作活動対象(会場：伝統芸能情報館)  
 10月14日：都道府県、政令指定都市担当者対象(会場：伝統芸能情報館)  
 (7) 基金部ホームページの刷新  
 デザインの変更及び全体構成の見直し  
 ・15年度アクセス実績：20,236件(目標：15,000件)  
 助成金交付要綱等の掲載  
 各種募集案内書及び要望書等書式の掲載(ダウンロードによる使用が可能)  
 16年度募集案内の掲載

B

ホームページへのアクセスの達成状況

15,000件以上	10,500件以上 15,000件未満	10,500件未満
-----------	------------------------	-----------

【基金トップページへのアクセス件数】平成15年度実績 20,236件(目標15,000件)

A

2. 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1)-1 伝統芸能の公開

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

(1) 伝統芸能の公開

分野	公演数	公演回数	公演日数	入場者数	目標入場者数
歌舞伎	5公演	127回	115日	108,161人	121,300人
文楽	5公演	173回	86日	78,034人	68,600人
舞踊・邦楽・雅楽	11公演	20回	16日	8,844人	8,830人
・声明・民俗芸能・特別企画					
大衆芸能	33公演	165回	148日	20,120人	18,500人
能楽	25公演	27回	26日	16,080人	15,800人
国立劇場おきなわ開場記念公演	8公演	26回	21日	14,146人	12,600人
合計	87公演	538回	412日	245,385人	245,630人

(2) 新作歌舞伎脚本の募集  
 新作歌舞伎脚本 応募：44篇、表彰：佳作3篇  
 大衆芸能の新作脚本 応募：130篇、表彰：(落語部門)優秀作1篇、佳作1篇 (講談部門)佳作3篇 計5篇

(3) アンケート調査

分野	実施回数	回答数	配布数	回収率	概ね満足との回答
歌舞伎	1回	380人	977人	38.9%	92.1%(350人)
文楽	6回	789人	2,903人	27.2%	90.7%(716人)
舞踊・邦楽・雅楽	4回	461人	2,149人	21.5%	87.0%(401人)
・声明・民俗芸能					
特別企画					
大衆芸能	9回	869人	2,149人	40.4%	90.9%(790人)
能楽	3回	486人	1,910人	25.4%	86.4%(420人)

A

A  
 伝統芸能の公開については、企画に工夫があり、国立劇場ならではの演目、演出選定であった。一部の公演について、企画意図が舞台成果に結び付かず、また入場者数が目標に達しないものもあったが、全般的には企画意図に沿って制作・実施されている。さらに、公演以外の事業についても、その目的に沿った成果があがっていると認められる。  
 なお、国立劇場おきなわの開場は、国の重要無形文化財である組踊をはじめ、特色ある地域文化の再発見・保護のために画期的である。  
 【より良い事業とするための意見等】  
 今後とも、公演については企画意図に沿った制作・実施が、また公演以外の事業についてもその目的に沿って、いずれも効果的に行われることが望ましい。  
 なお、入場者数が目標に達しなかった公演については、その理由を調査・分析し、次の公演の実施に反映させることが望ましい。

国立劇場おきなわ 開場記念公演	8回	1,485人	4,541人	32.7%	67.6% (1,000人)
合計	31回	4,470人	14,629人	30.6%	82.3% (3,677人)

- (4) 外部団体との連携協力
- ・平成15年度文化庁芸術祭主催公演 4公演
  - ・平成15年度文化庁芸術祭協賛公演 23公演
  - ・国・地方自治体等の後援・協力等 13公演
  - ・外部団体主催公演への協力 5公演

・歌舞伎

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

10月歌舞伎公演「通し狂言 競伊勢物語」

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
10月3日～10月27日	31回	24日	35,585人	35,000人	81.2%

会場 本館大劇場  
入場料 特別席12,000円、1等A席9,200円、1等B席6,100円、2等席2,500円、3等席1,500円

制作意図

国立劇場の歌舞伎制作の基本方針の一つである古典の復活を企図する。出演の市川猿之助一門の特色を生かし、観客の期待も大きいスペクタクル性を兼ね備えた公演制作を目指す。

外部専門家等の意見

廃絶が危惧された「春日村」を含む通し狂言としての復活には大きな意義があり、国立劇場としての役割を果たした。原作の複雑な筋立てがわかりやすく整理され、若手の多い陣容にもかかわらず相当の舞台成果を挙げたが、「春日村」とその他の場面との間に少々違和感があった。宣伝も積極的に公演の充実に側面から寄与していた。

アンケート調査 実施せず

【特記事項】

平成15年度文化庁芸術祭主催公演。宙乗りを7年振りに実施。この公演の成果により、出演の市川猿之助が朝日舞台芸術賞、同じく中村東蔵が松尾芸能賞、脚本の石川耕士が芸術選奨新人賞を受賞した。

A

入場者数が目標に達しない公演もあったが、古典の復活を企画した「競伊勢物語」、脚本解釈や演出を新たな視点から見直した「天衣紛上野初花」、近年上演が途絶えていた「二蓋笠柳生実記」の復活、歌舞伎の多様性を意図した「加賀見山田錦絵」など、5公演とも企画性があり、かつ舞台成果もあげている。特に「競伊勢物語」の約120年振りの復活は、高く評価され、出演の市川猿之助、中村東蔵、演出の石川耕士がそれぞれ斯界を代表する賞を受賞している。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、観客のニーズの把握に努めるとともに、適切な入場者の目標値を設定し、広報活動を含め、その達成に努力することが望ましい。

なお、入場者数が目標に達しなかった公演については、その理由を調査・分析し、次回の公演の実施に反映させることが望まれる。

11月歌舞伎公演「通し狂言 天衣紛上野初花」

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
11月3日～11月25日	24回	22日	20,789人	26,700人	56.8%

会場 本館大劇場  
入場料 特別席12,000円、1等A席9,200円、1等B席6,100円、2等席2,500円、3等席1,500円

制作意図

二人の主人公河内山と直侍の筋が別々に上演されることの多いこの作品を通し狂言として上演することにより、作品の全体像を示す。また、境遇は全く違うが同じ時代に生きたこの二人を一人の俳優が演じることによって、異なる役柄として演じられるこの二役に共通する、悪に走った幕末の人間達の生き様が浮かび上がり、黙阿弥劇の新しい視点が見えてくるのではないかと考える。

外部専門家等の意見

脚本の解釈や演出を新しい視点から見つめ直すことで、今までとは違った価値が見えてくることもあるので、試みそのものは否定できないが、河内山と直侍の二役を一人の俳優が兼ねるのはやや無理があった。二人が揃う「吉原田圃の場」が犠牲になったり、河内山と直侍の筋が有機的に絡まってこないといった欠点を補うだけの効果を感じられなかった。

アンケート調査 実施せず

【特記事項】

平成15年度文化庁芸術祭協賛公演。セーレン株式会社より宣伝・広報等への協力など、公演協賛を得た。

12月歌舞伎公演「通し狂言 二蓋笠柳生実記」

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
12月3日～12月26日	23回	23日	17,773人	19,700人	50.6%

会場 本館大劇場  
入場料 特別席12,000円、1等A席9,200円、1等B席6,100円、2等席2,500円、3等席1,500円

制作意図

近年上演が途絶え、斯界で復活が切望されていた「二蓋笠柳生実記」を、通して復活上演する。年の瀬の12月という時期を考慮し、娯楽性豊かな、肩のこらない作品作りを目指す。

外部専門家等の意見

上方狂言の復興という国立劇場ならではの企画で、役者と配役のバランスもよく、華やかで面白い舞台となった。菊五郎劇団と上方狂言の組み合わせは違和感があるが、埋もれていた演目を今日的に発掘したという意味において、それを越える意義と成果があり、公演に対する姿勢は評価に値する。今後もこつこつという形での発掘を望む。

アンケート調査

12月17日実施  
回答数380人（配布数977人、回収率38.9%）  
92.1%の観客より概ね満足との回答を得た（350人）

初春歌舞伎公演「浮世柄比翼稲妻・新古演劇十種の内 戻橋」

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
1月3日～1月27日	24回	24日	20,566人	23,400人	58.2%

会場 本館大劇場  
入場料 特別席12,000円、1等A席9,200円、1等B席6,100円、2等席2,500円、3等席1,500円

制作意図

国立劇場における歌舞伎公演の基本方針の一つである通し狂言と、人間国宝中村芝翫の極め付きの芸を堪能できる作品を併せて上演する。両花道を使用し、初春公演らしい華やかな舞台作りを目指す。

外部専門家等の意見

若手を代表する演者の競演による半通し上演と当代きっての女方の技芸を見せる舞踊の二本立ては、適材適所の配役と充実した演技により、華やかで引き締まった内容の公演として評価できる。しかし、両作品ともに季節感に対する配慮が欠けていたことは否めず、特に初春公演については、それを意識した季節にふさわしい演目が望まれる。

アンケート調査 実施せず

【特記事項】  
3年振りに両花道を使用した。

3月歌舞伎公演「通し狂言 加賀見山旧錦絵」  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
3月4日～3月26日	25回	22日	13,448人	16,500人	35.4%

会場 本館大劇場  
入場料 1等A席8,500円、1等B席6,100円、2等席2,500円、3等席1,500円

制作意図  
人気狂言である「加賀見山旧錦絵」に通常とは違う演出方法があること、つまり、歌舞伎の演出の多様性を提示し、また、上方歌舞伎の第一人者中村鴈治郎の監修の下、若手花形俳優がみな初役でそれぞれの役に取り組み、両面から、歌舞伎のレパートリーの拡充を目指す。  
外部専門家等の意見  
若手中心で「上方風」の演出に挑戦し、作品解釈にも一石を投じたという意味で、非常に意義のある公演だった。同じ演目でも様々なやり方があるということをもっとアピールすれば初心者にも親切であった。演じ込みが足りずに上方の面白さを出し切れなかったというらみはあったが、翫雀・扇雀・亀治郎を中心に、期待に応える好演だった。  
アンケート調査 実施せず

入場者数の達成状況	121,300人以上	84,910人以上 121,300人未満	84,910人未満
-----------	------------	-------------------------	-----------

平成15年度実績 108,161人(目標 121,300人)

B

・文 楽

(振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する)

11月文楽公演 第1部「平家女護島」「鍵の権三重帷子」「五十年忌歌念仏」  
第2部「嬬山姥」「大経師昔暦」  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
11月2日～11月24日	44回	22日	14,878人	15,700人	46.3%

会場 文楽劇場  
入場料 1等5,800円、2等2,300円

制作意図  
芸術シーズン中の11月文楽公演には、近松門左衛門の生誕350年、没後280年を記念し、「近松名作集」として第1部・第2部ともすべて近松作品を取り上げる。わが国が誇る大作家の築き上げた偉業の中から、初心者にも判りやすい作品を取り上げ上演する。  
外部専門家等の意見  
「近松名作集」としての企画は大阪では比較的珍しく、評価できる。だが、各作品の上演間隔からくる制約にもよるだろうが、上演作品5本のうち3本が昭和の復活物であることは、一考を要する。また、中堅の人形遣いに対し、各作品の大役に抜擢し、各々がその大役を勤め上げたことは、後継者を育てるという観点からも充分評価できる。  
アンケート調査  
11月8日(第2部)・9日(第1部)実施  
回答数172人(配布数856人、回収率20.1%)  
88.4%の観客より概ね満足との回答を得た(152人)

【特記事項】  
関西元氣文化圏共催事業、平成15年度文化庁芸術祭主催、平成15年度大阪文化祭参加。  
この公演中の11月7日に、ユネスコから人形浄瑠璃文楽が「世界無形遺産」の宣言を受けた。  
また、国立文楽劇場開場以来、皇族として初めて秋篠宮殿下同妃殿下が来場され、「平家女護島」を観劇された。

A

12月文楽公演「ひらかな盛衰記」(大津宿屋、笹引、松右衛門内、逆櫓)  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
12月4日～12月16日	13回	13日	5,732人	5,300人	78.2%

会場 本館小劇場  
入場料 1等席5,000円、2等席4,400円、3等席1,500円

制作意図  
今後の文楽で中心的な役割を担って行く50歳代以下の芸員に普段の公演では勤めることのないような役をつけ、その実力の向上を図るとともに、そのような世代への支持者の拡大を図る。  
外部専門家等の意見  
他の月の公演とは異なり、中堅、若手を抜擢した公演。大夫、三味線、人形とも総じて若さと意欲が漲る舞台であった。限られた時間の「半通し」ではあったが、古典の時代物らしい骨太のドラマが浮かび上がり近年の12月公演では出色の出来。  
アンケート調査 実施せず

1月文楽公演 第1部「寿式三番叟」「染模様妹背門松」「壇浦兜軍記」  
第2部「良弁杉由来」「八百屋献立」  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
1月3日～1月25日	44回	22日	21,964人	18,200人	68.3%

会場 文楽劇場  
入場料 1等5,800円、2等2,300円

制作意図  
1月文楽公演は、国立文楽劇場開場20周年記念公演の第一弾として、第1部・第2部とも初春にふさわしい豪華演目を取り上げる。人間国宝クラスの至芸はもちろん、中堅・若手芸員への伝承も視野に入れた適材適所の配役で上演する。  
外部専門家等の意見  
演目が、正月らしいご祝儀物、古典でも華やかな作品、親子の情愛を描くもの、異色作などバラエティに富んでおり、文楽の幅広さがよく立証された狂言建てであった。また、ユネスコの「世界無形遺産」宣言効果も出て、外国人観客も増加し、正月らしい賑わいがある劇場風景をかもしだした。  
アンケート調査  
1月7日(第1部)・13日(第2部)実施  
回答数213人(配布数1,145人、回収率18.6%)  
92.0%の観客より概ね満足との回答を得た(196人)

近松門左衛門の生誕350年を記念した「近松名作集」、中堅・若手芸員の実力向上のための「ひらかな盛衰記」、文楽の幅広さを示した「1月文楽公演」など、各公演とも企画性があり、1公演を除き、入場者数も目標を上回って好成績を残した。

【より良い事業とするための意見等】

文楽の芸員は世代交代を迎えていると思われるので、長期的な展望を持ち、一層の企画力、宣伝力の向上が望まれる。  
また、初心者や外国人向けに工夫するとともに、アンケートを通じた観客の動静把握を図ることがより一層望まれる。

【特記事項】  
 関西元気文化圏共催事業、国立文楽劇場開場20周年記念公演（第一弾）

2月文楽公演 第1部「国性爺合戦」、第2部「曾根崎心中」、第3部「仮名手本忠臣蔵八・九段目」  
 期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
2月7日～2月22日	48回	16日	24,189人	18,000人	90.0%

会場 本館小劇場  
 入場料 1等席5,000円、2等席4,400円、3等席1,500円

制作意図  
 時間的に制約のある3部制公演で、観客の満足度を意識しながら、かつ出演者の実力を十分に発揮できる演目の選考につとめる。  
 外部専門家等の意見  
 見ごたえのある名作ぞろいの公演だった。広く文楽の面白さを認識させようという意図は成功した。人間国宝の活躍と若手の向上が印象的。  
 アンケート調査  
 2月17日（第1部・第2部）実施  
 回答数404人（配布数902人、回収率44.8%）  
 91.1%の観客より概ね満足との回答を得た（368人）

入場者数の達成状況

57,200人以上	40,040人以上 57,200人未満	40,040人未満
-----------	------------------------	-----------

平成15年度実績 66,763人  
 （目標 57,200人）

A

- ・舞 踊
- ・邦 楽
- ・雅 楽
- ・声 明
- ・民俗芸能
- ・特別企画

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

（舞 踊）  
 10月舞踊公演「特選！名流舞踊鑑賞会」  
 期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
10月11日	2回	1日	1,202人	800人	88.8%

会場 文楽劇場  
 入場料 一般 6,100円

制作意図  
 上方舞四流（井上、榎茂都、山村、吉村）をはじめ東西の諸流の実力者や、第一人者による演奏者が一堂に会する豪華な顔触れを揃え、演目も、座敷舞や歌舞伎舞踊の大曲で構成する。一般の観客が日本舞踊の魅力や存在に堪能できる公演とし、その普及・振興に努め、演者のみならず観客の育成にも努める。  
 外部専門家等の意見  
 上方舞四流の違い、特色が見られた。次代のホープたちの活躍は、世代交代を如実に感じさせた。また、井上八千代が珍しい「お七」を見せてくれたのが興味深かった。一般に、舞踊の会は個人の会や発表会形式が多く、外に向かって開かれていないため、舞踊鑑賞者が育たず、観客層が固定化するきらいがある。その中で流儀を超え、一流の舞踊家が揃う国立文楽劇場の「名流舞踊鑑賞会」の意義は大きい。  
 アンケート調査  
 10月11日（13時・17時開演）実施  
 回答数67人（配布数1,025人、回収率6.5%）  
 89.6%の観客より概ね満足との回答を得た（60人）

【特記事項】  
 関西元気文化圏共催事業、平成15年度文化庁芸術祭協賛、平成15年度大阪文化祭参加。

A

11月舞踊公演「舞の会 - 京阪の座敷舞 - 」  
 期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
11月29日	2回	1日	1,118人	1,100人	94.1%

会場 本館小劇場  
 入場料 一般5,500円 学生4,400円

制作意図  
 「舞」は、江戸歌舞伎の中で育った動的な「踊」とは対照的に、花街の座敷芸の中で発達した独自の静の世界がある。日本舞踊の中でも重要な位置を占めている「舞」を国立劇場舞踊公演の一つの柱として取り上げ、上方の芸能を觀賞するとともに、現在集め得る最高の舞い手と今後の活躍が期待される若手を抜擢した構成で、これまで継承されてきた演目や技芸を後世に伝える。  
 外部専門家等の意見  
 各流派の個性が出ており、公演時間もちょうど良く、舞台もシンプルの中に変化がある。地域性が感じられて良い。新しい出演者も開拓し、今のところこのような形で良い。タイトルを含め「舞」（座敷）ということが東京の人に受けた。東京の「舞」を含め、今後どのように発展させていくか。国立劇場で舞い手及び地方も育てて欲しい。  
 アンケート調査 実施せず

【特記事項】  
 平成15年度文化庁芸術祭協賛公演。  
 京阪を代表する四流派の最高峰に位置する舞い手の競演。国立劇場開場以来継続している公演である。

3月舞踊公演「素踊りの会」  
 期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
3月6日～3月7日	2回	2日	824人	900人	69.8%

会場 本館小劇場  
 入場料 一般5,500円 学生4,400円

制作意図  
 「素踊り」とは、基本的に大道具を使わず、役柄の衣裳を着けず、歌舞伎舞踊よりも技法的に繊細な感覚を備えているため、舞踊家の技量が問われるごまかしのきかない厳しい世界。その様式は今日では日本舞踊の一つの分野として形成されている。この公演では日本舞踊界の最高水準の技術を持つ出演者が一堂に会し、古典演目を基本とした代表的な演目を上演することで、芸術性を前面に打ち出し、日本舞踊の面白さ・奥深さを紹介する。また、後進の指標ともなるような公演内容を目指す。  
 外部専門家等の意見  
 「素踊りの会」に出演するのは舞踊家にとって名誉なこと。出演者同士の対抗心や心意気が感じられた。全体的に見れば

これらの分野について、国立劇場が果たしている役割は極めて大きいと認められる。東西の諸流の実力者による「特選名流舞踊鑑賞会」、解説を加え邦楽の理解の向上を意図した「秋の邦楽名曲選」、雅楽の魅力を示す「管絃」、真言宗豊山派の僧侶による「声明公演」など他の劇場では成立しない公演であり、それぞれに古典芸能の公開と伝承について工夫が見られた。  
 特に、「興三河の花祭」「道の面影」などは、企画者の制作意図が舞台成果に結び付いていると認められる。

【より良い事業とするための意見等】

これらの公演は入場者数に必ずしも結び付くものではないが、適切な入場者の目標値を設定しその達成に努力することが望ましい。また、これらの公演の実施意義を踏まえ、出演者の選択や演目にさらに工夫を加え、継続して実施していくことが望まれる。  
 なお、アンケート調査をより多く取り入れ観客の動静を適切に把握するとともに、広報活動の充実が望まれる。

ば歌舞伎舞踊や新しいものもあり、バランス良く楽しいと思った。継続性の高い公演で、「素晴らし」という意識を高揚させた。一般のお客をどのように増やすか検討。

アンケート調査  
3月6日実施  
回答数141人（配布数323人、回収率43.7%）  
85.8%の観客より概ね満足したとの回答を得た（121人）

（邦 楽）

10月邦楽公演「秋の邦楽名曲選」  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
10月18日～10月19日	2回	2日	834人	800人	70.2%

会場 本館小劇場  
入場料 全席 3,600円

制作意図

邦楽を代表する名曲を、語り物音楽の琵琶と浄瑠璃、そして歌い物音楽の三曲と長唄から厳選し、併せて演奏前に邦楽研究者による演目解説をおこない、普段邦楽に馴染みの薄い観客層にも理解され受け入れられ易い演奏会とする。出演者は、人間国宝ほかベテランに加え、中堅・若手の実力者を積極的に起用して、芸芸継承者の育成にも配慮する。

外部専門家等の意見

従来の邦楽公演に比べ、初心者などを含めた、広い観客層を対象にした公演であることは理解でき、歌詞字幕の活用や邦楽研究者による演奏前の曲目解説など、邦楽の普及を目的とした試みは評価できる。また、ベテラン・中堅・若手の出演者をバランスよく登用し、古典の継承という観点からも評価できる。

アンケート調査 実施せず

【特記事項】

平成15年度文化庁芸術祭協賛公演。  
鑑賞の助けとなるよう、プログラムを入場者全員に無料配布した。字幕装置により、演奏にあわせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした。

10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
10月25日	1回	1日	584人	500人	98.3%

会場 本館小劇場  
入場料 全席 3,600円

制作意図

人形の視覚的表現を取り除き、太夫と三味線の聴覚的表現で客席に対峙する素浄瑠璃の会。観客は今、誰を、何を聴きたいと思っているのか、また、聴いて欲しいものは何かを念頭において、演奏者と演目の選定につとめる。

外部専門家等の意見

演目の選定、演奏者、解説者も的確で、十分に聴き応えのある内容であった。義太夫節最盛期の時代物と世話物の人気作品を取り上げ、また、「西風」と「東風」の違いをわかりやすく説明し、義太夫節への興味をより深いものとした。一段をたっぷり語ることで、義太夫節の面白さが堪能できる公演であった。

アンケート調査 実施せず

【特記事項】

平成15年度文化庁芸術祭協賛公演。  
字幕装置により、演奏にあわせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした。

1月邦楽公演「邦楽鑑賞会 長唄の会・三曲の会」  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
1月24日～25日	2回	2日	1,014人	1,000人	85.4%

会場 本館小劇場  
入場料 全席 4,000円

制作意図

歌舞伎を基盤に発生・発展した音楽「長唄」と、箏・三味線・尺八・胡弓による合奏曲、箏曲、地唄、尺八本曲等の「三曲」を特集した公演で、両会とも開場以来実施している。両会とも、古典の保存・伝承に資する構成・選曲を心がけ、出演者は流派の枠にとらわれず、ベテランに加え活躍の著しい中堅・若手の実力者を積極的に起用して高水準の演奏会とする。

外部専門家等の意見

長唄の会は、幕末期の名作曲家の作品を聴くというコンセプトが明解で、演奏曲はそれぞれ趣の異なる四曲が選曲されており、長唄の多様性を理解させ、飽きることなく鑑賞できる構成であった。三曲の会は、多様な曲種による構成が変化があり面白く、また、上演機会の少ない地唄の端唄物を取り上げたのは貴重で、古典の保存・伝承という観点からも評価できる。両会とも、第一線で活躍する精鋭が揃い、曲と出演者の組み合わせも的確で、レベルの高い充実した演奏会であった。

アンケート調査

1月24日（15時開演）に実施  
回答数189人（配布数463人、回収率40.8%）  
89.9%の観客から概ね満足したとの回答を得た（170人）

【特記事項】

字幕装置により、演奏にあわせて歌詞を表示して鑑賞の助けとした。

（雅 楽）

11月雅楽公演「管絃 - 月をかきほどにおんあそびはじまりて - 」  
期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
11月15日	1回	1日	397人	520人	66.8%

会場 本館小劇場  
入場料 3,600円

制作意図

舞をともなわず雅楽の音楽を楽しむ「管絃」は、平安時代の貴族たちが自ら楽器をたしなみ合奏を楽しんだ「あそび」を端緒とし、高度で洗練された音楽性を確立していった。今公演は現代における「おんあそび（＝御遊び、音遊び）」として、古典曲のみならず現代の作曲家の雅楽曲も含めた構成により、今日まで伝承される雅楽の音楽的魅力にせまるものである。

外部専門家等の意見  
 国立劇場という現代の演奏空間の中に平安貴族の「遊び」としての管絃を再興したことで、管絃の特徴である「プロセスの中で構築され続ける音楽」を再認識できる公演となった。ただ構成の点で古典曲と現代曲が渾然としていたことが、公演全体の魅力を散漫なものにしてしまった観がある。

アンケート調査 実施せず  
**【特記事項】**  
 平成15年度文化庁芸術祭協賛公演。  
 東野珠実氏作曲「月香楽 - 月しろ - 」は国立劇場委嘱初演。

(声 明)  
 10月声明公演「真言宗豊山派長谷寺の声明 - 常楽会 - 」

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
10月4日	1回	1日	566人	560人	95.3%

会場 本館小劇場  
 入場料 3,600円  
 制作意図  
 真言宗豊山派の僧侶の出演により「常楽会」を上演する。常楽会は講式立、つまり「講式」を中心とする法会であるが、講式は日本で作られた日本語の声明であり、平曲などをはじめとする「語り物音楽」の源流として音楽史的にみても重要なものである。今公演では前半に「四箇法用」をつけ、現在長谷寺で行われている常楽会の構成に準じた。

外部専門家等の意見  
 「講式」は日本音楽の大きな特徴を表すものであり、それらを中心に紹介した今回の公演は大変意義があった。現在国立劇場では年1回声明公演が行われているが、好調な観客動員などを鑑みると、今後公演回数を増やすことを検討してもよいのではないかと。  
 アンケート調査 実施せず  
**【特記事項】**  
 平成15年度文化庁芸術祭協賛公演。  
 字幕装置により、次第、解説、詞章などを出した。

(民俗芸能)  
 3月民俗芸能公演「奥三河の花祭」

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
3月6日～3月7日	2回	2日	574人	900人	38.1%

会場 文楽劇場  
 入場料 均一3,500円  
 制作意図  
 国の重要無形民俗文化財に指定されている「花祭」(愛知県北設楽郡東栄町)を取り上げる。湯立ての神事である『お湯立て・釜はらい』で神を招き、数多くの採物の舞と鬼の舞で神遊びを行い、『しづめ祭り』で神を送るという祭りの構成を2部構成にまとめ、現地の祭礼をなるべくそのままのかたちで文楽劇場の舞台に再現する。

外部専門家等の意見  
 ステージの拵えに工夫があり、「舞台上の見物人」と「演者」と「座席側の観客」という設定は、公演の参加者すべてを融合させる演出効果を生みだし、臨場感溢れた立体空間を作り出したことは評価できる。  
 アンケート調査  
 3月6日(17時開演)実施  
 回答数64人(配布数338人、回収率18.9%)  
 78.1%の観客より概ね満足との回答を得た(50人)

**【特記事項】**  
 国立文楽劇場開場20周年記念公演、関西元気文化圏共催事業。

3月民俗芸能公演「地芝居 檜枝岐歌舞伎」

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
3月13日～3月14日	3回	2日	1,156人	1,300人	70.1%

会場 本館小劇場  
 入場料 均一4,000円  
 制作意図  
 福島県南会津郡檜枝岐村に伝わる地芝居を上演する。僻地であった檜枝岐村には、他地域との交流も少なかったために歌舞伎の古い型が残っているとされる芝居が伝承されている。ただし、昭和26年より義太夫の後継者がなく義太夫はテープで代用している。そこで現地の舞台を再現しながら、義太夫を再現して公演を行う。

外部専門家等の意見  
 義太夫をテープで行っている芝居に、義太夫の演奏をつけたことが評価できる。また檜枝岐の芝居は、型などを見ると人形の影響を受けているようだがかなり古い頃の芝居であることが窺える。舞台も現地の舞殿を忠実に再現したことで、より現地に近いものが上演出来た。今後も地芝居公演の継続を望む。

アンケート調査 実施せず  
**【特記事項】**  
 民俗芸能公演として「地芝居」を上演したのが昭和48年に播州歌舞伎を取り上げて以来、二度目のこととなる。檜枝岐歌舞伎は昔の歌舞伎の型を残すと言われている芝居で、民俗芸能として見ても、また歌舞伎として見ても面白い視点で観劇できる。  
 芝居をより現地のものに近づけるために舞台を現地で使用している舞殿を参考に作った。また雰囲気を作るために花代の紙を舞台に貼り付けた。

(特別企画)  
 10月特別企画公演「道の面影、街の芸 - 昭和の初めの頃 - 」

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
10月30日	2回	1日	575人	450人	95.8%

会場 演芸場  
 入場料 均一3,000円  
 制作意図  
 時代とともに街並みが変わり、また生活の変化が生じている中で、かつて生活の中に溢れていた音や声がなくなりつつある。そこで今回は「懐かしさ」をテーマにさまざまな芸能を集め、現役で活躍している方の芸を舞台で行ってもらう。

外部専門家等の意見  
 今回の出し物のような芸能を実感出来た事が良かった。出演者を勇気付ける公演だったのではないだろうか。とても楽しく、また懐かしさを感じる公演だった。チンドンの口上の初々しさが印象的だった。出来れば野外でこのような公演が出来たらいいのだが難しいだろう。  
 アンケート調査 実施せず  
**【特記事項】**  
 出来るだけ雰囲気を出すように「紙芝居」であれば自転車で登場、「チンドン」であれば通路から歩いて登場するようにした。また演芸の雰囲気をなるべく出さないように、講談では演題にあった昔の歌、幫間であれば掛け声で出るなど出囃子をなるべく使わないようにした。  
 また当初予定していた紙芝居の秋山栄栄が病気休演になったため、永田為春が代演した。

入場者数の達成状況	8,830人以上	6,181人以上 8,830人未満	6,181人未満
-----------	----------	----------------------	----------

平成15年度実績 8,844人  
 (目標 8,830人)

・大衆芸能  
 (振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する)

定席公演(上席及び中席)  
 期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月上席	10月1日～10日	11回	10日	616人	973人	18.7%
10月中席	10月11日～20日	11回	10日	585人	973人	17.7%
11月上席	11月1日～10日	11回	10日	830人	973人	25.2%
11月中席	11月11日～20日	11回	10日	702人	973人	21.3%
12月上席	12月1日～10日	12回	10日	1,532人	973人	42.6%
12月中席	12月11日～20日	11回	10日	1,263人	973人	38.3%
1月中席	1月11日～20日	11回	10日	1,084人	973人	32.8%
2月上席	2月1日～10日	11回	10日	879人	973人	26.6%
2月中席	2月11日～20日	11回	10日	2,022人	973人	61.3%
3月上席	3月1日～10日	14回	10日	1,630人	973人	38.8%
3月中席	3月11日～20日	11回	10日	1,060人	973人	32.1%
合計	11公演	125回	110日	12,203人	10,700人	32.5%

会場 演芸場  
 入場料 一般2,000円、(前売1,800円) 学生1,600円、シルバー1,100円  
 制作意図  
 落語協会と落語芸術協会を中心とした出演者に加えて、他の寄席にはない国立演芸場ならではの企画内容を盛り込んだ、寄席芸を楽しめる番組としている。  
 外部専門家等の意見  
 テーマを決めた公演や鹿芝居など他の寄席にない舞台の広さや技術力を生かした国立演芸場ならではの独自性のある企画内容で、他の寄席では決して真似のできない名物として定着してほしい公演が多く見られる。  
 アンケート調査(2回実施)  
 11月上席(11月9日)実施  
 回答数81人(配布数143人、回収率56.6%)  
 90.1%の観客より概ね満足との回答を得た(73人)  
 12月中席(12月20日)実施  
 回答者数126人(配布数231人、回収率54.5%)  
 88.9%の観客より概ね満足との回答を得た(112人)

**【特記事項】**  
 平成15年度文化庁芸術祭協賛公演(10月上席・10月中席・11月上席・11月中席)

企画公演  
 期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月特別企画公演 (藤山新太郎日本奇術の世界)	10月26日	1回	1日	260人	250人	86.7%
11月特別企画公演 (古今亭菊之丞真打昇進披露)	11月29日	1回	1日	246人	250人	82.0%
12月特別企画公演 (講談の会)	12月13日	1回	1日	111人	250人	37.0%
1月特別企画公演 (新春バラエティー寄席)	1月24日	1回	1日	304人	250人	101.3%
2月特別企画公演 (マジックフェスティバル)	2月28日	1回	1日	202人	250人	67.3%
3月特別企画公演 (沖縄ちゃんぶるスペシャル公演)	3月27日	1回	1日	253人	250人	84.3%
合計	6公演	6回	6日	1,376人	1,500人	76.4%

会場 演芸場  
 入場料 一般3,000円、学生2,400円  
 制作意図  
 落語の他に、漫才、奇術、太神楽、講談、浪曲といった、色々なジャンルをとりあげて、企画している。  
 外部専門家等の意見  
 講談や沖縄伝統芸能など、国立演芸場ならではの特色を持った独自性のある企画が多く見られた。多面性を包括的に捉えるのは、国立という名の施設の公演として大事なことと思われる。今後もこのような企画を続けてもらいたい。  
 アンケート調査  
 2月特別企画公演(2月28日)実施  
 回答数140人(配布数252人、回収率56.3%)  
 94.3%の観客より概ね満足したとの回答を得た(132人)  
**【特記事項】**  
 平成15年度文化庁芸術祭協賛公演(10・11月企画公演)

若手新人公演(花形演芸会)  
 期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月若手新人公演(293回)	10月4日	1回	1日	277人	217人	92.3%

定席公演(上席及び中席)及び上方芸能特選会公演については、寄席の停滞が聞かれるなか、成果はあげているものの、一部に企画意図が舞台成果として結び付かなかったものがある。  
 落語のほか奇術・太神楽など大衆芸能の広がり示す企画公演、若手の発掘・育成を目的とした若手新人公演(花形演芸会)などは、他の寄席に見られない意欲的なものであった。

**【より良い事業とするための意見等】**

これらの公演は、入場者数に必ずしも結び付くものではないが、顔づけに工夫するなど魅力的な出演者を揃え、継続して実施することが望まれる。  
 特に、入場者数が目的に達しなかった公演については、その理由を調査・分析し、次回の公演の実施に反映させることが望ましい。

11月若手新人公演(294回)	11月22日	1回	1日	208人	217人	69.3%
12月若手新人公演(295回)	12月23日	1回	1日	179人	217人	59.7%
1月若手新人公演(296回)	1月25日	1回	1日	343人	217人	114.3%
2月若手新人公演(297回)	2月21日	1回	1日	334人	217人	111.3%
3月若手新人公演(298回)	3月27日	1回	1日	323人	217人	107.7%
合計	6公演	6回	6日	1,664人	1,300人	92.4%

会場 演芸場  
入場料 一般1,500円、学生1,100円、シルバー1,000円

制作意図

若手の発掘、育成を目的としていて、寄席芸に限らず幅広いジャンルの出演者で構成している。  
外部専門家等の意見  
質の高い若手が出演する公演として、観客にも浸透しつつある。テツandトモや神田山陽というTVなどのメディアで話題の人物が見られるのは、観客にとっても楽しみであり、公演に華を添えていた。花形レギュラーメンバーの出演回数は年間3回でなく年2回でも良いのではないかと思う。

アンケート調査

1月若手新人公演(1月25日)実施  
回答数153人(配布数345人、回収率44.3%)  
94.8%の観客より概ね満足との回答を得た(145人)

国立名人会公演

期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月国立名人会公演(261回)	10月18日	1回	1日	205人	280人	68.3%
11月国立名人会公演(262回)	11月24日	1回	1日	296人	280人	98.7%
12月国立名人会公演(263回)	12月21日	1回	1日	296人	280人	98.7%
新春国立名人会公演	1月2日～6日	7回	5日	2,149人	2,100人	102.3%
2月国立名人会公演(264回)	2月22日	1回	1日	265人	280人	88.3%
3月国立名人会公演(295回)	3月27日	1回	1日	297人	280人	107.7%
合計	6公演	12回	10日	3,508人	3,500人	97.4%

会場 演芸場  
入場料 一般3,000円、学生2,400円

制作意図

名人上手といわれる出演者を中心とした番組構成で、定席ではなくなかなか聴くことの出来ない作品をじっくりと鑑賞できる機会とする。  
外部専門家等の意見  
落語中心の会に新内を挟む大胆な番組作りや、上方の芝居仕立ての落語など、他の寄席では決して真似が出来ないものが多く、今後も続けてもらいたい。

アンケート調査

3月国立名人会公演(3月27日)実施  
回答数152人(配布数282人、回収率53.9%)  
86.8%の観客より概ね満足との回答を得た(132人)

【特記事項】

平成15年度文化庁芸術祭協賛公演(10・11月国立名人会公演)  
新春国立名人会で、2日朝演芸場入口にて鏡開き(三遊亭電楽・女性木遣り出演者)樽酒の配布を実施。

12月大衆芸能公演「師走浪曲名人会」

期間、回数、日数及び入場者数等

期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
12月6日	1回	1日	684人	600人	90.8%

会場 文楽劇場  
入場料 3,400円

制作意図

年末恒例の、関西浪曲界の真山一郎、春野百合子といった実力者たちや活躍メンバーを揃え、それぞれの持ち味を生かした演題で臨む公演。  
演目中、特徴あるものとしては、平成14年度国立演芸場第5回大衆芸能脚本募集で優秀作に輝いた芦川淳平氏の「晴れ姿奈丸ぶし」を、松浦四郎若が口演する。

外部専門家等の意見

大衆芸能公演の中でもとりわけ浪曲の開催頻度が少なくなった昨今、関西浪曲界の幹部総出演による年末恒例のこの会の意義は大きい。出演者が一定化されることはやむを得ないが、年に一度の名人会らしい充実した内容を維持しつつ、文楽劇場としての公演意図をさらに明確にすることが望まれる。

アンケート調査

12月6日実施  
回答数126人(配布数694人、回収率18.2%)  
93.7%の観客より概ね満足との回答を得た(118人)

【特記事項】

関西元気文化圏共催事業。

上方演芸特選会公演

期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
11月大衆芸能公演 (第8回上方演芸特選会)	11月2日～6日	5回	5日	127人	300人	16.0%
1月大衆芸能公演 (第9回上方演芸特選会)	1月4日～8日	5回	5日	255人	300人	32.1%
3月大衆芸能公演 (第10回上方演芸特選会)	3月7日～11日	5回	5日	303人	300人	38.1%
合計	3公演	15回	15日	685人	900人	28.7%

会場 文楽劇場小ホール  
入場料 2,000円

制作意図

関西演芸4団体(上方落語協会、関西演芸協会、関西芸能親和会、浪曲親友協会)の要望もあり、平成14年度から小ホールで始められた。各団体から出演者を選定し、通常は8番の番組編成案を上方落語協会事務局が取りまとめる。落語、講談、漫才、浪曲、曲芸、奇術、ものまね等、さまざまなジャンルの演芸が楽しめるよう構成する。奇数月、5日間の定席公演。

外部専門家等の意見  
 宣伝効果を高め、内容を充実させるためにも、演者が手を抜かず、熱気のある舞台を創り出すことが肝要である。なお、演者は芸を磨く場と位置付け、劇場側もいろいろなジャンルが楽しめる定席寄席の特徴を出していくことが必要である。  
 アンケート調査（3回実施）  
 11月2日（13時開演）実施  
 回答数20人（配布数37人、回収率54.1%）  
 80.0%の観客より概ね満足との回答を得た（16人）  
 1月4日（13時開演）実施  
 回答数34人（配布数69人、回収率49.3%）  
 88.2%の観客より概ね満足との回答を得た（30人）  
 3月4日（1時開演）実施  
 回答数37人（配布数96人、回収率38.5%）  
 86.5%の観客より概ね満足との回答を得た（32人）  
 【特記事項】  
 平成15年度文化庁芸術祭協賛（11月上方演芸特選会）  
 関西元氣文化圏共催事業（11・1・3月上方演芸特選会）  
 国立文楽劇場開場20周年記念公演（1・3月上方演芸特選会）

入場者数の達成状況	18,500人以上	12,950人以上 18,500人未満	12,950人未満
-----------	-----------	------------------------	-----------

平成15年度実績 20,120人  
 （目標 18,500人）

・能 楽

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

定例公演  
 期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期 間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月定例公演 (文荷・井筒)	10月1日	1回	1日	646人	591人	109.3%
10月定例公演 (仏師・忠度)	10月17日	1回	1日	641人	591人	108.5%
11月定例公演 (鎧・弱法師)	11月5日	1回	1日	596人	591人	100.8%
11月定例公演 (鬼瓦・砧 <sup>梓</sup> 之出)	11月21日	1回	1日	648人	591人	109.6%
12月定例公演 (樋の酒・楊貴妃)	12月3日	1回	1日	618人	591人	104.6%
12月定例公演 (米市・融 <sup>舞</sup> 之伝)	12月19日	1回	1日	652人	591人	110.3%
1月定例公演 (翁・栗焼・草紙洗小町 <sup>物</sup> 着)	1月7日	1回	1日	673人	591人	113.9%
1月定例公演 (杭か人か・小鍛冶)	1月16日	1回	1日	633人	591人	107.1%
2月定例公演 (蝸牛・国栖 <sup>白頭</sup> )	2月4日	1回	1日	494人	591人	83.6%
2月定例公演 (宗論・加茂物狂)	2月20日	1回	1日	531人	591人	89.8%
3月定例公演 (千鳥・藤戸)	3月10日	1回	1日	610人	591人	103.2%
3月定例公演 (空腕・初雪)	3月19日	1回	1日	630人	591人	106.6%
合 計	12公演	12回	12日	7,372人	7,000人	103.9%

会場 能楽堂  
 入場料 正面4,300円、脇正面2,800円、中正面2,300円  
 制作意図  
 能・狂言の伝統的な演目を曲柄や季節、能と狂言のバランスを配慮しつつ上演する「定例公演」は、能一番・狂言一番という番組構成により初心者でも鑑賞しやすい公演にするとともに、見巧者にもより理解を深めてもらうために脇能から切能までを網羅するように曲目を配する。また、10月と11月を「月間特集（世阿弥）」としてテーマ性を持たせ、これに沿った演目を上演する。  
 外部専門家等の意見  
 各公演の演目の構成もよく、入場者数もよいということで評価できる。出演者についても持ち味を發揮する場面が多く充実していた。  
 アンケート調査  
 3月定例公演（3月19日「空腕」「初雪」）実施  
 回答数164人（配布数630人、回収率26.0%）  
 84.1%の観客より概ね満足したとの回答を得た（138人）

普及公演  
 期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期 間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月普及公演 (解説・棒縛・江口)	10月11日	1回	1日	651人	591人	110.2%
11月普及公演 (解説・養老・薬水)	11月8日	1回	1日	649人	591人	109.8%
12月普及公演 (解説・胸突・紅葉狩)	12月6日	1回	1日	657人	591人	111.2%
1月普及公演 (解説・膏薬煉・春栄)	1月31日	1回	1日	658人	591人	111.3%
2月普及公演 (解説・岡太夫・東北)	2月14日	1回	1日	653人	591人	110.5%
3月普及公演 (解説・薩摩守・野守)	3月13日	1回	1日	652人	591人	110.3%
合 計	6公演	6回	6日	3,920人	3,500人	110.5%

会場 能楽堂  
 入場料 正面4,300円、脇正面2,800円、中正面2,300円

定例公演のほか、初心者向け解説を付け能一番・狂言一番を上演する「普及公演」、さらに様々な角度から能・狂言の楽しみを提供する「企画公演」ともに、毎公演高い入場率を示し、幅広い観客層に対する、能・狂言の普及に大いに貢献している。  
 また、それぞれ工夫ある演目構成であった。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、入場率の高さに満足することなく、水準・質の高い公演を継続していくことが望まれる。  
 また、定例公演と普及公演、企画公演の企画上の差異を広報媒体上で明確にしていくことが初心者等にとって親切であろう。  
 なお、観客の動向を適切に把握するため、アンケート調査をより多く取り入れることが望まれる。

制作意図  
 伝統的な能・狂言の演目を曲柄、季節等を配慮しつつ、能一番・狂言一番にわかりやすい事前の解説を付けて上演し、初心者にもより鑑賞しやすい公演としている。また、10月と11月を「月間特集（世阿弥）」としてテーマ性を持たせ、これに沿った演目を上演する。  
 外部専門家等の意見  
 毎回丁寧な解説があり、演目の構成も良く、また、入場者も多く各公演とも充実していた。  
 アンケート調査  
 3月普及公演（3月13日）実施  
 回答数173人（配布数652人、回収率26.5%）  
 85.5%の観客より概ね満足したとの回答を得た（148人）

企画公演  
 期間、回数、日数及び入場者数等

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月特別企画公演 (お話「復曲能「檀風」)	10月23日	1回	1日	480人	591人	81.2%
11月特別企画公演 (業平餅・木賊)	11月27日	1回	1日	632人	591人	106.9%
12月特別企画公演 (新作能「地」)	12月12日・14日	3回	2日	1,557人	1,773人	87.8%
1月特別公演 (淡路急々之舞・昆布売・ 二人静立出之一声)	1月10日	1回	1日	670人	591人	113.4%
1月狂言の会 (素囃子「急ノ舞」・松囃子・ 八幡前・六人僧)	1月23日	1回	1日	628人	591人	106.3%
2月企画公演 (新作狂言「維盛」・ 復曲能「維盛」)	2月26日	1回	1日	637人	591人	107.8%
3月企画公演* (連歌張行・舞囃子「巻絹」・ 連歌盗人)	3月25日	1回	1日	184人	591人	92.0%
合計	7公演	9回	8日	4,788人	5,300人	110.4%

会場 能楽堂 \*3月企画公演は能楽堂研修能舞台（定員200人）で実施  
 入場料 特別企画公演：正面6,000円、脇正面5,000円、中正面4,000円  
 特別公演及び企画公演：正面5,600円、脇正面4,300円、中正面2,800円  
 \*3月企画公演は正面5,600円、脇正面4,300円  
 狂言の会：正面4,000円、脇正面2,800円、中正面2,300円

制作意図  
 能楽をたっぷりと楽しんでもらうよう能二番・狂言一番を上演する「特別公演」、上演頻度の少ない狂言を含めて狂言のみを三番上演する「狂言の会」、能・狂言に関連する事項とともに能・狂言を上演することや復曲能・新作能あるいは上演の稀な大曲等を上演する「特別企画公演」など、様々な角度から能・狂言にアプローチを試みて、その魅力を紹介する。

外部専門家等の意見  
 開場20周年記念を冠した10月・11月の特別企画公演、さらに2月の企画公演も見応えがあった。12月の特別企画公演の「地」の制作はとくにすばらしかった。台本・演出もよく時間をかけて練られ、演出も成功し、これまで制作する側の教養を示すような新作能が多いなか、現代の物語として現代の観客に伝わるものとなっていた。

アンケート調査  
 1月狂言の会（1月23日）実施  
 回答数149人（配布数628人、回収率23.7%）  
 89.9%の観客より概ね満足したとの回答を得た（134人）

【特記事項】  
 平成15年度文化庁芸術祭主催公演（10月特別企画公演）  
 開場20周年記念特別企画公演（10・11・12月特別企画公演）

入場者数の達成状況	15,800人以上	11,060人以上 15,800人未満	11,060人未満	平成15年度実績 16,080人 (目標 15,800人)	A
-----------	-----------	------------------------	-----------	----------------------------------	---

・組踊等沖縄伝統芸能

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

国立劇場おきなわ開場記念公演  
 第1週「御冠船踊を想定した王朝絵巻」  
 期間、回数、日数及び入場者数等

期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
1月23日～1月25日	3回	3日	1,522人	1,300人	87.8%

会場 国立劇場おきなわ大劇場  
 入場料 3,500円

制作意図  
 組踊の歴史的端緒であり、現存する冊封式典余興芸能の上演台本でもっとも由緒ある、尚育王冊封式典（1838年、いわゆる「戎の御冠船」）を基本に可能な限り往時を再現した内容である。

外部専門家等の意見  
 たいへん結構な内容であった。御冠船踊の雰囲気をよく再現していた。組踊「二童敵討」については、この際、戎の御冠船の「着付」を検討することも考えられようか。4間四方2間張出の舞台が、琉球の古典芸能にフィットしているように思えた。声・音の反響、照明も申し分ないので、観客も堪能しているふうだった。字幕は相当な苦心の成果だと思ひ、敬意を表したい。

アンケート調査  
 1月24日実施  
 回答数240人（入場者数542人、回収率44.3%）  
 72.9%の観客より概ね満足との回答を得た（175人）

【特記事項】  
 字幕を駆使して、歌詞・詞章の訳を表示した。  
 開場を記念して1月23日に天皇皇后両陛下の行幸啓が行われた。

A

国立劇場おきなわの開場を記念する公演で、第1週「御冠船を想定した王朝絵巻」から第8週の「組踊の昔・今・未来」まで、それぞれテーマ性、企画性ともに意欲的な公演であった。また、入場者数も目標以上となった。  
 なお、アンケートの調査結果における、観客の満足度の高さが、関心のほどを示していると思われる。

【より良い事業とするための意見等】

開場初年次の特別性から、日常的活動への移行に伴い、運営の真価が問われる時期にさしかかる。県民の声を反映しつつ一層の企画の充実が望まれる。また、能・狂言・歌舞伎・文楽などの公開についても検討が望まれる。  
 なお、アンケート調査のなかには無回答が多いので、質問等に工夫が望まれる。

第2週「沖縄伝統舞踊、創作舞踊」

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
1月30日～2月1日	4回	3日	2,460人	2,000人	97.3%

会場 国立劇場おきなわ大劇場

入場料 3,500円

制作意図

「歌と踊りの島」の形容に相応しい、伝統舞踊とその伝統を踏まえた創作活動の成果を展開した内容で、初日は古典舞踊、2日目の昼公演は雑踊、2日目の夜公演は古典舞踊と雑踊、3日目は創作舞踊を取りあげる。

外部専門家等の意見

開場記念公演にふさわしい充実した企画を堪能させていただいた。今回の舞台は女性舞踊家による演技であったが、二才踊については女性が踊る場合はとりわけ「男の身体」を感じさせる踊りであってほしい。

アンケート調査

1月30日実施

回答者182人（入場者数610人、回答率29.8%）

75.2%の観客より概ね満足との回答を得た（137人）

【特記事項】

字幕を駆使して、歌詞の訳を表示した。

第3週「沖縄民謡と沖縄芝居」

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
2月6日～2月8日	3回	3日	1,778人	1,500人	93.8%

会場 国立劇場おきなわ大劇場

入場料 3,500円

制作意図

沖縄の現代生活に息づく沖縄民謡と沖縄芝居の伝統を踏まえ、第1部では民謡、第2部では沖縄芝居を取り上げる。民謡は、民謡団体による斉唱、ベテランの独唱、中堅によるデュエットにより構成する。デュエットは、沖縄芝居の歌劇の主題歌として人口に膾炙されている曲を歌ってもらい、沖縄芝居は、沖縄三大悲歌劇と称される作品の中から「伊江島ハンドー小」を上演する。なお、沖縄芝居は3回公演とも同一演目である。

外部専門家等の意見

民謡は、人気のある歌手たちの歌声であり、楽しむことができた。沖縄芝居はベテラン陣の演技が冴えていてよかった。三大悲歌劇と称される他の演目「泊阿嘉」と「奥山の牡丹」も早い時期に取りあげてほしい。

アンケート調査

2月7日実施

回答者135人（入場者数605人、回答率22.3%）

68.1%の観客から概ね満足との回答を得た（92人）

【特記事項】

字幕を駆使して、歌詞の訳を表示した。

第4週「シマ（村落）の賑わい」

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
2月14日～2月15日	4回	2日	2,290人	2,000人	90.6%

会場 国立劇場おきなわ大劇場

入場料 3,500円

制作意図

各地の豊年祭（村遊び、八月踊り）の中の組踊、舞踊を取りあげる。初日は昼・夜公演とも「伊江島の民俗芸能」を取りあげ、組踊「忠臣蔵」と舞踊、民謡を公開する。2日目の昼・夜公演は浦添市勢理客、名護市屋部、宜野座村字宜野座の民俗芸能を取りあげる。

外部専門家等の意見

県内各地の民俗芸能をまとめて鑑賞できたのは良かった。伊江島だけに継承されている組踊「忠臣蔵」を取りあげたのは良かった。民俗芸能は公演日を増やしてもよいのではないかと。

アンケート調査

2月15日実施

回答者175人（入場者数591人、回答率29.6%）

60.5%の観客より概ね満足との回答を得た（106人）

【特記事項】

字幕を駆使して、歌詞の訳を表示した。

第5週「沖縄の伝統芸能に影響を与えた本土の芸能 能楽」

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
2月28日～2月29日	2回	2日	1,203人	1,000人	95.2%

会場 国立劇場おきなわ大劇場

入場料 5,000円

制作意図

組踊を中心とした沖縄の伝統芸能の源流を探るといふねらいで、今回は「能楽」を取りあげる。

外部専門家等の意見

優れた日本の伝統芸能の「能楽」を、国立劇場おきなわで鑑賞できたことは意義深いことであり、たいへん良かった。これまで沖縄では「能楽」を鑑賞する機会に恵まれなかったが、今後は国立劇場の舞台上で鑑賞できる機会を増やしてほしい。開場記念に相応しい曲目であった。

アンケート調査

2月28日実施

回答者162人（入場者数612人、回答率26.5%）

74.7%の観客より概ね満足との回答を得た（121人）

【特記事項】

字幕を駆使して、詞章を表示した。

第6週「アジア・太平洋地域の芸能 アジア・本土の三絃類と沖縄の三線」

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
-----	----	----	------	-----	-----

3月6日～3月7日 4回 2日 1,961人 2,000人 77.6%

会場 国立劇場おきなわ大劇場  
入場料 3,500円

制作意図  
アジア・太平洋地域に見られる関連芸能をとおして沖縄伝統芸能の源流とその広がりを探る、というねらいで、今回は、沖縄の伝統楽器である「三線」と関わりの深いアジア・太平洋地域の三絃類を取りあげる。海外からインド、ベトナム、中国、本土から津軽三味線、長唄、奄美の三線が出演する。

外部専門家等の意見  
インド音楽は、まれにしか聴くことのできないシタールの生演奏を楽しむことができ、ベトナムの音楽は音の幅を感じさせてくれて、中国の三絃は軽快かつ深みのある世界を表現しているようでよかった。長唄は沖縄ではなかなか聴く機会がなく、字幕のお陰で理解度が増した。津軽三味線の演奏の際、バックに現れた吹雪を思わせる映像は、ため息が出るほど効果的であった。奄美三線の演劇の字幕もありがたかった。演劇を聴いて雰囲気を楽しむだけでなく、その歌詞・内容を同時に見ることでもっと親しみがわいた。沖縄三線を若者達が演奏している姿に、沖縄音楽に携わる人達の闘争心を強く感じた。

アンケート調査  
3月6日実施  
回答者178人(入場者数524人、回答率34.0%)  
62.9%の観客より概ね満足との回答を得た(112人)

【特記事項】  
字幕を駆使して、歌詞の解説や訳を表示した。

第7週「三線音楽の伝統と創造」

期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
3月12日～3月14日	3回	3日	1,529人	1,500人	80.6%

会場 国立劇場おきなわ大劇場  
入場料 3,500円

制作意図  
沖縄民謡の次世代への発展性、継承の可能性を探るというねらいで、初日は琉球古典音楽(三線音楽と箏曲)の演唱、2日目は奄美・沖縄・宮古・八重山諸島の民謡の演唱、3日目は伝統を活かしながら新しい沖縄音楽の創造に取り組んでいる個人及びグループに出演してもらう。

外部専門家等の意見  
唄・三線は歌が上位なので、その運搬役の「声」の明瞭さ、美質は重要なファクターとなるので、劇場空間での歌声の追求はこれからの重要な課題となるであろう。舞台進行については、転換もすばやく、余計な解説もなく、全体としてはスマートであったと感心した。程よい幕間が最後まで聞き手の集中とリラクセスを支えてくれたように思う。

アンケート調査  
3月13日実施  
回答者225人(入場者数548人、回答率41.1%)  
57.8%の観客より概ね満足との回答を得た(130人)

【特記事項】  
字幕を駆使して、歌詞の訳を表示した。

第8週「組踊の昔・今・未来」

期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
3月19日～3月21日	3回	3日	1,403人	1,300人	80.9%

会場 国立劇場おきなわ大劇場  
入場料 3,500円

制作意図  
国指定重要無形文化財「組踊」の保存、継承及びその発展としての創作作品を公開する。古典の組踊は、国立劇場おきなわの設置場所(小湾浜)とゆかりのある「万歳敵討」(1756年初演。田里朝直作)を上演し、新作は「真珠道」(大城立裕作)を取りあげる。3回公演のうち、「万歳敵討」の立方は3回とも同一配役で、地謡は毎回かえる。「真珠道」は、3回とも同一立方と地謡で上演する。

外部専門家等の意見  
新作組踊の企画は成功であった。詞章は伝統的な沖縄文語を主体として書かれているが、主役の女のセリフの一部に沖縄芝居のツラネの技法を取り入れたこと、髪型も沖縄カラジを用い、衣裳にも庶民的な感じを出しているなど、工夫があった。地謡と劇の関係を密にしたことが良かった。作・振付・演出が良いため、終わりまで飽きさせなかった。

アンケート調査  
3月19日実施  
回答者188人(入場者数509人、回答率36.9%)  
67.6%の観客より概ね満足との回答を得た(127人)

【特記事項】  
字幕を駆使して、歌詞の訳を表示した。

入場者数の達成状況

12,600人以上	8,820人以上 12,600人未満	8,820人未満
-----------	-----------------------	----------

平成15年度実績 14,146人  
(目標 12,600人)

A

(1)-2 新作脚本の募集

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する。

- 平成15年度新作歌舞伎脚本
  - 応募：5月より募集を行い、10月末日をもって締め切った。応募総数は44篇。
  - 審査：2月16日に選考会を開催し、佳作3篇が選出された。
  - 表彰：佳作「白柄組始末」 岸田英次郎  
佳作「翡翠神社花嫁譚 - 雪信と西鶴 - 」 森真実  
佳作「小刀屋善助」 森山治男
  - 選考委員：大笹吉雄、戸部銀作、富岡多恵子、三浦朱門、山田庄一

- 平成15年度大衆芸能新作脚本の募集
  - 応募：8月より落語、講談部門の募集を行い、9月2日をもって締め切った。応募総数は130篇(落語106篇、講談24篇)

B

新作歌舞伎の脚本募集については、事業の意義は認めるが、脚本は、初演はもとより再演されることによって定着・普及していくものである。上演実績を増加すること等の対応が望まれ、それによって当該事業の本来の主旨・目的が活きてくるのではないかと。大衆芸能新作脚本の募集は、国立劇場演芸場での上演を前提として公募しており、大衆芸能の普及・振興とともに、新たな作品の発掘の観点からも、成果があがっているものと認められる。

(1)-3 青少年等を対象とした伝統芸能の公開

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する。

・審査：予備選考（落語部門委員：柳家小ゑん、古今亭菊千代、三笑亭夢太郎、昔昔亭桃太郎、講談部門委員：宝井琴梅、神田紅）により検討作品29篇（落語19篇、講談10篇）を選出し、1月26日に選考会を開催し、落語部門は優秀作1篇・佳作1篇、講談部門は佳作3篇が選出された。  
 ・表彰：落語部門 優秀作「玉手箱」 本田久作  
 佳作「於玉ヶ池」 井口守  
 講談部門 佳作「画狂人異聞」 市川俊夫  
 佳作「池田一心斎吉原総見」 志賀虚舟  
 佳作「エジプト豆売の娘 - 千夜一夜物語外伝 - 」 中川眞智子  
 ・選考委員：落語部門委員）三遊亭円窓、桂歌丸、三遊亭遊三、露の五郎、大野桂、神津友好、  
 保田武宏、太田博、吉川潮  
 講談部門委員）宝井馬琴、神田松鯉、旭堂小南陵、大西信行、布目英一、保田武宏、  
 太田博、吉川潮

【特記事項】  
 大衆芸能新作脚本は上演を前提として募集しており、15年度受賞作品については「大衆芸能脚本受賞作品の会」と題して、16年9月23日に落語部門、10月30日に講談部門の上演を予定している。

【より良い事業とするための意見等】  
 新作歌舞伎の脚本募集については、募集方法などに検討の余地があると思われる。また、投稿者の固定化の危険を回避するため、より広範の者に対する広報が望まれる。

入場者数の達成状況

11,400人以上	7,980人以上 11,400人未満	7,980人未満
-----------	-----------------------	----------

12月文楽鑑賞教室「団子売」「解説・文楽のたのしみ」「夏祭浪花鑑」  
 期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
12月4日～12月16日	24回	13日	11,271人	11,400人	84.3%

会場 本館小劇場  
 入場料 学生1,300円、一般3,300円  
 制作意図  
 はじめて文楽に接する生徒にも理解しやすく楽しめる演目の選定につとめ、大夫、三味線、人形の実演者が解説することにより、興味、理解を増進させる。あわせて将来的な観客層の開拓につなげたい。  
 外部専門家等の意見  
 料金設定、演目ともに好適。解説者を含めて演者も若手を抜擢している。若手の充実、熱演が目についた公演で、観客の育成とともに演者にも意欲をもたせている。  
 アンケート調査 実施せず

A

将来の文楽振興を支える世代を育てるという意味で重要な公演である。入場者数が目標に達していないが、解説に工夫があり、「団子売」「夏祭浪花鑑」という演目も妥当であった。また、若手芸員による創意・工夫も評価できる。

(1)-4 連携協力・地方における上演等

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 平成15年度文化庁芸術祭主催公演（4公演）  
 10月歌舞伎公演「通し狂言競伊勢物語」（本館大劇場）  
 10月特別企画公演「復曲能「檀風」（能楽堂）  
 11月文楽公演「近松門左衛門生誕350年没後280年「近松名作集」（文楽劇場）  
 11月上方芸能特選会公演「上方芸能特選会 - 名人の至芸 -」（文楽劇場）

2. 平成15年度文化庁芸術祭協賛公演（23公演）  
 11月歌舞伎公演「通し狂言天衣紛上野初花」（本館大劇場）  
 10月声明公演「長谷寺の声明」（本館小劇場）  
 10月邦楽公演「秋の邦楽名曲選」（本館小劇場）  
 10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」（本館小劇場）  
 11月雅楽公演「管絃 - 月をかききほどにおんあそびはじまりて -」（本館小劇場）  
 11月舞踊公演「舞の会 - 京阪の座敷舞 -」（本館小劇場）  
 10・11月定席公演「上席」「中席」4公演（演芸場）  
 10・11月国立名人会公演「国立名人会」2公演（演芸場）  
 10・11月特別企画公演2公演（演芸場）  
 10・11月定例公演4公演（能楽堂）  
 10・11月普及公演2公演（能楽堂）  
 11月特別企画公演（能楽堂）  
 10月舞踊公演「特選！名流舞踊鑑賞会」（文楽劇場）  
 11月大衆芸能公演「上方演芸特選会」（文楽劇場）

3. 国・地方自治体等との後援・協力（13公演）  
 ・12月文楽鑑賞教室公演（本館小劇場）「団子売」「解説 文楽のたのしみ」「夏祭浪花鑑」  
 後援 = 文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、日本修学旅行協会  
 協力 = 東京都専修学校各種学校協会、神奈川県修学旅行専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、ジェイティービー、近畿日本ツーリスト、日本旅行、文楽協会  
 ・関西元気文化圏共催事業（9公演）  
 10月舞踊公演「特選！名流舞踊鑑賞会」（文楽劇場）  
 11月文楽公演「平家女護島」「姫山姥」ほか（文楽劇場）  
 11・3月上方芸能特選会公演3公演（文楽劇場）  
 11月上方芸能特選会公演「上方芸能特選会 - 名人の至芸 -」（文楽劇場）  
 12月大衆芸能公演「師走浪曲名人会（文楽劇場）  
 1月文楽公演「寿式三番叟」「良弁杉由来」ほか（文楽劇場）  
 3月民俗芸能公演「興三河の花祭」（文楽劇場）  
 ・平成15年度大阪文化祭参加（3公演）  
 10月舞踊公演「特選！名流舞踊鑑賞会」（文楽劇場）  
 11月文楽公演「平家女護島」「姫山姥」ほか（文楽劇場）  
 11月上方芸能特選会公演「上方芸能特選会 - 名人の至芸 -」（文楽劇場）

4. 外部団体主催公演への協力（3演目5公演）  
 能楽堂制作の新作能・新作狂言の外部団体主催公演での再演に制作協力。  
 スーパー狂言「クローン人間ナマシマ」  
 12月8日、富山市富山能楽堂、社団法人富山県農林水産公社主催  
 スーパー狂言「王様と恐竜」

A

外部団体との連携協力は、振興会独自では達成し得ないより広範な活動を可能とするものである。また、伝統芸能の保存振興を図る上でも有効である。特に、地方自治体や外部団体主催公演への協力は、国立劇場に求められている国民の期待、役割を果たしており、評価できる。

【より良い事業とするための意見等】  
 相当数の提携が行われていることは評価されるが、さらなる連携体制の拡大とともに、振興会独自の主体的な事業展開の強化が望まれる。

(2)-1 現代舞台芸術の公演

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

10月27日、札幌市札幌メディアパークスピカ、STVメディアフィールズ主催（2回上演）  
12月23日、京都市京都芸術劇場春秋座、上京ワークハウス主催  
2月15日、東京都NHKホール、地域伝統芸能まつり実行委員会主催  
新作品「地」  
2月14日、東京都NHKホール、地域伝統芸能まつり実行委員会主催  
【特記事項】  
11月上旬芸能特選会公演「上方芸能特選会 - 名人の至芸 -」（11月25日、文楽劇場）は受託による公演である。

(1) 現代舞台芸術の公演

分野	公演数	公演回数	公演日数	入場者数	目標入場者数
オペラ	9公演	40回	40日	49,570人	45,300人
バレエ	4公演	19回	19日	22,961人	22,100人
現代舞踊	2公演	6回	6日	2,553人	2,600人
演劇	5公演	9回	8日	44,420人	37,500人
合計	20公演	160回	152日	119,504人	107,500人

(2) アンケート調査

オペラ 毎公演（40回）実施、回答数 400人  
バレエ 毎公演（19回）実施、回答数 225人  
現代舞踊 毎公演（6回）実施、回答数 15人  
演劇 毎公演（95回）実施、回答数4,819人

(3) 外部団体との連携協力

芸術祭主催公演の実施等、外部団体との連携協力による現代舞台芸術の公演  
文化庁芸術祭執行委員会共催公演  
オペラ「フィガロの結婚」 10月10日～10月21日（6回公演） オペラ劇場  
バレエ「マノン」 10月29日～11月3日（6回公演） オペラ劇場  
二期会オペラ振興会共催公演  
オペラ「鳴神ノ俊寛」 1月30日～2月1日（3回公演） オペラ劇場  
日本オペラ団体連盟共催公演  
オペラ「神々の黄昏」 3月26日～3月31日（4回公演） オペラ劇場  
外部団体からの求めに応じ、受託による現代舞台芸術の公演  
文化庁芸術祭執行委員会主催公演の制作  
芸術祭オープニング・国際音楽の日記念コンサート  
「オペラ・ガラ・コンサート」の制作 10月1日（1回公演） オペラ劇場

(4) 地方における公演

オペラ「フィガロの結婚」：オーバード・ホール（富山市）、10月26日

・オペラ

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

「フィガロの結婚」  
作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
指揮：ウルフ・シルマー 演出：アンドレアス・ホモキ  
期間、回数、日数及び入場者数等

期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
10月10日～10月21日	6回	6日	8,826人	8,100人	81.6%

会場 オペラ劇場  
入場料 S席21,000円、A席17,850円、B席13,650円、C席10,500円、D席6,300円、E席3,150円、Z席1,500円  
制作意図

ノヴォラツスキー芸術監督は、毎シーズンひとつのテーマを掲げてラインアップを組んでいくことし、最初のシーズン・テーマを、「男達の運命」と定めた。その第一作として、近代オペラの礎モーツァルトの作品から、世界中のオペラハウスの定番である不朽の名作が選ばれた。日常的な滑稽な人間模様の中にある「男達の運命」を描き出すために、演出にベルリン・コーミッシェ・オーバー主席演出家ホモキ氏、指揮にシルマー氏が起用された。

外部専門家等の意見

日本における上演回数の多い作品のひとつであり、大きな期待感を集めた点はオープニングとしてよかった。斬新な演出で話題になり、悪い評価もあったようだが、非常にレベルの高い演出であった。音楽的にも充実感があつた。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：54人  
観客からも満足したとの回答が多く、概ね目標を達成できた。

【特記事項】

共催：文化庁芸術祭執行委員会  
メディア評は総じて良好で、演出面に対する評価と歌手陣の綿密なアンサンブルによる好演に対する評価があつた。  
10月26日に富山公演を行った。

「トスカ」

作曲：ジャコモ・プッチーニ  
芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
指揮：ジェラルド・コルステン 演出：アントネッロ・マダウ=ディアツ  
期間、回数、日数及び入場者数等

期間	回数	日数	入場者数	目標	入場率
11月9日～11月16日	4回	4日	6,361人	5,400人	88.2%

会場 オペラ劇場  
入場料 S席18,900円、A席15,750円、B席12,600円、C席9,450円、D席6,300円、E席3,150円、Z席1,500円  
制作意図

新国立劇場レパートリー作品の上演。プッチーニの作品で最もドラマチックな作品であり、音楽的にもドラマとしても完成度が高いこの作品は新国立劇場でも人気オペラのひとつで、オペラの醍醐味を満喫できる自信のプロダクションである。

外部専門家等の意見

劇場のレパートリーとして、このプロダクションのようなオーソドックスな作品を持つことは良いこと。3幕牢獄の場面転換は不要ではないか。（賛否両論あり）

アンケート調査

毎公演実施 回答数：32人  
観客からは満足とやや不満足との回答があつた。

【特記事項】

新国立劇場主催公演にちなみ、11月12日にヒルトン東京2階レストラン「Twenty One」においてワイン&ダイニング「オペラの夕べ」と題して「トスカ」をモチーフにしたコース料理とワインを、出演者、芸術監督、指揮者、演出家とともに

A

現代舞台芸術の公演については、各分野の芸術監督の公演方針のもと、企画に工夫があり、新国立劇場ならではの演目、演出選定であった。一部の公演について、企画意図が舞台成果に結び付かず、また入場者数が目標に達しないものがあったが、全般的には企画意図に沿って制作・実施されている。さらに、公演以外の事業についても、その目的に沿って成果があがっているものと認められる。また、その水準も高い内容であった。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、新国立劇場で実施する意義等を明確にし、公演については企画意図に沿った制作・実施が、また公演以外の事業についてもその目的に沿って、いずれも効果的に行われることが望ましい。

なお、入場者数が目的に達しなかった公演については、その理由を調査・分析し、次の公演の実施に反映させることが望ましい。

また、連携・協力、地方における上演等については、その回数を増やすことが望まれる。

さらに、観客の動静を把握するためのアンケートの回収率を向上するための工夫が望まれる。

A

新芸術監督体制のもと、一部の公演に企画意図が舞台成果に結び付かなかつたものがあるが、オペラの代表的な作品に斬新な演出を加えた「フィガロの結婚」若手演出家の新演出による「イタリアのモーツァルト」日本の古典芸能に題材を求めた「鳴神ノ俊寛」など、総じて良好であった。

特に市川團十郎演出の「鳴神ノ俊寛」は高く評価される。今後とも、邦人作品の継続的な実施が望まれる。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、新国立劇場で実施する意義等を明確にし、観客のニーズの把握に努めるとともに、一層適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝を含め、その達成に努力することが望ましい。

また、常に演出力の水準の維持に努めるとともに、レパートリーの偏重を緩和し、バロックオペラや現代日本のオペラの公演を視野に入れた検討が望まれる。

に楽しむイベントが行われた。

「イタリアのモーツァルト」  
(モーツァルト作曲「ポントの王ミトリダテ」&「ルーチョ・シッラ」より)  
芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
指揮：平井秀明 演出：恵川智美

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
11月13日～11月16日	4回	4日	1,103人	1,000人	85.6%

会場 小劇場  
入場料 全席4,200円、Z席1,500円

制作意図

若手演出家の新演出作品をお見せする小劇場オペラ・シリーズは、新たに(THE PIT OPERA One Two Three)と銘打ち、グランド・オペラ作品を違った観点から観る機会を提供する場として再出発する。本作品では、モーツァルトの書簡集を基に、イタリアで初演された二つのオペラ「ポントの王、ミトリダテ」「ルーチョ・シッラ」を織り交ぜて、ドラマ仕立ての舞台作品を創作し、モーツァルトの歩みを新たな角度から照射する試みに挑む。

外部専門家等の意見

上演機会の少ない作品の上演という意味では、2演目からの抜粋とはいえ、意義のある挑戦であった。

アンケート結果

毎公演実施 回答数：10人  
概ね満足という意見だった。

【特記事項】

新聞評では、モーツァルト初期の2作品の聴き所をまとめるやり方、歌手陣の安定した歌唱、指揮の平井秀明の音楽が評価されたが、「モーツァルト役の性格が軽すぎる」と、役柄の設定に関しては一部注文があった。

「ホフマン物語」

作曲：ジャック・オффエンバック  
芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
指揮：阪哲朗 演出・美術：フィリップ・アルロー

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
11月28日～12月9日	6回	6日	8,752人	8,100人	80.9%

会場 オペラ劇場  
入場料 S席21,000円、A席17,850円、B席13,650円、C席10,500円、D席6,300円、E席3,150円、Z席1,500円

制作意図

シーズン二つ目の新制作として、オффエンバックの代表作で唯一のオペラ作品「ホフマン物語」を採り上げた。この作品では、ロマン派の小説家であり画家、音楽家であり法律家であったE.T.A.ホフマンを主人公に、自ら体験した三つの失恋物語を回想し、最後にミュースに慰められる「男の運命」が描かれる。指揮には、世界で活躍する日本人若手指揮者、阪哲朗氏を、演出・舞台美術・照明に、パイロイト音楽祭で「タンホイザー」を手がけたP.アルロー氏を起用、ベルエポックをキーワードに、幻想的な世界の創出をねらう。

外部専門家等の意見

音楽的に良くまとまっていた。

「ホフマン物語」のような作品はこういった斬新な演出がよい。もっと過激でもよかった。

今回は良かったが、初めてオペラを見る観客に対しては、あまりにもひねったような演出はどうか。バランスの問題だが、演出が作品にどれほどマッチしているか、意図を表現できているかが大きなポイントだ。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：86人  
観客からも満足したとの回答が多かった。

【特記事項】

メディア評では、ドラマの幻想性を浮き彫りにする視覚的効果が高く評価された。また、キャスティングに関して、内外の中堅と若手歌手をバランス良く配し、アンサンブルで聴かせる方針が評価される一方で、歌手に対する技術的な要望や、音楽に対してより強い主張を求める声があった。

新国立劇場主催公演にちなみ、11月8日にヒルトン東京2階レストラン「Twenty One」においてワイン&ダイニング “オペラの夕べ”と題して「ホフマン物語」をモチーフにしたコース料理とワインを、出演者、芸術監督、指揮者、演出家とともに楽しむイベントが行われた。

「鳴神」「俊寛」

作曲：間宮芳生(「鳴神」)、清水脩(「俊寛」)  
芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
指揮：秋山和慶 演出：市川團十郎

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
1月30日～2月1日	3回	3日	4,424人	4,100人	81.8%

会場 オペラ劇場  
入場料 S席12,600円、A席9,450円、B席6,300円、C席3,150円、Z席1,500円

制作意図

今シーズンの日本オペラは、日本の古典芸能に題材を求めた二作品を採り上げる。両作品とも男が主役であり、いずれの「男たちの運命」も激しい嘆き、怒りの中で結末を迎えることとなる作品。歌舞伎界から十二代目市川團十郎を迎え、オペラ初演出に挑む。また日本の伝統芸能への造詣も深い、秋山和慶氏が指揮を担当、日本の伝統芸能と西洋の伝統芸術との融合を図る。

外部専門家等の意見

日本のオペラハウスらしい意義ある公演として高く評価できる。

音楽的に素晴らしい公演であったし、歌手人も高レベル。

演出は、もっと歌舞伎から離れても良かったのではないかと。宗家にしかできないような実験的な試みをする等、もう少し工夫があってもよかった。

日本発のオペラの再演・初演を充実し、レパートリーを増やして、国際的にも存在感を増して欲しい。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：22人  
観客からも満足したとの回答が多かった。

【特記事項】

メディアにおいては、市川團十郎のオペラ初演出ということで前評判も高く、また歌舞伎の所作を徹底して取り入れた演出が好評であった。「ともに400年の歴史を持つ歌舞伎とオペラの共通項の橋はかけられた」、「どちらのファンも他方に対して興味を持つきっかけを与えた」、「再演に値する作品。海外公演も夢ではない。」等の評があった。

ブッチーニ「外套」  
 作曲：ジャコモ・ブッチーニ  
 芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
 指揮：神田慶一 演出：粟國淳

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
2月5日～2月8日	4回	4日	1,101人	1,000人	85.5%

会場 小劇場  
 入場料 全席指定4,200円、Z席1,500円

制作意図

「グランドオペラ作品を違った観点から観る機会を提供する」小劇場オペラ第2弾は、耽美な旋律で有名なブッチーニのオペラの中でも演劇的要素の際だつオペラ「外套」を採り上げる。小劇場空間を創出させるために、オーケストラを舞台奥に配すことで、ドラマを前面に、舞台と観客が直接向き合い、その全体を音楽が包むという新しいオペラ空間を出現させた。若手演出家・粟國淳と、新国立劇場初登場の若手指揮者・神田慶一の起用により、若き才能たちの相乗効果で、よりドラマティックとなる、新しい「外套」の創出を目指す。

外部専門家等の意見

舞台演出が素晴らしく、登場人物の目線で事件と一緒に体験する一体感は、オペラ劇場で得られない新鮮で強烈な感覚であった。

小劇場オペラは、制約のある中での大変意欲的な取り組みであり、実験的な上演がいろいろできる空間なので、ぜひ続けて欲しい試みである。

これだけの上演成果を4,200円で観られることは、大変割安感がある。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：5人  
 観客からも満足したとの回答であった。

【特記事項】

メディアにおいては、「指揮の神田が小規模編成のオーケストラながら入念な音作り」、「演出の粟國の空間の想像力と濃厚な演劇性」、「歌手の力演」が高く評価された。

「スペインの燦き - ラヴェル～バレエとオペラによる～」

オペラ「スペインの時」、バレエ「ダフニスとクロエ」、言葉のない小品「洋上の小舟」、バレエ「ボレロ」

作曲：モーリス・ラヴェル  
 芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー（オペラ）、牧阿佐美（舞踊）  
 指揮：マルク・ピオレ 演出・振付：ニコラ・ムシン

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
2月18日～2月22日	5回	5日	6,945人	6,800人	77.1%

会場 オペラ劇場  
 入場料 S席12,600円、A席9,450円、B席6,300円、C席3,150円、Z席1,500円

制作意図

世界的にも珍しい試みとなる、バレエとオペラによるラヴェル4作品の上演を行う。演出・振付に、新世代振付家として各国で活躍するN.ムシン、美術・衣裳デザインに建築・絵画・服飾・舞台美術で活躍するD.ピッツィゴニー、指揮に若手指揮者の中で注目を集めているM.ピオレを迎え、共同作業により、ラヴェルが本来持つ様々な魅力を引き出すと共に、作曲家ラヴェル自身の「男の運命」をも見出す事を試みる。

外部専門家等の意見

バレエと音楽の壁を超えて公演することは意義ある試みである。また、バレエとオペラ双方の観客が共有することは、相互に新しい世界を体験する良い機会であり、新たな観客の動員を図ることができる。

一体何をしようとしたのか、ねらいが明確に伝わってこなかった。「スペイン」という括りとしては、選曲に疑問が残った。モーリスを狂言回しに仕立てた意味合いがやや希薄であった。バレエ団は素晴らしい踊りを披露したが、バレエ本来の美しい身体の動きを衣裳の中に閉じこめてしまった等、生かして切れていなかった。視覚的变化に富む演出であったが、ドラマとしての構成を弱くしていた。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：65人  
 満足、不満足が半々であった。

【特記事項】

異ジャンルの共同作業であることや、有名人気デザイナーが美術・衣裳を担当することで、多方面から注目を集めた。メディア評としては、バレエとオペラの交流を図る試みは評価されたが、公演成果については、今一つ評価を得られなかった。ジョン・健・ヌッツォの降板で出演した羽山晃生は、好演との評価を受けた。

新国立劇場主催公演にちなみ、1月24日にヒルトン東京2階レストラン「Twenty One」においてワイン&ダイン “オペラの夕べ”と題して「スペインの燦き」をモチーフにしたコース料理とワインを、出演者、芸術監督、指揮者、演出家とともに楽しむイベントが行われた。

「サロメ」

作曲：リヒャルト・シュトラウス  
 芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
 指揮：フリードリヒ・ハイダー 演出：アウグスト・エファージンク

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
2月27日～3月7日	4回	4日	5,808人	5,400人	80.6%

会場 オペラ劇場  
 入場料 S席15,750円、A席13,650円、B席10,500円、C席7,350円、D席5,250円、E席3,150円、Z席1,500円

制作意図

新国立劇場のレパートリー作品の中で特に人気が高い作品を再演する（3回目）。この作品は、ドイツ演出家の巨匠、故A.エファージンクの手による。今回は、サロメ役に2001年フランクフルト・オペラに同役デビューしセンセーションを巻き起こしたエヴァ・ヨハンソン、ヨハナーン役に圧倒的な歌唱力が高い評価のアラン・タイタス等の実力派を配し、耽美的な装置、完成度の高い演出により濃密な官能美を描く。

外部専門家等の意見

初演同様の非常に良く構成された迫力ある舞台であった。

歌手人が期待以上に効果を出し、日本人歌手の奮闘も目立った。サロメは定番になってきた。「今度の歌手はどうか」という、定番ならではの楽しみが持てて良い。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：21人  
 観客からも満足したとの回答が多かった。

【特記事項】

新国立劇場主催公演にちなみ、2月28日にヒルトン東京2階レストラン「Twenty One」においてワイン&ダイン “オ

ペラのタベ」と題して「サロメ」をモチーフにしたコース料理とワインを、出演者、芸術監督、指揮者、演出家とともに楽しむイベントが行われた。

「神々の黄昏」  
 作曲：リヒャルト・ワーグナー  
 芸術監督：トーマス・ノヴォラツスキー  
 指揮：準・メルクル 演出：キース・ウォーナー

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
3月26日～3月31日	4回	4日	6,250人	5,400人	86.7%

\*事業全体では、3月26日～4月4日(6回、6日)入場者数9,529人(目標8,100人)

会場 オペラ劇場  
 入場料 S席23,100円、A席18,900円、B席14,700円、C席11,550円、D席7,350円、E席4,200円、Z席1,500円

外部専門家等の意見  
 日本でこれだけのリングのプロダクションができたという、感慨深い印象的な公演であった。  
 藤村実穂子、長谷川顯等、国内ではあまり知られていない日本人歌手の成長を目の当たりにすることができたことは大きな収穫。  
 当初、トーキョー・リングという響きの軽さとポップで奇妙な演出に面食らったが、年を追うごとに馴染んできて、緻密な仕掛け・演出により、知的好奇心をかきたてる刺激の多い上演になったと思う。  
 世界に向けて発進力のある、誇れるトーキョー・プロダクションになったと思う。準・メルクルとN響は素晴らしく、演出とも良くマッチしていた。

アンケート調査  
 アンケート調査 回答数：105人  
 観客からも満足したとの回答が多かった。

【特記事項】  
 共催：日本オペラ団体連盟  
 メディア評は概ね良好であり、リング第1作「ラインの黄金」上演時より、一貫して言われてきた「世界に誇れるプロダクションが、日本のオペラ界にようやく誕生した」という意見が改めて述べられた。  
 チクルス上演(リング4作品連続上演)への期待が、専門委員会、メディア誌上、観客アンケートのいずれにおいても話題となった。  
 新国立劇場主催公演にちなみ、日本ワーグナー協会主催のワーグナー・ゼミナールが開催された(『神々の黄昏』集中ゼミ、10月～11月毎月1回計4回開催、東京芸術劇場大会議室にて)。

入場者数の達成状況	45,300人以上	31,710人以上 45,300人未満	31,710人未満
-----------	-----------	------------------------	-----------

平成15年度実績 49,570人  
 (目標 45,300人)

・バレエ

(振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する)

新国立劇場バレエガラ「THE CHIC」  
 第1部 「シンフォニー・イン・C」  
 第2部 パ・ド・ドゥ集(「ラ・バヤデル」第3幕より、「こうもり」より、「ジゼル」第2幕より、「ロメオとジュリエット」より)  
 第3部 「ジャルディ・タンカート」  
 芸術監督：牧阿佐美

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
10月3日～10月5日	3回	3日	1,875人	1,900人	69.0%

会場 中劇場  
 入場料 S席10,500円、A席8,400円、B席6,300円、C席3,150円、Z席1,500円

制作意図  
 2003/2004シーズンに活躍する新国立劇場バレエ団メンバーの顔見せも兼ね、シーズン開幕を飾るバレエガラ「THE CHIC」(ザ・シック)を中劇場で上演した。プログラムは、バランシン振付の名品「シンフォニー・イン・C」、古典から近現代作品に至るパ・ド・ドゥ集、そして現代スペインを代表する振付家ナチョ・ドゥアト作品「ジャルディ・タンカート」(新国立劇場初演)の三部作構成。特にパ・ド・ドゥ集は本シーズンに上演する全幕公演からの抜粋をできるだけ入れ込み、シーズン各演目への観客の興味を喚起するものとした。

外部専門家等の意見  
 一晩もの全幕公演では1組の主役しか登場しないが、バレエガラは同時に複数のバレエ団、主役ソリストの踊りを見ることができる。異なったスタイルの様々な作品でバレエの醍醐味を堪能できること、上演時間が比較的短い公演になるなど、日頃バレエにあまり触れていない若年層にも最適で、観客にアピールする利点が大い了好企画となっていた。録音テープを音源に使い、チケット料金を安くしたり、地方での公演に供してはどうか。

アンケート調査  
 アンケート調査 回答数：41人  
 観客からも満足したとの回答が多かった。

「マノン」  
 振付：ケネス・マクミラン 音楽：ジュール・マスネ  
 芸術監督：牧阿佐美

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
10月29日～11月3日	6回	6日	7,742人	7,600人	71.6%

会場 オペラ劇場  
 入場料 S席10,500円、A席8,400円、B席6,300円、C席3,150円、Z席1,500円

制作意図  
 英国の名振付家マクミランによる「マノン」を日本のバレエ団として初めて取得した。マクミランは20世紀を代表する振付家の中でも特に全幕バレエの構成力に優れドラマチックな舞台を作り出しているが、「マノン」は彼のオリジナル作品の中でも最高傑作と言われ、他の追従を許さない舞踊性を表出している。世界でも本作品をレパートリーとしている劇場は大変少なく、ロイヤルバレエ以外ではパリオペラ座、ミラノスカラ座、アメリカンバレエシアター等限られたバレエ団のみ。新国立劇場では、開場6年目にして本作品を取得して世界の有数劇場に比肩する高いバレエ団レベルとレパートリーの充実を図り、現代グランドバレエの神髄を日本の観客に堪能いただくことを目指した。

外部専門家等の意見  
 新国立劇場でなくては実現しなかった高水準の舞台として高く評価する。日本人キャストを含む各主役の熱演も大変高レベルで堪能できた。こうした見応えのある舞台創りと、物語を見事に演じるダンサーが、今後も新国立劇場から生

芸術監督のもと、1公演の入場者数が目標に達していないが、新国立劇場バレエ団メンバーの顔見せを兼ねたバレエガラ「THE CHIC」ケネス・マクミラン振付による「マノン」など、各公演とも企画意図に沿って制作・実施され、成果があがったものと認められる。

【より良い事業とするための意見等】  
 今後とも、新国立劇場で実施する意義等を明確にし、観客のニーズの把握に努めるとともに、一層適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝を含め、その達成に努力することが望ましい。  
 また、外部専門家等の批判的かつ建設的な意見を積極的に聴取し、事業に反映していくことが望まれる。

まれてくることを期待する。  
アンケート調査  
毎公演実施 回答数：92人  
観客からも満足したとの回答が多かった。

【特記事項】

酒井はな、小嶋直也、湯川麻美子等の日本人出演者に加えて、当代のマノン役としてファン待望のアレクサンドラ・フェリを迎えた。また、デ・グリュ役、レスター役、両役を演じきったドミニク・ウォルシュとロバート・テューズリーに加え、同バレエをレパートリーとするバリオペラ座の協力を得てクレールマリ・オスタを配するなど、キャストを充実することができた。  
メディア評においても、「予想を遙かに超えて完成度の高い舞台になった。」「入念なりハーサル成果が伺える充実した舞台」との評価を得た。

「シンデレラ」  
振付：フレデリック・アシュトン 作曲：セルゲイ・プロコフィエフ  
芸術監督：牧阿佐美

期間、回数、日数及び入場者数等					
期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
12月12日～1月12日	7回	7日	9,493人	8,800人	75.3%

会場 オペラ劇場  
入場料 S席9,450円、A席6,300円、B席4,200円、C席3,150円、Z席1,500円

制作意図

新国立劇場では年末にふさわしい公演として「くるみ割り人形」「シンデレラ」「こうもり」の定着を図っているが、本シーズンはローラン・プティの「こうもり」と共に、英国人振付家アシュトンによる「シンデレラ」を12月から1月にかけて上演した。本作品は誰もが知っているファンタジックな物語でバレエの楽しさに溢れていることから「子供に見せたいバレエ」のひとつとして人気が高く、99年の新国立劇場初演以来三度目の再演となった。家族揃って観劇する年末恒例の舞台として、バレエ顧客の底辺拡大を目指した。

外部専門家等の意見

出演者、演出、舞台美術共に素晴らしく新国立劇場でなければ実現しない公演と感ずる。  
第1期バレエ研修修了者さいとう美帆が主役デビューを果たしたが、将来を予感させるスター性を見せて好演。こうした新人デビュー、スター誕生が続くことを期待する。  
「シンデレラ」や「眠れる森の美女」は、若い観客にもアピールするし、将来の観客作りには最適の演目だと思う。もっと多くの観客に観てもらえないか検討してほしい。

アンケート調査  
毎公演実施 回答数：75人  
観客からも満足したとの回答が多かった。

【特記事項】

年末上演に適した作品として新国立劇場が「くるみ割り人形」だけでなく、民間バレエ団にはない「シンデレラ」「こうもり」をレパートリーとして持っている点は、バレエ顧客の底辺拡大のために効果的。  
メディア評においては、主役陣の好演に対する評価とともに、「最近の新国立劇場の見所は、ダンサーの層が厚くなった点」が評価された。

「こうもり」  
振付：ローラン・プティ 音楽：ヨハン・シュトラウス 世  
芸術監督：牧阿佐美

期間、回数、日数及び入場者数等					
期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
12月21日～12月23日	3回	3日	3,851人	3,800人	71.2%

会場 オペラ劇場  
入場料 S席10,500円、A席8,400円、B席6,300円、C席3,150円、Z席1,500円

制作意図

アシュトン版「シンデレラ」と共に本シーズン年末に再演した「こうもり」は、現代バレエ界の最高峰ローラン・プティが新国立劇場のために衣裳装置を一新して平成14年9月に日本初演した作品。プティが織りなす小粋な舞台にはパリの薫りが溢れ、主人公たちの演技を見守る観客の一人一人に本バレエのテーマである「もう一度、あなた自身とあなたの奥様（ご主人）を見直して！愛の駆け引きを大切に」を思い起こさせる。まさにフランスのエスプリ溢れる大人の舞台。古典バレエにはない魅了を持つ本プロダクションには初演直後から再演を待望する声寄せられたため、初演に続く年に再演を企画した。

外部専門家等の意見

日本のバレエ団とダンサーたちがここまで進歩したかと感慨深く見た。主役出演者のほとんどが新国立劇場ダンサーだったが、それぞれ大変好演でプティのフランス流軽妙な舞台と物語を堪能した。  
大人が大いに楽しめる極上の作品で、新国立劇場として大切に上演し続けてほしいレパートリーである。

アンケート調査  
毎公演実施 回答数：17人  
観客からも満足したとの回答が多かった。

【特記事項】

本プロダクションは新国立劇場での公演後にミラノスカラ座でも衣裳装置を新製作して上演されたが、ほぼ同時期に日伊2つのバレエ団を指導したローラン・プティ氏からは、「新国立劇場バレエ団は、統率のとれたコール・ド・バレエ、振付家の要望を瞬時に理解し演じるソリストの高い能力、そして日本人の持つデリケートな表現力によって「こうもり」を最高のレベルまで引き上げた点で、世界のどこにも負けないバレエ団である」と賛辞を贈られたことを特記したい。  
メディア評においても「いろいろな笑いを引き出すプティの演出と、それを演じきる個性豊かな出演者に恵まれた。愛すべきレパートリーである。」「バレエ団はプティ作品の快活さとエレガンスについて最高の理解を示し、過剰な売り込みにならぬ手段をよく心得ていた」等の評価があった。

入場者数の達成状況	22,100人以上	15,470人以上 22,100人未満	15,470人未満
-----------	-----------	------------------------	-----------

平成15年度実績 22,961人 (目標 22,100人)	A
----------------------------------	---

・現代舞踊  
振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

ダンスアトロン 10「ヘリコプター」「春の祭典」  
振付：アンジュラン・プレルジョカージュ  
芸術監督：牧阿佐美

期間、回数、日数及び入場者数等					
期 間	回 数	日 数	入 場 者 数	目 標	入 場 率
11月7日～11月9日	3回	3日	1,960人	1,900人	71.3%

A  
芸術監督のもと、1公演の入場者数が目標値に達していないが、フランスから招へいしたアンジュラン・プレルジョカージュ振付による「ヘリコプター」新鋭のコリオグラファー（振付家）岩淵多喜子を起用した「Against Newton」など、各公演とも企画意図に沿

会場 中劇場  
入場料 S席5,250円、A席4,200円、B席3,150円、Z席1,500円  
制作意図  
新国立劇場では、日本人振付家を起用しての現代舞踊プロデュース公演の他に、海外の高レベルのコンテンポラリーダンスを広く日本の観客に紹介することを一つの柱としている。本公演は、長年にわたりフランスダンス界のトップグループとして活躍を続け、日本におけるフランス・ヌーベルダンスの先駆けとして多くのアーティストに影響を与えたバレエ・プレルジョカージュを招聘して、日本初演の二作品「ヘリコプター」と「春の祭典」を上演するものである。  
なお、フェスティバル“フランス・ダンス・03”(フランス外務省フランス芸術文化活動協会、フランス大使館主催)参加公演としても実施。  
外部専門家等の意見  
頻繁に来日し見慣れている海外ダンスカンパニーと異なり、バレエ・プレルジョカージュ公演は、久方ぶりの来日でも日本初演二作品が上演され大変見応えがあった。一見暴力的に見えるが計算された力感あふれる舞台創りは日本のダンス界に大きな刺激となったと思う。  
大胆な装置や映像効果も秀逸で堪能できる公演であった。  
新国立劇場としては、日本人振付家を起用してプロデュース公演を行うという大方針を重視しながら、他方、今回のように時期を選びレベルの高い海外団体招聘を行うことを今後も検討していいのではないかとアンケート調査  
毎公演実施 回答数：11人  
観客からも満足したとの回答が多かった。  
【特記事項】  
プレルジョカージュ氏は若い時期に日本文化や柔道の習得のため日本に滞在した経験を持つ。そのため、作品には柔道の組み手をヒントにして振付された部分があるなど日本人振付家にとっても興味深い点が多かった。  
出演者中の同カンパニー所属の日本人大岩淑子も健闘、海外で活躍するダンサーの里帰り公演となった。  
メディア評としては、「何という発想の奇抜さ、洒落た形象」、「暴力的エネルギーを秀逸な身体表現に高めた舞台」、「人間の暗い本性をあからさまにする」等の評価があった。

ダンスプラネット 14  
「Against Newton」 構成・演出：岩淵多喜子  
「騒ぐにはもってこいの日」 演出・振付：武元賀寿子  
芸術監督：牧阿佐美  
期間、回数、日数及び入場者数等  

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
2月13日～2月15日	3回	3日	593人	700人	58.1%

  
会場 小劇場  
入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円  
制作意図  
新国立劇場では、これまでも作風の異なる二人のコンテンポラリーダンス振付家が登場して、それぞれの個性溢れる作品を披露することを意図した公演を何度か上演して好評を博してきた。本公演ではヨーロッパでも活動を展開している岩淵多喜子と独特の舞踊表現で支持を得ている武元賀寿子が登場し、対照的な女性振付家二人による公演を企画した。  
外部専門家等の意見  
コンテンポラリーダンスは振付家個々の持つ豊かな創造力、豊かな表現力が必須だが、今回は特に異なる個性でプログラムされていた。岩淵作品は、作品後半部分での主張を貫く姿勢が見てとれた。武元作品は、現在到達しているダンサー武元自身を音楽とのコラボレーションで見せ存在感を示した。  
アンケート調査  
毎公演実施 回答数：4枚  
観客からも満足したとの回答だった。

入場者数の達成状況	2,600人以上	1,820人以上 2,600人未満	1,820人未満	平成15年度実績 2,553人 (目標 2,600人)	B

・演劇  
振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

「夢の泪」  
作：井上ひさし 演出・芸術監督：栗山民也  
期間、回数、日数及び入場者数等  

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
10月9日～11月3日	26回	23日	7,039人	5,800人	85.6%

  
会場 小劇場  
入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円  
制作意図  
「東京裁判は正しい裁きだったのか。」現代史に埋もれてしまいかもしれない、善か悪かを問う二項対立では決して解けぬ事実を、繰り返し見つめていくことを目的として、栗山芸術監督と劇作家井上ひさしとで、東京裁判3部作が企画された。このシリーズでは、現在そして未来を生き延びるために、歴史と現在に横たわる答のない多くの疑問を、庶民の視点から大胆に問いかけ、過去を検証する。そしてその登場人物の姿を「恐ろしい喜劇」として上演する。  
本作品は、第1部「夢の裂け目」(平成13年5月)に続く第2部に当たる。なおこの3部作は、同じスタッフ、俳優陣によって創作される。  
外部専門家等の意見  
東京裁判という重いテーマを、井上ひさしならではの娯楽性をもって作り上げたのは見事。但し、3部作の2作目としてはもう少しテーマをストレートに書いても良かったかもしれない。  
三部作が完結した時点で、通し上演を考えて欲しい。  
アンケート調査  
毎公演実施 回答数：265人  
観客から「ひきつけられる内容だった」「感動した」「政治や戦争について、自分がしっかりと考えることが大切だ」とのコメントがあり、概ね満足との回答であった。  
【特記事項】  
メディア評として、「東京裁判という重い題材を、娯楽色の強い音楽劇として描く。こんな離れ業ができる劇作家がほかにいるだろうか。」「東京裁判に直球で挑む。「敗北を抱きしめて」立ち上がった人々の思いがよく伝わってくる。」等があった。

「世阿彌」  
作：山崎正和 演出・芸術監督：栗山民也  
期間、回数、日数及び入場者数等

って制作・実施され、成果があがったものと認められる。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、新国立劇場で実施する意義等を明確にし、観客のニーズの把握に努めるとともに、一層適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝を含め、その達成に努力することが望ましい。

芸術監督のもと、1公演の入場者数が目標に達していないが、井上ひさし作「夢の泪」、香港との交流による「The Game/ザ・ゲーム」、永井愛作・演出「ごんにちは、母さん」など、各公演とも企画意図に沿って制作・実施され、成果があがったものと認められる。  
特に中劇場における山崎正和作「世阿彌」などは、高く評価できる。

【より良い事業とするための意見等】

「The Game/ザ・ゲーム」のようなアジアの劇団の招聘は意義があると思うが、知名度に乏しいため、他の公演と同率の入場者の目標値を設定することは困難である。公演の内容等に従って適切に入場者の目標値を設定することが望まれる。  
また、今後とも、新国立劇場で実施する意義等を明確にし、観客のニーズの把握に努めるとともに、適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝を含め、その達成に努力することが望まれる。

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
11月27日～12月21日	22回	22日	14,354人	14,000人	72.0%

会場 中劇場  
入場料 S席7,350円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

制作意図

新国立劇場の演劇では、過去の名作戯曲を現代の視点から見直し、新たなる作品として残すということを重点のひとつとしている。今回は作者、山崎正和が20代に発表し絶賛された「世阿彌」(第9回岸田戯曲賞受賞)を取り上げ、スケールの大きな作品として中劇場での上演に挑戦した。

外部専門家等の意見

中劇場という広い空間に、あえて舞台装置を簡略的にした空間を作り、光と影のテーマに沿った装置、照明、衣裳を意識した演出は評価に値する。ただし、中劇場の空間を生かすのは、大きな課題であることも感じた。ジャンルの異なる俳優達の交流は、意義があった。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：498人

観客からは、「とても魅きつけられて食い入るように見た」「難解だったが、最高だった」などがあり、概ね満足したとの回答であった。

【特記事項】

メディア評としては、「とぎすまされた言葉と言葉が戦うような緊密な対話劇。能舞台を思わせる黒い床に人間関係が鮮明に浮かぶ」、「観察者の視点によって賞かれた舞台。すべてがうたかたの夢にすぎないと示す演出によって、戯曲が現代性を持った。」等があった。

「The Game/ザ・ゲーム」

演出・翻案・出演：ジム・チム、オリヴィア・ヤン 芸術監督：栗山民也

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
2月20日～2月29日	10回	9日	1,643人	2,100人	54.8%

会場 小劇場  
入場料 A席4,200円、B席3,150円、Z席1,500円

制作意図

フランス太陽劇団による「堤防の上の鼓手」、ロシアチューホフ記念フェスティバル公演、ベーターシュタイン演出による「ハムレット」に続く、海外招待作品第3弾として、香港から斬新な解釈と躍動感溢れる期待の劇団、香港「劇場組合」の公演を企画した。イヨネスコの「椅子」を大胆に翻案した本作品は、香港の数々の賞を受賞した。また、その独特の肉体的表現と台詞術による新しい作風は、アジア演劇の最先端を行くものであり、世界的レベルの演劇と評されている。

外部専門家等の意見

アジアの演劇に目を向けたことは、アジアの国同士の交流を含めて評価すべき事。

作品は実験的で刺激的だったと思う。二人の俳優は高度に訓練されていて、熱演で、質の高さを感じた。ただし、表現が言葉の壁を超えるまでは至らなかったと思う。字幕が見にくかった。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：123人

観客からは、「身体でこんなに表現できるってすごいと思った。」「シュールな状況の劇だったが、インパクトがある芝居だった。」などのコメントがあり、概ね満足したとの回答であった。

【特記事項】

公演準備期間中に「劇場組合」主催、(社)日本劇団協議会共催で、ワークショップが開催された。

メディア評としては、「知的刺激にあふれたパフォーマンスで観客を引きつけた。香港演劇界の実力を知った。」との評があった。

「こんにちは、母さん」

作・演出：永井愛 芸術監督：栗山民也

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
3月10日～3月31日	20回	20日	5,845人	4,800人	86.0%

会場 小劇場  
入場料 A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

制作意図

平成13年3月に新国立劇場主催公演として初演し、第9回読売演劇大賞最優秀作品賞及び大賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、紀伊國屋演劇賞団体賞対象作品など数々の賞を受賞し、高い再演希望に応じて上演を決定した。完成度をさらに高め、作品の持つ普遍的なテーマをより深く掘り下げることを目指した。

外部専門家等の意見

初演に比べ、余分なものが刈りこまれた分、役者のしどころが多くなったが、出演者は十分それに応えていた。このカンパニーの身上であるアンサンブルの良さは変わらない。この再演では、周囲の人々もくっきりと浮かび上がり、それぞれの孤独と不安を抱え生き感う姿がごく自然に見えてくるものになっている。

初めての全国公演の作品であるが、誠にふさわしい仕上がりだし、新国立劇場にとっても具体的に広く見てもらう上でプラスに働くであろう。

アンケート調査

毎公演実施 回答数：330人

観客からは、「待望の再演が見られて良かった。」「いろいろな想いが胸をいっぱいにさせてくれる作品」等のコメントがあり、非常に好評であった。

【特記事項】

メディア評として、「陰影深まる母子の肖像。初演以上の精彩がある。」「空襲の悲惨、息子と対立した父の戦場体験、そうした記憶語りや交錯し、花火の音と喪失感が溶け合う。この空気にこそ芝居にしかない玄妙な味わいがある。」という評があった。

「透明人間の蒸気」

作・演出：野田秀樹 芸術監督：栗山民也

期間、回数、日数及び入場者数等

期 間	回数	日数	入場者数	目 標	入場率
3月17日～3月31日	17回	13日	15,539人	10,800人	100.9%

\*事業全体では、3月17日～4月13日(32回、24日)入場者数29,598人(目標20,300人)

会場 中劇場  
入場料 S席7,350円、A席5,250円、B席3,150円、Z席1,500円

制作意図

近年の作者の作品である「パンドラの鐘」「オイル」などの原点に位置づけられる13年前に初演された作品の再演で、21世紀の現在、新国立劇場が上演するにふさわしいテーマを持つ意義深い作品として、上演を決定した。演出は期待通

				<p>り、新国立劇場中劇場の大きな舞台空間を十分に生かした作品作りがなされていたと考える。</p> <p>外部専門家等の意見 中劇場独特の、この劇場ならではの奥行きを意識的に十分使った演出が強く印象に残る。その意味ではこの劇場の空間はほかに例を見ないと言っていいだろう。それだけに、どういもの上演するのかの選択にかなりの神経を使わなければならない。</p> <p>初演に比べストーリーがすっきりした。軽やかな言葉遊びとスピーディーな動き、ユニークなビジュアル。まさに若者を引きつける舞台作り。しかしこの反面、初演時にこの作品が持っていたディープなモチーフは影が薄くなった。もう一つ、役者の「記号性」が気になった。</p> <p>「こんにちは、母さん」と全く違う観客で埋まり、幅広い観客層に作品を提供したと言う点で評価できる企画。</p> <p>アンケート調査 毎公演実施 回答数：3,603人 観客からも満足したとの回答が多かった。</p> <p>【特記事項】 1991年初演の舞台から配役を一新し、21世紀版としてリメイクした。 メディア評として、新鮮な配役に加え新国立劇場の空間を縦横に使った演出に対する評価、出演者のひとりである宮沢りえの好演に対する評価等があった。</p>			
	入場者数の達成状況	37,500人以上	26,250人以上 37,500人未満	26,250人未満	平成15年度実績 44,420人 (目標 37,500人)	A	
	(2)-2 青少年を対象とした現代舞台芸術の公演	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する			平成15年度は対象となる実績なし(平成15年7月に実施)		
	(2)-3 連携協力・地方における上演等	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する			<p>1. 外部団体との連携等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年度文化庁芸術祭主催公演 オペラ「フィガロの結婚」(10月10日～21日、オペラ劇場)</li> <li>バレエ「マノン」(10月29日～11月3日、オペラ劇場)</li> <li>外部団体との連携協力による公演 二期会オペラ振興会共催公演 オペラ「鳴神ノ俊寛」 1月30日～2月1日(3回公演) オペラ劇場</li> <li>日本オペラ団体連盟共催公演 オペラ「神々の黄昏」 3月26日～4月4日(6回公演) オペラ劇場</li> <li>外部団体からの受託による公演 文化庁芸術祭執行委員会主催公演の制作 芸術祭オープニング・国際音楽の日記念コンサート 「オペラ・ガラ・コンサート」の制作 10月1日(1回公演) オペラ劇場</li> </ul> <p>2. 地方における上演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オペラ「フィガロの結婚」 富山市オーバード・ホール 10月26日(1回実施)</li> </ul>	B	
3. 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	(1)-1 伝統芸能の伝承者の養成	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する			<p>(1) 歌舞伎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養成 歌舞伎俳優・第17期生(6人)の2年目の研修を実施し、研修を修了。 歌舞伎音楽(鳴物)・第12期生(3人)の1年目の研修を実施。 歌舞伎音楽(長唄)・第2期生(1人)の3年目の研修を実施し、研修を修了。</li> <li>募集 歌舞伎俳優第18期生、歌舞伎音楽(長唄)第3期生の募集を行った。</li> <li>主たる研修場所 国立劇場本館、国立演芸資料館</li> </ul> <p>(2) 大衆芸能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養成 寄席囃子・第12期生(4人)の1年目の研修を実施。 太神楽・第3期生(2人)の3年目の研修を実施し、研修を修了。</li> <li>募集 太神楽・第4期生の募集を行った。</li> <li>主たる研修場所 国立劇場本館、国立演芸資料館</li> </ul> <p>(3) 能楽(三役)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養成 第6期生(3名)の5年目の研修を実施。 第7期生(5名)の2年目の研修を実施。</li> <li>主たる研修場所 国立能楽堂</li> </ul> <p>(4) 文楽(三業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養成 第20期生(2名)の2年目の研修を実施し、研修を修了。</li> <li>募集 第21期生の募集を行った。</li> <li>主たる研修場所 国立文楽劇場</li> </ul> <p>(5) 組踊の立方、地方の養成研修 伝統組踊保存会、沖縄県文化課等関係団体と募集人員、応募資格等の協議を行い、国立劇場おきなわ専門委員会では、研修メニューやカリキュラム等の実施方法について検討を行った。</p> <p>(6) 既成者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>能楽若手研究会の開催 能楽の研修修了生等による能楽若手研究会を、大阪(大槻能楽堂) 東京(国立能楽堂)において実施した。</li> <li>歌舞伎音楽・竹本の既成者に対し、芸芸向上のための研修を実施した。</li> </ul>	A	A
	歌舞伎(俳優、音楽)	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する			<p>1. 歌舞伎俳優第17期生・第2年次(最終年)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人員 6人</li> <li>授業内容 (実技) 歌舞伎実技、化粧、日本舞踊、義太夫、下座音楽、発音・発声等 275回 (座学その他) 作法、講義、体操、公演見学等 37回</li> <li>主な講師 中村又五郎、澤村田之助、尾上松助、松本錦吾、中村吉之丞、花柳泰助、花柳錦吾、藤間勘十郎、藤間勘紫寿、竹本朝重、杵屋喜三郎、杵屋寒玉、田中佐太郎、杵屋巳太郎、荒木達雄、平田悦朗、米川文子、天森悦子、桜井宗梅、近藤瑞男他(30名)</li> <li>その他 研修修了生6名は、幹部俳優に入門するまでの期間、伝統歌舞伎保存会に所属し就業することとなった。</li> </ul>	A	
						<p>外部との連携・協力、特に地方への巡回公演は、新国立劇場の活動の範囲を拡大するとともに、結果として新国立劇場のみならず連携協力先の劇場における公演制作経費の節減にもつながるものである。民間の制作団体が多いこと、地方における期待が大きいことから、地方巡回公演の回数の増加が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 特にオペラについては、企画段階からの、地方への巡回公演を視野に入れた制作や、地方公共団体等との連携協力も望まれる。</p>	

		<p>2. 歌舞伎音楽（鳴物）第12期生・第1年次の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員 3人</li> <li>・授業内容（実 技）長唄、鳴物 235回 （座学その他）作法、講義、公演見学等 54回</li> <li>・主な講師 田中佐太郎、田中傳次郎、田中傳兵衛、望月太左衛門、望月太左之助、望月太喜二郎、杵屋巳太郎、柏伊三郎、鳥羽屋里長、鳥羽屋里夕、桜井宗梅、天森悦子、近藤瑞男、景山正隆他（19名）</li> </ul> <p>3. 歌舞伎音楽（長唄）第2期生・第3年次（最終年）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員 1人</li> <li>・授業内容（実 技）長唄、鳴物、謡曲、舞台・楽屋実習等 177回 （座学その他）作法、講義、公演見学等 40回</li> <li>・主な講師 杵屋巳太郎、柏伊三郎、杵屋長四郎、鳥羽屋里長、芳村孝太郎、鳥羽屋里夕、田中佐太郎、田中傳次郎、望月太左衛門、望月太左衛、関根祥人、桜井宗梅、天森悦子、近藤瑞男他（20名）</li> <li>・その他 研修修了生1名は、尾上菊五郎劇団音楽部に所属し就業することとなった。</li> </ul> <p>4. 発表会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎俳優（17期生）歌舞伎音楽・長唄（2期生）大衆芸能・大神楽（3期生）合同研修発表会 11月20日 本館小劇場</li> <li>・歌舞伎俳優（17期生）歌舞伎音楽・長唄（2期生）合同研修修了発表会 3月10日 本館小劇場</li> </ul> <p>5. 募集・選考状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎俳優第18期生の募集       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人員 11人</li> <li>(2) 募集・選考状況 平成16年1月から3月にかけて、中学卒業以上23歳以下の男子を対象に、第18期生の募集を行った。応募総数13名。4月7日に選考を行い、11名が合格。7月に適性検査を行う予定である。</li> <li>(3) その他 平成16年度開講予定の歌舞伎俳優第18期生の研修にあたっては、外部専門家及び関係団体と協議の結果、実技研修をさらに充実させる必要があることから、研修期間を従来の2年から3年に延長することとした。</li> </ol> </li> <li>・歌舞伎音楽（長唄）第3期生の募集       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人員 3人</li> <li>(2) 募集・選考状況 平成16年1月から3月にかけて、中学卒業以上23歳以下の男子を対象に、第3期生の募集を行った。応募総数4名。4月7日に選考を行い、3名が合格。7月に適性検査を行う予定である。</li> </ol> </li> </ul>	
<p>大衆芸能（寄席囃子、太神楽）</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>1. 大衆芸能（寄席囃子）第12期生・第1年次の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員 4人</li> <li>・授業内容（実 技）寄席囃子、長唄・三味線、小唄・俗曲等 183回 （座学その他）作法、講義、体操、公演見学等 47回</li> <li>・主な講師 金近こう、小松美枝子、戸辺まさ、今藤長十郎、今藤文子、今藤政太郎、戸田美代子、山崎美江、望月初寿三、浅茅与志江、桜井宗梅、天森悦子、今岡謙太郎他（19名）</li> </ul> <p>2. 大衆芸能（太神楽）第3期生・第3年次（最終年）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員 2人</li> <li>・授業内容（実 技）立てもの、投げもの、囃子、寄席囃子、笛等 288回 （座学その他）公演見学等 2回</li> <li>・主な講師 鏡味仙三郎、宝家利二郎、鏡味勇二郎、翁家和楽、翁家小楽、翁家勝之助、翁家喜楽、望月太左衛、望月鏡子、小口けい他（14名）</li> <li>・その他 研修修了生2名については各々入門先も決まり、落語協会に所属し就業することとなった。</li> </ul> <p>3. 発表会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎俳優（17期生）歌舞伎音楽・長唄（2期生）大衆芸能・太神楽（3期生）合同研修発表会 11月20日 本館小劇場</li> <li>・大衆芸能・寄席囃子（12期生）研修発表会、大衆芸能・太神楽（3期生）研修修了発表会 2月26日 演芸場</li> </ul> <p>4. 大衆芸能（太神楽）第4期生の募集</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人員 3人</li> <li>(2) 募集・選考状況 平成16年1月から3月にかけて、中学卒業以上23歳以下の者を対象に、第4期生の募集を行った。応募総数3名。4月13日に選考を行い、3名が合格。7月に適性検査を行う予定である。</li> </ol>	<p>A</p>
<p>能楽（ワキ、狂言、囃子）</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>1. 第6期生（専門研修課程第2年次）：能楽三役のうち囃子方・第5年次の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員 3人（笛方1人、小鼓方1人、太鼓方1人）</li> <li>・授業内容（実 技）笛、小鼓、太鼓の各専攻科目 シテ謡、四拍子（笛、小鼓、太鼓及び太鼓）の副科等 355回 （座学その他）楽屋実習等 135回</li> <li>・主な講師 観世鍔之丞、高橋章、杉市和、亀井俊一、観世元信他（25名）</li> </ul> <p>2. 第7期生（基礎研修課程第2年次）：能楽三役のうちワキ方及び囃子方・第2年次の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員 5人（ワキ方2人、小鼓方2人、太鼓方1人）</li> <li>・授業内容（実 技）ワキ方：ワキ謡・型、装束付け・扱い、四拍子の副科等 囃子方：小鼓、太鼓の各専攻科目、シテ謡、四拍子の副科等 415回 （座学その他）芸能概論講座、茶道、体操等 275回</li> </ul>	<p>A</p>

		<p>・主な講師 観世清和、福王茂十郎、大倉源次郎、亀井忠雄、小林責他（33名）</p> <p>3. 発表会等 第6期能楽（三役）研修発表会（3月9日、国立能楽堂能舞台） 第7期能楽（三役）研修発表会（3月17日、国立能楽堂能舞台）</p>	
文楽（太夫、三味線、人形）	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>1. 文楽（三業）第20期生・第2年次（最終年）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人員 2人（文楽大夫2人）</li> <li>・授業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>（実技）義太夫、三味線等 123回</li> <li>（座学その他）作法、講義、公演・稽古見学等 96回</li> </ul> </li> <li>・主な講師 竹本住大夫、鶴澤寛治、吉田玉男、吉田義助、吉田文雀他（39名）</li> <li>・発表会等 第20期文楽研修修了発表会（1月27日、文楽劇場）</li> <li>・その他 研修修了生は、2名とも大夫として文楽協会に入会し就業することとなった。</li> </ul> <p>2. 文楽（三業）第21期生の募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 人員 3人</li> <li>(2) 募集・選考状況 平成16年1月から3月にかけて、中学卒業以上23歳までの男子を対象に、第21期生の募集を行った。応募総数9名。4月7日に選考を行い、3名が合格。11月に適性検査を行う予定である。</li> </ul>	A
組踊（立方・地方）	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>[組踊の立方・地方の養成に関する検討]</p> <p>1. 国立劇場おきなわ専門委員会での検討事項</p> <p>組踊伝承者研修事業の理念 募集内容、応募資格、募集人員 研修方法及び研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師陣の構成について</li> <li>・各研修コースの専任講師によるマンツーマン指導</li> <li>・立方、地方の専攻コース（歌三線・箏・笛・胡弓・太鼓）習得目的とする組踊の演目</li> <li>・立方、地方、琉球舞踊等の組踊実技、舞台扮装・身体訓練等の副実技、楽屋・舞台実習、公演・稽古見学、講義、研修発表会等</li> <li>・研修期間、研修時間</li> </ul> <p>講師陣の構成：組踊保持者、舞踊家、沖縄伝統芸能研究者ほか</p> <p>2. 関係団体との協議 伝統組踊保存会、沖縄県文化課等関係団体と募集人員、応募資格、研修内容等について協議及び養成事業への協力依頼を行った。</p>	A
既成者研修	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>1. 能楽既成者研修 能楽研修発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回能楽若手研究会 大阪公演 1月31日 大槻能楽堂 有料（3,000円） 入場者数（550人）入場率109.2%</li> <li>・第13回能楽若手研究会 東京公演 2月7日 国立能楽堂 有料（3,000円） 入場者数（461人）入場率78.0%</li> </ul> <p>稽古会・発表会等への修了生の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第7期生研稽古会に第5期修了生の内、笛方延べ2名、太鼓方1名が参加</li> <li>・第7期生研修発表会に第5期修了生の内、笛方1名、太鼓方延べ2名が参加</li> </ul> <p>2. 歌舞伎音楽・竹本既成者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎音楽・竹本の既成者に対する技芸向上のための研修</li> <li>参加人数：6名、実施日数：5日、実施回数：5回</li> </ul>	A
(1)-2 伝統芸能の伝承者の養成に係る自己点検評価の実施等	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>1. 養成事業委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回開催（3月22日）</li> <li>・検討状況 15年度の養成実施状況及び16年度の養成計画及び募集の実施等について検討し、研修発表会に対する感想と評価並びに研修メニューについての意見を頂戴した。</li> <li>・結果の反映状況 引き続き各分野の養成研修を実施する。ただし、16年度開講予定の歌舞伎俳優（18期生）の研修実施にあたっては、実技研修を更に充実させる必要があることから、研修期間を従来の2年から3年に延長して行うこととした。</li> </ul> <p>2. 関係団体との協議</p> <p>歌舞伎（俳優・音楽） 松竹株式会社、伝統歌舞伎保存会、歌舞伎長唄協議会等関係団体と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。 平成16年度開講予定の歌舞伎俳優第18期生の研修にあたっては、外部専門家及び関係団体と協議の結果、実技研修をさらに充実させる必要があることから、研修期間を従来の2年から3年に延長することとした。</p> <p>大衆芸能（寄席囃子・太神楽） 日本演芸家連合、落語協会、落語芸術協会、太神楽曲芸協会等関係団体と、研修修了生の受入れ、新規の募集内容、講師の依頼等について協議を行った。</p> <p>能楽（三役） 日本能楽会及び能楽協会と、研修修了生の受入れ、新規の募集内容、講師の依頼等について協議を行った。次期研修生募集について検討するため、能楽協会に担当者選出を依頼し、選出を得た。</p> <p>文楽（三業） 文楽協会と、研修生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について検討を行った。</p>	A
(2)-1 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>(1) オペラ 海老澤敏オペラ研修所長の研修方針のもと、以下の者の研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修 第4期生（5人）の3年目の研修を実施し、研修を修了</li> </ul>	A

オペラ、バレエいずれの研修も、多彩なメニューを内容とする充実した事業であり、成果をあげていると認められる。

オペラ	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>第5期生(5人)の2年目の研修を実施 第6期生(5人)の1年目の研修を実施 ・募集 第7期生(5人)の募集を行った ・主たる研修場所 新国立劇場</p> <p>(2) バレエ 牧阿佐美バレエ研修所長の研修方針のもと、以下の者の研修を行った。 ・研修 第2期生(8人)の1年目の研修を実施 ・主たる研修場所 新国立劇場</p> <p>(3) 演劇 平成14年度より新たに研修事業専門委員会演劇部門委員を委嘱し、演劇研修の在り方等について、引き続き検討を行った。</p> <p>1. オペラ研修第4期生・第3年次(最終年)の実施 ・人員 5人 ・授業内容 (実技)音楽指導、声楽指導、演技指導、ディクシオン、日本舞踊等 393回 (座学)語学、講義等 73回 (その他)舞台実習等 52回 ・主な講師 マルチェッラ・レアール、中田昌樹、リチャード・ハレル、ブライアン・マスダ他(26名)</p> <p>2. オペラ研修第5期生・第2年次の実施 ・人員 5人 ・授業内容 (実技)音楽指導、声楽指導、演技指導、ディクシオン、日本舞踊等 395回 (座学)語学、講義等 73回 (その他)舞台実習等 52回 ・主な講師 マルチェッラ・レアール、中田昌樹、リチャード・ハレル、ブライアン・マスダ他(26名)</p> <p>3. オペラ研修第6期生・第1年次の実施 ・人員 5人 ・授業内容 (実技)音楽指導、声楽指導、演技指導、ディクシオン、日本舞踊等 393回 (座学)語学、講義等 73回 (その他)舞台実習等 10回 ・主な講師 マルチェッラ・レアール、中田昌樹、リチャード・ハレル、ブライアン・マスダ他(26名)</p> <p>4. 発表会等 ・試演会(11月29~30日、2回、小劇場) ・歌曲コンサート(12月18日、1回、オーケストラリハーサル室) ・研修公演「こうもり」(2月28日~3月2日、4回、中劇場) ・主催公演出演、又はカバー作品「フィガロの結婚」「イタリアのモーツァルト」「トスカ」「ホフマン物語」</p> <p>5. オペラ研修第7期生の募集 ・人員 5人 ・募集・選考状況 大学院声楽専攻修了程度の実力を有する者で、入所時年齢が女性32歳以下、男性35歳以下の者を対象に、第7期生の募集を行った。応募総数77名。2月4日から8日まで、3次にわたる選考を経て、5名(バリトン1名、ソプラノ4名)が合格した。</p>	A
バレエ	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>1. バレエ研修第2期生・第1年次の実施 ・人員 8人 ・授業内容 (実技)クラシカル・バレエ、キャラクター・ダンス、ボディ・コンディショニング、演劇基礎研修、コンテンポラリー・ダンス等 278回 (座学)バレエと音楽、バレエ史、身体解剖学等 67回 (その他)舞台実習等 27回 ・主な講師 豊川美恵子、新井咲子、岸辺光代、佐藤勇次、鈴木和子、ゲンナーディ・イリイン他(23名)</p> <p>2. 発表会等 ・公開レッスン(10月18日、中劇場) ・第2期1年次発表会(2月11日、1回、中劇場) ・演劇基礎研修稽古場発表会「ヘッダ・カーブレル」第1幕より(イブセン作) (3月19日、オーケストラリハーサル室)</p>	A
演劇及びその他の関係者の研修	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>[演劇研修に関する検討状況]</p> <p>1. 研修事業専門委員会・演劇作業部会の委員 大笹 吉雄 演劇評論家・大阪芸術大学教授 川南 恵 演劇制作プロデューサー 西川 信廣 演出家・劇団文学座演出部 長谷部 浩 演劇評論家・東京芸術大学助教授 服部 基 照明家、ライティング・カンパニー・あかり組</p> <p>2. 委員会開催状況 月1回程度</p> <p>3. 検討の進捗状況 平成14年度から新国立劇場における演劇研修の在り方について基本的な検討を行っているが、文化庁から依頼を受け、「国内、国外の演劇養成機関における研修等の目的、方法等の調査を行うとともに、併せて、我が国における演劇養成機関の在り方についての検討を実施し、我が国の演劇に関する人材養成施策策定のための基礎資料とする。」ことを目的として、我が国における演劇養成機関の在り方についての調査研究を行った。</p>	A

また、新国立劇場公演への出演、試演会、研修公演、さらに新進芸術家海外研修受験といった道が拓けていることは研修生にとって福音である。  
演劇の実演家等の研修については、今後の展開を注視する。

【より良い事業とするための意見等】

研修公演は研修成果を示すものとしてその意義は認めるが、経費の効率化等から舞台美術等については再考の余地があると思われる。  
また、今後とも、新国立劇場で実施する意義を明確にしつつ、その充実について検討していくことが望まれる。

	(2)-2 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修に係る自己点検評価の実施	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>1. 開催状況          評価委員会 1回開催(2月17日)          オペラ専門委員会 1回開催(1月29日)          舞踊専門委員会 1回開催(1月26日)          演劇専門委員会 1回開催(1月26日)          研修事業専門委員会演劇作業部会 月1回程度</p> <p>2. 検討状況          現代舞台芸術の研修事業に関する事項については、専門的観点からの意見を聴取した。また、各委員に研修公演の観劇を要請した。また、研修事業専門委員会演劇作業部会は、文化庁からの依頼を受け、我が国における演劇養成機関の在り方について調査研究を行い、報告書を作成した。</p> <p>3. 結果の反映状況          引き続き既存の各分野の研修を実施する。</p>	A	
4. 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	(1)-1 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>1. 調査研究          上演資料集：歌舞伎4冊、文楽2冊、組踊2冊(計8冊)          自主公演記録：67公演(映像、音声、写真等)          視聴室利用数：1,105件          「近代歌舞伎年表 京都篇 第10巻」の刊行          「近代歌舞伎年表」刊行のための作業成果：索引カード32,700件、興行カード1,700件          古文書の復刻等：「六二連俳優評判記 中」「古今落語系図一覧表」          意識調査：「文楽に関する意識調査(首都圏)」          国立劇場委嘱・初演の音楽作品の楽譜等の刊行          「現代の日本音楽 第11集(北爪道夫)」「現代の日本音楽 第12集(吉松隆)」</p> <p>2. 資料収集          収集実績・活用状況          (収集)図書：2,539冊          資料：10,916点          (活用)図書閲覧室等利用者：7,207人          資料閲覧者件数：30件91点、写真複製使用件数：123件645点          「歌舞伎版画図録 第11巻」のための、所蔵錦絵のカード化：210点          データベース化状況          公演情報1,415件          公演記録写真11,227枚          図書6,158件          公演記録映像3公演          自主企画映画6件          博物館施設等への貸与実績：11件          コンテンツの作成(2件)          ジオラマビジョン「農村舞台」          12面マルチ「歌舞伎誕生400年(2)発展 - 和事と義太夫狂言 - 」          展示公開          国立劇場本館(伝統芸能情報館情報展示室)：2回実施、来場者9,911人(展示目録等2種)          演芸資料館：2回実施          能楽堂：3回実施、来場者11,990人(展示図録「徳川家の能」、展示目録等2種)          文楽劇場：2回実施、来場者30,692人          国立劇場おきなわ：開場記念展示1回実施</p>	A	<p>A 伝統芸能の調査研究、資料の収集、例えば各種公演の上演資料集は専門家の評価も高く、貴重な資料になっており、成果があがっていると評価できる。          特に、「近代歌舞伎年表」の刊行は、基礎資料として整備が急がれていたもので、国立劇場にして可能な事業であると評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後とも、国立劇場で調査研究、資料の収集を行う意義を明確にするとともに、長期展望を持った計画のもと、継続して実施することが望まれる。          また、伝統芸能情報館については、伝統芸能の普及振興とともに、活用の促進を図るため、広報活動の一層の充実が望まれる。</p>
	伝統芸能に関する調査研究の実施	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する	<p>1. 成果の刊行          上演資料集(刊行8冊、目標8冊)          ・歌舞伎4冊(目標4冊)          10月歌舞伎公演「第235回歌舞伎公演 競伊勢物語」(458)          11月歌舞伎公演「第236回歌舞伎公演 天衣紛上野初花 - 河内山と直侍 - 」(459)          12月歌舞伎公演「第237回歌舞伎公演 二蓋笠柳生実記」(460)          3月歌舞伎公演「第239回歌舞伎公演 加賀見山旧錦絵」(464)          ・文楽2冊(目標3冊)          12月文楽鑑賞教室「第35回文楽鑑賞教室 団子売・夏祭浪花鑑」(461)          2月文楽公演「第146回文楽公演 国性爺合戦・曾根崎心中・仮名手本忠臣蔵」(462)          ・国立劇場おきなわ開場記念公演・組踊2冊(目標1冊)          「開場記念式典・開場記念公演 執心鐘入」(1)          「開場記念公演 万歳敵討」(2)          近代歌舞伎年表(刊行1冊、目標1冊)          ・「近代歌舞伎年表 京都篇 第10巻」(昭和11~17年)の刊行          ・「近代歌舞伎年表 補遺・索引篇」刊行(平成16年度予定)のための作業成果          索引カード：32,700件(目標32,000件)          ・「近代歌舞伎年表 名古屋篇」刊行(平成17年度予定)のための作業成果          興行カード：1,700件(目標1,500件)          古文書の復刻等(刊行2冊、目標2冊)          「六二連俳優評判記 中」(歌舞伎資料選書・9)          「古今落語系図一覧表」(演芸資料選書・8)          意識調査報告書(刊行1冊、目標1冊)          「文楽に関する意識調査(首都圏)」          平成16年2月8日から21日までの間、6回にわたり、小劇場文楽公演の観客を対象として意識調査を行い(回答者数2,551人、配布数2,969人、回収率85.9%) 集計結果を報告書「文楽に関する意識調査(首都圏)」としてまとめた。          国立劇場委嘱・初演の音楽作品の楽譜等の刊行(刊行2冊、目標2冊)          「現代の日本音楽 第11集(北爪道夫)」          「現代の日本音楽 第12集(吉松隆)」</p> <p>2. 自主公演記録の作成          自主公演記録の作成(67公演)          ・本館・演芸資料館(29公演)          演芸場定席公演を除く全ての自主公演について、録画と写真撮影を行った。歌舞伎公演については、鬘、衣裳、</p>	A	

		<p>小道具等の写真を撮影し、下座の附帳等の収集も併せて行った。また文楽公演、文楽鑑賞教室公演については、人形と小道具の写真撮影も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能楽堂（25公演） 全ての自主公演について、録画と写真撮影を行った。</li> <li>・文楽劇場（5公演） 小ホール大衆芸能公演を除く全ての自主公演について、録画（一部録音のみ）と写真撮影を行った。文楽公演については、人形と小道具の写真撮影も行った。</li> <li>・国立劇場おきなわ（8公演） 全ての自主公演について、録画と写真撮影を行った。</li> </ul> <p>自主公演記録の活用 視聴室利用数：1,105件（本館305件、能楽堂778件、文楽劇場22件）</p>				
<p>伝統芸能に関する資料の収集及び活用</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>3. 外部専門家等の意見 調査研究が順調に進められたことは、純正な形態による伝統芸能の保存振興に資するという観点から評価できるものである。</p> <hr/> <p>1. 資料の収集及び活用 (収集) 図書：2,539冊 資料：10,916点 (活用) 図書：閲覧室等利用者7,207人 資料：閲覧30件91点、写真複製使用123件645点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館・演芸資料館 (収集) 図書：単行本193冊、逐次刊行物523冊、筋書等821冊（計1,537冊） 資料：公演記録等資料4,267点、芝居版画35点、視聴覚資料33点、その他1,752点（計6,087点） (活用) 図書：閲覧室利用者数1,011人（開室日数101日） 資料：閲覧4件20点、写真複製使用78件532点</li> <li>・能楽堂 (収集) 図書：単行本110冊、逐次刊行物187冊、筋書等61冊（計358冊） 資料：公演記録等資料2,644点、能装束12点、狂言装束13点、絵画1点、その他3点（計2,673点） (活用) 図書：閲覧室利用者数1,391人（開室日数129日） 資料：閲覧4件46点、写真複製使用32件93点</li> <li>・文楽劇場 (収集) 図書：単行本129冊、逐次刊行物93冊、筋書等90冊（計312冊） 資料：公演記録等資料157点、視聴覚資料20点、人形等9点、その他2点（計188点） (活用) 図書：閲覧室利用者数437人（開室日数65日）、普及コーナー利用者4,368人 資料：閲覧22件25点、写真複製使用13件20点</li> <li>・国立劇場おきなわ (収集) 図書：単行本326冊、筋書等6冊（計332冊） 資料：沖縄芝居衣裳1,417点、大道具等206点、視聴覚資料345点（計1,968点）</li> </ul> <hr/> <p>2. 「歌舞伎版画図録 第11巻」(平成17年度刊行予定)のための所蔵錦絵の整理 カード化：210点（目標150点程度）</p> <hr/> <p>3. データベース化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公演情報：1,415件（目標1,350件程度） 自主公演に関する情報（場割、配役、上演時間、休演者等）のデータベース化 「舞踊・邦楽」公演：昭和41年11月～平成15年10月（361件） 「能・狂言」公演：昭和58年9月～平成15年8月（1,038件） 「歌舞伎」公演：平成15年1月～平成15年10月（8件） 「文楽」公演：平成15年2月～平成15年9月（8件）</li> <li>・公演記録写真：11,227枚（目標7,000枚程度） 国立劇場文楽公演記録写真（昭和52年2月～平成元年9月）フィルムデジタルデータ化</li> <li>・図書：6,158件（目標6,000件程度） 本館収蔵図書の情報のデータベース化</li> <li>・公演記録映像：3公演（目標3公演） 昭和61年10月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」、昭和61年11月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」、昭和61年12月歌舞伎公演「仮名手本忠臣蔵」</li> <li>・自主企画映画：6本（目標6本） 「歌舞伎の魅力 - 舞踊 -」、「歌舞伎の魅力 - 新歌舞伎 -」、「歌舞伎の魅力 - 黙阿弥・人と作品 -」、「歌舞伎の魅力 - 立廻りの美 -」、「能の謡」、「能の扇」</li> </ul> <hr/> <p>4. 博物館施設等への資料の貸与（11件29点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館・演芸資料館 貸与件数：4件5点（オーストラリア国立博物館、東京・飛鳥山博物館、他） 貸与内容：舞台模型、押隈、錦絵等</li> <li>・能楽堂 貸与件数：1件10点（新国立劇場運営財団） 貸与内容：能装束類、能面、文献資料等</li> <li>・文楽劇場 貸与件数：6件14点（町田市立博物館、市立長浜歴史博物館、他） 貸与内容：見台、三味線、文楽人形、丸本等</li> </ul> <hr/> <p>5. デジタル展示用コンテンツの作成（2件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジオリマビジョン「農村舞台」</li> <li>・12面マルチ「歌舞伎誕生400年(2)発展 - 和事と義太夫狂言 - 」</li> </ul> <hr/> <p>6. 展示公開</p> <table border="1" data-bbox="1092 1948 2033 1974"> <tr> <td>伝統芸能情報館情報展示室（2回実施）</td> <td>期</td> <td>間</td> <td>入場者数</td> </tr> </table>	伝統芸能情報館情報展示室（2回実施）	期	間	入場者数
伝統芸能情報館情報展示室（2回実施）	期	間	入場者数			

A

新収蔵資料展	9月25日～12月26日	5,016人
美しき琉球芸能展	1月3日～3月17日	4,895人
合 計		9,911人

演芸資料館演芸資料展示室(2回実施)	期 間	入場者数
新収蔵資料展	10月1日～12月21日	
美しき琉球芸能展	1月2日～3月27日	

\* 展示ごとの入場者数はカウントしていない。  
\* 情報展示室及び演芸資料展示室・展示目録等2種  
(展示目録「新収蔵資料展」、展示解説パンフレット「美しき琉球芸能展」)

能楽堂資料展示室(3回実施)	期 間	入場者数
企画展「収蔵資料展」	10月11日～12月19日	5,998人
特別展「徳川家の能」	1月16日～2月14日	3,213人
常設展示「狂言装束と狂言面」	3月9日～3月28日	2,779人
合 計		11,990人

\* 展示図録1種(「徳川家の能」) 展示解説パンフレット2種(「収蔵資料展」)

文楽劇場資料展示室(2回実施)	期 間	入場者数
企画展示「近松門左衛門」・同時開催「文楽入門」	11月2日～12月6日	11,992人
常設展示「文楽入門」<企画コーナー>20年を振り返る	1月3日～3月11日	18,700人
合 計		30,692人

\* 文楽公演期間中(11月、1月)は「文楽応援団」のボランティアによる展示解説を行った。  
<参考> 8月23日～10月11日の期間、常設展「文楽入門」<企画コーナー>舞踊と文楽を開催(入場者5,522人)

国立劇場おきなわ資料展示室(1回実施)	期 間	入場者数
開場記念特別展「組踊の始まり～玉城朝薫展～」	1月18日～3月21日	

\* 展示ごとの入場者数はカウントしていない。

7. 外部専門家等の意見  
資料の収集、公開に関して、各館の特徴を生かした方針の下に事業が進められていることは評価できる。未整理の資料に関しては、資料の有効活用のためにも、仮目録でも良いので、提示して欲しい。

展示公開状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満
--------	--------	-----------------	-------

100% 実績10回/計画10回 (実施回数/計画回数)

(1)-2 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用における自己点検評価の実施等

(振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する)

1. 国立劇場調査事業委員会の開催  
・開催状況 1回開催(3月23日)  
・国立劇場の調査事業に対する意見、評価等  
公演記録の作成及び資料集、年表等成果物の刊行、資料の収集・閲覧、コンテンツの作成、展示が順調に進められたことは、伝統芸能の保存振興の観点から評価できるものである。とくにホームページにおける図書検索の実施、コンテンツの作成等は国民に対し、国立劇場により親しんでもらうという工夫が見受けられる。

2. 利用者に対するアンケート調査の実施

分 野	実施時期	回答数	配布数	回収率	概ね満足との回答
上演資料集 11月歌舞伎公演	11月	44人	150人	29.3%	93.2%(41人)
2月文楽公演	2月	46人	150人	30.7%	93.5%(43人)
近代歌舞伎年表 京都篇10巻	3月	51人	140人	36.4%	98.0%(50人)
「六一連俳優評判記」	3月	52人	150人	34.7%	80.8%(42人)
「古今演語系図一覽表」	3月	30人	120人	25.0%	86.7%(26人)
現代の日本音楽(第11・12集)	3月	67人	200人	33.5%	88.1%(59人)
伝統芸能情報館図書閲覧	常時	43人			76.7%(33人)
本館視聴	常時	83人	305人	27.2%	83.1%(69人)
能楽堂図書閲覧	12月～2月	58人	70人	82.9%	79.3%(46人)
文楽劇場図書閲覧	常時	7人			100.0%(7人)
伝統芸能情報館情報展示	常時	249人			61.8%(154人)
能楽堂資料展示	1月～2月	201人	3,213人	6.3%	80.1%(161人)
文楽劇場資料展示	1月	415人	705人	58.9%	86.6%(359人)
国立劇場おきなわ資料展示	開場公演 3～8週	795人			54.0%(429人)

(2)-1 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する)

1. 調査研究  
・主催公演情報のデータベース化：公演情報20件、出演者情報5,534件  
・上演作品に関する公演資料の調査・収集：チラシ等474件、ポスター495件、概要・年報等：192件  
・資料交換：送付団体数222件、受領団体数102件  
・刊行物：「日本洋舞史年表 1900～1959」  
・オペラハウスデータベース：登録件数9件

2. 資料収集

・収集実績・活用状況  
(収集)図書：1,010冊、資料：公演記録映像資料24演目(57本)、市販映像資料71点  
(活用)利用者数：閲覧室17,132人、ビデオブース2,305人、ビデオシアター1,324人(151件)  
ビデオブース、ビデオシアターの利用者数は閲覧室利用者数の内数

・データベース化状況  
主催公演記録映像29件(24演目) 作品解題1件、資料紹介1件

・展示公開  
舞台美術センター資料館3回、来場者数1,057人  
その他展示1回

現代舞台芸術に関する調査研究の実施、資料の収集等については、「日本洋舞史年表」の刊行など一定の成果はあげているものの、伝統芸能関係と比較すると、調査研究等の端緒にたっただけであり、今後に期待したい。

【より良い事業とするための意見等】

新国立劇場で調査研究、資料の収集等を行う意義及び方針を明確にするとともに、長期展望を持った計画のもと、継続して実施することが望まれる。

また、情報センター、舞台美術センター資料館については、その周知が十分であるとは言えない。現代舞台芸術の振興普及とともに、活用の促進を図るため、広報活動の一層の充実が望まれる。

<p>現代舞台芸術に関する調査研究の実施</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>			<p>1. 主催公演情報のデータベース化 公演情報20件（オペラ10件・舞踊5件・演劇5件） 出演者情報5,534件（オペラ1,726件・舞踊3,808件）</p> <p>2. 上演作品に関する公演資料の収集整理 チラシ等474件（オペラ：157件、舞踊：75件、演劇：209件、その他：33件） ポスター495件（国内上演ポスター：494件、海外上演ポスター：1件）</p> <p>3. 団体・劇場との資料交換 送付団体数222件（国内芸術団体54、国内劇場56、海外劇場112） 受領団体数102件（国内芸術団体30、国内劇場42、海外劇場30） 概要・年報等：192件</p> <p>4. 「日本洋舞史年表 1900～1959」の刊行</p> <p>5. オペラハウスデータベース 海外劇場調査及び国内外の劇場との資料交換で得られた年報等の各種データを登録したオペラハウスデータベースを整備した。 海外劇場調査8件、登録件数9件</p> <p>6. 外部専門家等の意見 主催公演情報等のデータベース化、国内外の現代舞台芸術の上演作品や団体及び劇場に関する情報を収集・整理するとともに、成果物として、「日本洋舞史年表 1900～1959」が刊行され、調査研究が順調に進められたことは、現代舞台芸術の充実、振興等に資するという観点から評価できるものである。今後もこれら事業を継続、且つ充実させ、現代舞台芸術の振興等に反映されることが望まれる。</p>	A
<p>現代舞台芸術に関する資料の収集及び活用</p>	<p>振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する</p>			<p>1. 資料の収集及び活用 （収集）図書：単行本756冊、逐次刊行物254冊（計1,010冊） 資料：公演記録映像資料24演目（57本）、市販映像資料71点 （活用）情報センター利用者数 閲覧室17,132人（開室日数147日） ビデオブース2,305人、ビデオシアター1,324人（151件） ビデオブース、ビデオシアターの利用者数は閲覧室利用者数の内数</p> <p>2. データベース化状況 主催公演記録映像29件（24演目） オペラ16件、バレエ7件、現代舞踊2件、演劇4件 作品解題、資料紹介データの作成 ・作品解題1件 オペラ「魔笛」（公演ビデオに合わせて解説・楽譜等を表示、他にモーツァルト年表等） ・資料紹介1件 「マノン・レスコー」（1889年パリ出版、ルロワの挿画・モーパッサンの序文あり）</p> <p>3. 展示公開 常設展「オペラハウスの感動」 期 間：平成15年10月1日～平成16年3月31日（142日間） 小特集「ラ・シルフィード」 期間：平成15年10月1日～10月26日（23日間） 小特集「マノン」 期間：平成16年3月6日～3月31日（23日間） 場 所：新国立劇場舞台美術センター資料館（千葉県銚子市） 入館者数：1,057人 常設展「現代演劇ポスター展2001」 期 間：平成15年10月1日～26日（23日間） 常設展「現代演劇ポスター展2002」 期 間：平成15年11月1日～平成16年3月31日（120日） 場 所：新国立劇場舞台美術センター資料館（千葉県銚子市） 入館者数：1,057人 常設展「現代演劇ポスター展2001,2002」と常設展「オペラハウスの感動」は併設されているため、入場者は両方見学したものとみなす。 発行物：「現代演劇ポスター展2002」図録 企画展「モーツァルトのオペラ」 (1) 期 間：平成15年10月10日～21日（12日間） 場 所：新国立劇場2階プロムナード（東京都渋谷区） (2) 期 間：平成15年11月1日～平成16年2月29日（97日間） 場 所：新国立劇場舞台美術センター資料館（千葉県銚子市） 入館者数：728人 企画展入館者数は常設展入館者数の内数 発行物：「モーツァルトのオペラ」解説目録 その他展示 主催公演のうち代表的な演目の舞台衣裳を新国立劇場エントランスギャラリーで展示（常設）。</p> <p>4. 外部専門家等の意見 図書資料とともに主催公演記録映像、作品解題、資料紹介をデータ化し、公開できたこと、また、現代舞台芸術に関する資料の展示公開ができたことは、現代舞台芸術の振興、理解の促進に資するという観点から評価できるものである。特に主催公演記録映像のデータベース化は一般の方は勿論、実演家や研究者等が最も活用するものであり、少しでも多くの映像が閲覧可能になることを期待する。今後とも一層の充実を図るとともに利用促進のための広報活動を並行して行う必要がある。</p>	B
<p>展示公開状況</p>	<p>100%以上</p>	<p>70%以上 100%未満</p>	<p>70%未満</p>	<p>100% 実績3回/計画3回（実施回数/計画回数）</p>	A
<p>(2)-2 現代舞台芸術に関する調査研究の実施</p>				<p>1. 新国立劇場調査事業専門委員会の開催</p>	B

査研究の実施並びに資料の収集及び活用に係る自己点検評価の実施等

果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

・開催状況 1回開催（3月17日）  
 ・検討状況（新国立劇場の調査事業に対する意見聴取、評価等）  
 主催公演情報・記録映像のデータベース化、年表等作成物の刊行、資料の閲覧・収集、コンテンツの作成、展示が順調に進められたことは、現代舞台芸術の振興等の観点から評価できるものである。特に主催公演記録映像のデータベース化は一般の方は勿論、実演家や研究者等が最も活用するものであり、少しでも多くの映像が閲覧可能になることを期待する。今後もこれら事業を継続、且つ一層の充実を図るとともに、利活用促進のための広報活動を並行して行い、現代舞台芸術の振興等に反映されることが望まれる。

2. 利用者アンケートの実施

分野	実施時期	回答数	配布数	回収率	概ね満足との回答
情報センター発行物に関するアンケート	2月18日～3月31日	78人	355人	22.0%	84.6%（66人）
情報センター利用に関するアンケート	10～11月	317人	357人	88.8%	77.6%（246人）
情報センター資料館の利用に関するアンケート	1月	77人	131人	58.8%	63.6%（49人）

5. 劇場施設の利用

劇場施設の貸与等

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 貸与実績（カッコは年度計画における目標）  
 本館大劇場 貸与日数：21日（22日）、利用率：88%（88%）  
 本館小劇場 貸与日数：81日（80日）、利用率：90%（88%）  
 演芸場 貸与日数：46日（41日）、利用率：90%（80%）  
 能楽堂本舞台 貸与日数：92日（88日）、利用率：84%（80%）  
 文楽劇場 貸与日数：72日（71日）、利用率：92%（89%）  
 文楽劇場小ホール 貸与日数：63日（55日）、利用率：71%（62%）  
 新国立劇場中劇場 貸与日数：50日（49日）、利用率：94%（92%）  
 新国立劇場小劇場 貸与日数：40日（37日）、利用率：78%（71%）

2. 利用情報の提供  
 各劇場施設（新国立劇場オペラ劇場を含む）の概要及び申し込み方法等をホームページに掲載した。また、過去の利用者への案内状の送付、劇場利用のパンフレットの配布や新年度利用募集案内の館内掲示などを実施した。本館、演芸場、能楽堂及び文楽劇場において、17年度の利用の申込みの受付を行った。

3. 関連サービスの提供  
 （国立劇場）  
 次のサービスを全ての利用者に対して提供した。  
 ・入場券の作成、販売及び点検作業  
 ・場内のアナウンス及び案内業務  
 ・舞台機構操作、照明操作、音響操作  
 ・舞台関係の技術協力  
 本館 照明 30件  
           音響 9件  
           美術 3件  
           舞台監督等 3件  
           その他 3件（つけ打ち・狂言補助等）  
 文楽劇場 照明 14件  
           音響 11件  
 （新国立劇場）  
 次のサービスを全ての利用者に対して提供した。  
 ・入場券の点検、劇場内の案内、クローケ等（中劇場）  
 ・舞台進行、照明操作、音響操作等補助（中劇場、小劇場）

4. 利用料金等に関する調査  
 各劇場施設（国立劇場おきなわ及び新国立劇場オペラ劇場を含む）の容量及び種別に応じた近隣の施設に対して、利用料金、利用方法等について調査を実施した。その調査結果を含めて検討を行い、16年度の料金改定は実施しないと決定した。

5. アンケート調査結果  
 全劇場利用者に対して随時、サービス等に関するアンケート調査を実施した。  
 （国立劇場）

	配布件数	回答数	回収率
本館大劇場	11件	1件	9.1%
本館小劇場	69件	26件	37.7%
演芸場	33件	7件	21.2%
能楽堂	45件	17件	37.8%
文楽劇場	55件	10件	18.2%
文楽劇場小ホール	37件	7件	18.9%
合計	250件	68件	27.2%

（新国立劇場）

	配布件数	回答数	回収率
中劇場	8件	8件	100.0%
小劇場	9件	9件	100.0%
合計	17件	17件	100.0%

6. 貸与手続きの簡素化の検討状況  
 （国立劇場）  
 国立劇場本館・演芸場、能楽堂及び文楽劇場の各施設使用規程について、各館の担当者による検討会において申し込み手続き等、運用上による問題点の検討を行った。引き続き16年度において手続きの簡素化、利用者の利便性を高めるため、改正の検討を進めることが確認された。

A

劇場施設の貸与実績については、各劇場施設ともおおむね目標を達成していると認められる。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、劇場施設貸与についての方針を明確にするとともに、他の劇場施設の運営も参考にしつつ、その増加をはかるための自主公演の早期決定、セールス活動を充実するための体制・方法の確立などが望まれる。特に、新国立劇場オペラ劇場については、劇場経営の観点からも、貸与日数の増加が望まれる。

				(新国立劇場) 施設使用規程制定(平成8年11月7日)後の経験を踏まえつつ、利用者に対する一層のサービス向上を図るとともに、事務手続きの簡素化と効率化を図るため、本規程の一部を改正する手続きを進めている。  【特記事項】 (国立劇場) 本館においてはキャンセル待ちに関する情報を適切に管理し、貸与日数の向上に努め、併せて「施設利用の冊子」の作成を検討するなど、利便性の向上を図っている。				
	劇場施設の貸与状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	105.9% 実績85.16% / 計画80.40% (実績利用率 / 計画利用率)	A		
6. 附帯する業務	(1) 教育普及事業の実施	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する			1. 教育普及 (1) 講座等の実施 ・伝統芸能講座「歌舞伎」(本館) 11月23日・中村魁春、1月25日・石橋健一郎、3月27日・後藤美代子 3回実施 参加者数 308人(目標270人) 有意義であったとの回答割合 平均87.7% ・芸能資料関連講座(本館) 10月18日・三隅治雄、12月20日・渡辺保、2月21日・田中英機 3回実施 参加者数 206人(目標150人) 有意義であったとの回答割合 平均91.8% ・公演記録鑑賞会(本館) 10月10日、11月14日、12月12日、1月9日、2月13日、3月12日 6回実施 参加者数 386人(目標360人) 有意義であったとの回答割合 平均89.7% ・能楽鑑賞講座(能楽堂) 10月22日11月26日12月24日・岩崎雅彦、1月28日2月25日3月24日・村上湛 6回実施 参加者数1,288人(目標960人) 有意義であったとの回答割合 平均89.4% ・公演記録鑑賞会(文楽劇場) 10月9日、11月14日、12月4日、1月9日、2月14日、3月12日 6回実施 参加者数 889人(目標900人) 有意義であったとの回答割合 平均91.0% ・オペラを楽しむ集い(舞台美術センター) 12月7日 1回実施 参加者数 77人(目標150人) 有意義であったとの回答割合 91.7% 以上、年度計画記載事業合計 3,154人(目標2,790人) 回収率74.0%、満足度89.5% ・オペラ部門オペラトーク(中劇場) 4回実施 参加者数740人 ・同 シーズンラインアップ説明会(オペラ劇場) 1回実施 参加者数160人 ・舞踊部門シーズンオープニングパーティ(レストラン) 1回実施 参加者数50人 ・同 シアタートーク 1回実施(中劇場) 参加者数140人 ・演劇部門シアタートーク 3回実施(中劇場、小劇場) 参加者数677人 (2) デジタルコンテンツの作成等 デジタル技術により教育普及を目的としたコンテンツを次のとおり作成し、3月からインターネットにおいて配信を開始した。 ・「演目解説 義経千本桜」 ・「演目解説 仮名手本忠臣蔵」 配信実績 文化デジタルライブラリーとして、インターネットを通じて学校教育機関や一般へ配信した。アクセス件数は、16,230件(目標15,000件) 活用事例 ・音楽の授業の中で、歌舞伎の音楽(長唄、義太夫等)を調べるにあたって「歌舞伎事典」を利用した。 ・総合的な学習「伝統芸能」の中で、歌舞伎の「隈取」や「見得」の説明に用いた。 ・日本文化を扱う授業の中で、伝統芸能の歴史や内容を理解させるため、「歌舞伎編」コンテンツを部分的にプロジェクターで見せた。	A	A	伝統芸能及び現代舞台芸術の理解を向上し、将来の観客を育む教育普及事業については、その内容、講師の人選も妥当であり、地道で着実な実績をあげていると認められる。 講座等の実施状況、参加者の満足度、舞台芸術教材の作成状況等も目標を上回る成果をあげている。  【より良い事業とするための意見等】 伝統芸能関係に比べて、現代舞台芸術の講座等が少ないと思われる。現代舞台芸術に関する事業の充実が望まれる。 今後も、国立劇場及び新国立劇場で行う教育普及事業の意義及び方針を明確にするとともに、長期展望を持った計画のもと、継続して実施することが望まれる。
	講座等の実施状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	100% 実績25回 / 計画25回 (実施回数 / 計画回数)	A		
	講座等の参加者数	2,790人以上	1,953人以上 2,790人未満	1,953人未満	平成15年度実績 3,154人(目標2,790人) (平成14年度実績 4,900人)	A		
	講座等の参加者の満足度	70%以上	50%以上 70%未満	50%未満	平成15年度実績 90%(目標70%)	A		
	舞台芸術教材の作成状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	100% 実績2件 / 計画2件 (作成件数 / 計画件数)	A		
	文化デジタルライブラリーへのアクセス状況	15,000件以上	10,500件以上 15,000件未満	10,500件未満	平成15年度実績 16,230件(目標15,000件) (平成14年度実績 30,000件)	A		
	(2) 広報活動の充実	振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する			広報活動 (1) 広報誌を次のとおり発行・配布した。 ・「日本芸術文化振興会ニュース」(毎月発行、合計60,000部) ・「舞台芸術」(16年1月発行、2,500部) ・「ステージノート」(毎月発行、合計133,900部) ・「新国立劇場年報 平成14年度」(15年10月発行、700部) 参考 15年9月以前に発行・作成されたもの	A	国立劇場及び新国立劇場の事業の広報活動については、各種定期刊行物の刊行、ホームページのアクセス数など、目標に沿った成果があがっていると認められる。 特に、ホームページへのアクセス数については、約60万件弱の実績をあげるとともに、そのための直近情報の掲載や構成に工夫が施	

- 「日本芸術文化振興会概要」(15年5月作成)
- 「日本芸術文化振興会概要(英語版)」(15年6月作成)
- 「日本芸術文化振興会要覧」(15年7月作成)
- 「芸術文化振興基金」(15年6月発行、6,000部)
- 「日本芸術文化振興会年報 平成14年度」(15年9月作成)
- 「新国立劇場要覧」(15年6月作成)

(2) ホームページの運用

アクセス件数(10月～3月合計)

日本芸術文化振興会ホームページ	213,117件	(目標385,000件)
新国立劇場ホームページ	346,484件	
合計	559,601件	

情報更新日数

日本芸術文化振興会ホームページ	3.1日	(目標7日以内)
新国立劇場ホームページ	2.7日	
平均	2.9日	

ホームページの主な充実状況

(振興会ホームページ)

- ・独立行政法人化に伴い、振興会トップページのデザイン及び全体のサイト構成をリニューアル
- ・どのページからも他のコンテンツに移動可能なデザインに変更
- ・事業別の掲載情報を各劇場別に再構成し、劇場ごとに公演等の情報が一目で分かるデザインに変更
- ・公演以外の情報についてはトップページのナビゲーションに配置し、より使い勝手の良い構成に変更
- ・振興会について理解を促すため新規に「組織等」「基本文書」ページを設定
- ・「情報公開」ページの掲載内容を充実させ、より理解しやすいようにリニューアル
- ・トップページの公演検索を簡素化、キーワード検索を掲載
- ・トピックスを分野別に分類し、最新のものをのみを表示、バックナンバーページを作成
- ・「サイト内検索」機能及び「ご意見・ご感想」フォームを新規作成
- ・国立劇場おきなわサイトへのリンクを新規作成
- ・芸術文化振興基金サイトのトップページのデザイン及び全体の構成をリニューアル
- ・各劇場施設利用についての詳細を新規掲載
- ・ホームページに寄せられたご意見ご感想に対する内部対応方法を整備して随時対応

- ・国立劇場図書検索システムの外部配信開始に伴いトップページにリンクを作成、同時に新国立劇場所蔵資料検索のリンクも作成
- ・チケットのインターネット予約販売へのリンクをトップページに作成
- ・平成15年度決算書を財務情報ページに掲載
- ・財務情報内に入札情報を掲載
- ・平成15年度行政コスト計算書を財務情報ページに掲載
- ・トップページに採用情報の項目を新規作成、採用情報を掲載
- ・ユネスコ世界無形遺産コンテンツの外部配信に向け、アイコンの作成

- ・ユネスコ世界無形遺産コンテンツの外部配信に向け、アイコンの作成
- ・ユネスコ世界無形遺産コンテンツの外部配信に向け、アイコンの作成
- ・ユネスコ世界無形遺産コンテンツの外部配信に向け、アイコンの作成

(新国立劇場ホームページ)

- ・各劇場の座席表、各公演の席割表を掲載した。
- ・広く一般からの様々な意見、要望を聞くため、ご意見箱を設置した。
- ・主催公演稽古場風景の写真的掲載を開始した。(撮影・掲載許可を得た公演に限る)
- ・公演記録写真(アーカイブ)の英語版を開始した。

【特記事項】

(国立劇場)

- ・国立劇場おきなわ劇場概要リーフレットの作成(5,000部 16年1月作成)
- ・国立劇場おきなわの貸館用冊子の作成(7,000部 16年3月作成)
- ・ホームページに書き込まれたご意見ご要望に対しては、関係各課と連絡を取りながら、随時速やかに対応している。
- ・能楽堂の公演に関しては、会主に事前に資料提供を求め、直近の二ヶ月分をまとめたものを隔月で小型カレンダーとして作成し能楽堂内外に広く頒布している。

(新国立劇場)

- ・バック・ステージ・ツアーの取材、情報雑誌の施設紹介対応等、劇場全般に関する取材の対応を行った。
- ・CM、広告、ファッション撮影、TVドラマ等の撮影場所としての要望に対応した。
- ・その他の刊行物(新国立劇場):「2004/2005シーズン・ブック」(16年2月発行、無料配布)
- ・「公演のご案内」(16年3月発行、無料配布)

以上の刊行物の発行により、情報提供と早期購買意欲醸成に供した。

決定からホームページへの掲載まで期間

7日未満

7日以上  
9日未満

9日以上

平成15年度実績 2.9日(目標7日)

A

ホームページへのアクセス件数

38.50万件以上

26.95万件以上  
38.50万件未満

26.95万件未満

平成15年度実績 559,601件(目標385,000件)  
(平成14年度実績 77万件)

A

(3) 交流事業の実施状況

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 交流公演の実施

- ・国立劇場おきなわ開場記念公演(第6週)  
「アジア・太平洋地域の芸能 アジア・本土の三絃類と沖縄の三線」(インド、ベトナム、中国)  
3月6日～7日、4回、国立劇場おきなわ大劇場
- ・現代舞踊 ダンステアトロンNo.10 バレエ・プレルジョカージュ(フランス)  
「ヘリコプター/春の祭典」平成15年11月7日～9日、3回、中劇場
- ・演劇 海外招待作品Vol.3 香港・劇場組合(中国)  
「The Game/ザ・ゲーム」平成16年2月20日～29日、10回、小劇場

2. 外国の芸能関係者の来場、見学等

(国立劇場本館)

- ・ニカラグア国立ルンベダリオ劇場館長 懇談及び見学(3人)
- ・韓国国立中央劇場長 観劇及び施設見学、表敬訪問・懇談(4人)
- ・韓国文化財庁無形文化財関係者 養成事業視察(7人)
- ・韓国文化院観光政策研究院 施設訪問・概要説明(5人)
- ・韓国文化芸術振興院 基金事業視察・振興会概要説明・施設見学(1人)

A

されていると認められる。

【より良い事業とするための意見等】

現在、国立劇場及び新国立劇場において何の公演が行われているかを、一般の人が身近に知る機会が未だ少ないと思われる。さらなる広報の多様化が望まれる。  
また、広報誌については、それぞれの発行の意義、目的、読者層等を総合的に再検討し、より効率的に刊行することが望まれる。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、公演の実施に留まらない、幅広く多様な国々との交流が望まれる。  
なお、視察などを含む交流事業は、受入・派遣が相互に実施されることにより、より大きな成果をあげるものと思われる。この観点から、特に国立劇場において十分とはいえないと思われる。長期的な視点に立った交流事業の実施が望まれる。

(4) 劇場利用者等へのサービスの向上

振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1. 観劇環境の整備（バリアフリー化等）  
 (本館) 大劇場の6席を撤去し3台分、小劇場の4席を撤去して2台分の車椅子スペースを設置した。  
 (能楽堂) 講座参加者等が利用する玄関のスロープ化、休憩用ベンチの設置を実施した。  
 (文楽劇場) 楽屋を中心とした空調設備を改修した。  
 (おきなわ) 身体障害者補助犬法に基づくポスター、ステッカーを掲示した。  
 (新国立劇場) 音声誘導装置、身体障害者向けインターホン、緊急用ボタン及び車椅子スペースを設置した。  
 (新国立劇場) 次の施設設備について整備を図った。  
 オペラ劇場客席における正面手摺りによる視野障害の解消工事を行った。  
 初台駅地下連絡通路に新国立劇場の案内サインを設置した。  
 地下駐車場の整備  
 ・各出入口に車番カメラを設置し、車番識別システムを導入した。  
 ・事前精算機を1台追加設置した。  
 ・左ハンドル対応の券券機を設置した。  
 ・場内案内サインを見直し、改修した。  
 地下駐車場出口（渋谷区道口）付近歩道の床面の段差を解消する工事を行った。  
 防災センター（受付・B1F楽屋口）に車椅子を追加して配置した。

【特記事項】  
 国立劇場おきなわの開場記念公演期間中、約100人の身体障害者の入場があったが、上記の装置、設備等により適切な観劇サービスを提供できた。

2. 外国語への対応  
 (本館)  
 ・歌舞伎全5公演、文楽全3公演のプログラムへ英文解説を掲載した。  
 ・英語によるアナウンスを1月歌舞伎公演より開始した。  
 ・英語版イヤホンガイドの導入（歌舞伎5公演、文楽2公演（本館））  
 (能楽堂)  
 ・英語による能・狂言入門解説リーフレットを作成・無料配布した。  
 ・各公演の演目についての英文解説プリントを作成・無料配布した。  
 ・英語によるアナウンスを1月公演より開始した。  
 (文楽劇場)  
 ・11月、1月文楽公演において英語版パンフレット（あらすじ）を作成・無料配布した。  
 ・文楽紹介用タッチパネル式情報端末の活用（日本語、英語、仏語）  
 (おきなわ)  
 ・施設案内板等へ英語による表記を導入した。  
 (新国立劇場)  
 ・平成14年度年報（英文版）を700部作成し、海外の主要歌劇場に配布するとともに、海外からのVIP、見学者に配布した。  
 ・ホームページの英文ページの充実を図った。可能な限り日本語ページと同様の情報提供に努めるとともに、公演記録写真（アーカイブス）英語版を開始した。

A

劇場利用者等へのサービスについては、会員確保の目標を達成していないものの、バリアフリー化の推進、外国語への対応、チケット販売システムの検討、公演説明会の開催など、事業目的に沿った成果があがっているものと認められる。  
 なお、歌舞伎400年記念事業の実施は、関係団体との連携協力に基づく、これまでにない事業であり評価される。

【より良い事業とするための意見等】

今後とも、利用者の多角的なニーズに応えられるサービスの充実がさらに望まれる。  
 特に、伝統芸能及び現代舞台芸術の理解を促進するための字幕及びイヤホンガイドの活用促進は、将来はもとより現在の観客の増加に繋がることも、外国人に対する我が国の芸能・芸術の理解にも貢献するものであり、積極的な対応が望まれる。  
 また、会員の増加についての検討が望まれる。

・モリサ・バヌアツ財務・経済大臣 観劇・施設見学・人形解説（2人）  
 (国立能楽堂)  
 ・イスラエル建築協会 視察（27人）  
 ・韓国芸術文化団体総連合会 視察・懇談（7人）  
 ・ドイツ・ナイトフロッグTVに対する撮影協力  
 ・NHK国際放送局センター制作による番組（世界180カ国へ紹介）への制作協力  
 (国立文楽劇場)  
 ・海外舞台芸術関係者等の視察受け入れ（展示室・人形・床山室・衣裳室等見学）  
 ・ペレ・ジェラル（ブラジル、Cultura Artistica財団総務理事）夫妻見学（2人）  
 (国立劇場おきなわ)  
 ・インド在日大使 観劇及び見学（4人）  
 ・ベトナム協会関係者 見学（3人）  
 ・中国関係者 見学（4人）  
 (新国立劇場)  
 ・韓国舞台技術者研修事業の実施  
 平成11年度から4年間実施した中国舞台技術者研修事業が一応の成果を収め、目的を達成したため、平成15年度から、対象国を韓国とし、舞台技術者2名（韓国芸術の殿堂、韓国国立劇場から舞台監督各1名）を招聘して、平成16年3月3日から3月31日まで、実務研修を行った。  
 ・アジア舞台芸術専門家招聘事業の実施  
 アジア諸国の舞台芸術専門家を招聘し、新国立劇場において、一般を対象とした講演会等の実施、新国立劇場幹部職員等との意見交換等を行うことにより、わが国現代舞台芸術の発展に資するため、標記事業を立ち上げた。平成15年度の実施内容は、次のとおり。  
 被招聘者：林克歡（リン・カーファン） 中国国家話劇院 国家一級評論  
 招聘期間：平成16年2月19日～2月23日  
 主な活動：香港・劇場組合「The Game / ザ・ゲーム」公演終了後、出演者とともにトークイベントに参加  
 ・アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟(AAPPAC)への参加  
 新国立劇場は、舞台芸術の拠点を担うアジア太平洋地域の主要な総合芸術文化施設で構成される標記連盟（11カ国、19施設が加盟）に平成9年以来加盟しており、年次総会に出席するとともに情報交流などの活動を行っている。  
 平成15年度は、平成16年2月27日～29日までオーストラリア・アデレードで開かれた年次総会に出席した。

・施設見学  
 ベトナム国立青年劇場 見学（2名）  
 韓国芸術文化団体総連合会坡州支会 見学（7名）  
 韓国文化観光部青少年課 見学（3名）  
 中華民国文化建設委員会 見学（16名）  
 香港不動産業者 見学（5名）  
 台湾国立国父記念館 見学（2名）

3. 「古典演劇資料展」(トロント)への資料の寄贈  
 16年2月から4月にかけて開催される「古典演劇資料展」(国際交流基金トロント日本文化センター主催)に対して、歌舞伎、文楽、大衆芸能、能楽等のポスター73種104枚、チラシ99種154枚、プログラム75種133枚を寄贈した。  
 【特記事項】  
 2002年に開催された日韓ワールドカップを契機として、韓国の芸術文化関係者の訪問・見学が多くみられた。

3. チケット販売システムの検討等
- (1) チケット販売システムの検討  
 チケットセンターと文楽劇場のチケット販売システムについて、機器を一元化した販売システムによる販売を開始するため、16年度中に調達等の準備を進め、機器の一元化を実施するとの検討結果を得た。
- (2) インターネット販売の実施  
 インターネットによる販売は委託販売として実施してきたが、その利用の拡大を図るための検討を行った。その結果、従来の委託販売に国立劇場のチケット販売専用ページを設けることで、より多くの顧客が利用可能なインターネット販売を実施できた。

【特記事項】  
 3月歌舞伎公演からこのインターネット販売を開始し、469枚の利用があった。

4. 会員サービスの実施
- (1) 各会員組織において、チケットの先行発売、割引販売を実施した。  
 あぜくら会においては、開場以来、三日目の会（歌舞伎4公演の三日目を対象に、年間を通して事前に会員が選んだ席で観劇できる制度）を導入しており、平成15年度(10、11、12、1月公演)については、1,824枚の実績を上げている。新国立劇場においては、欧米のオペラハウスで導入されているシーズンを通じてのセット券（複数公演チケット）を10年4月から導入しており、2004/2005シーズンについては、会員及び一般向けに平成16年2月から発売し、延べ11,000枚の実績を上げている。

- (2) 会報の発行  
 「あぜくら」(第444号～第449号、毎月発行)  
 「文楽劇場友の会会報」(第112号(11月発行)、第113号(2月発行))  
 「クラブ・ジ・アトレ」(毎月発行)

- (3) 会員向け催事  
 10月歌舞伎公演「競伊勢物語」舞台稽古招待(10月2日、100人)  
 文楽のつどい 10月30日(125名参加、文楽劇場小ホール)  
 12月3日(44名参加、バスツアー)  
 3月26日(160名参加、開場20周年のつどい)

- (4) 在籍者数(3月末現在)
- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| あぜくら会     | 14,725人(利用件数:49,148枚) |
| 文楽劇場友の会   | 6,852人(利用件数:8,647枚)   |
| クラブ・ジ・アトレ | 14,344人(利用件数:50,461枚) |
| 合計        | 35,921人(目標 36,150人)   |

- (5) アンケート調査の実施  
 あぜくら会 12月～2月実施(配布14,454枚、回収1,589枚、回収率11.0%)  
 文楽劇場友の会 11月～2月実施(配布6,717枚、回収656枚、回収率9.8%)  
 クラブ・ジ・アトレ 1月実施(配布8,477枚、回収3,241枚、回収率38.2%)

- (6) 国立劇場おきなわ友の会  
 国立劇場おきなわ支援会を母体として、国立劇場おきなわ友の会を組織し(個人会員102名、法人会員44団体:3月末現在)、開場記念公演において、割引販売を実施した。

【特記事項】  
 開場という話題性もあって国立劇場おきなわには多数の見学者が訪れたが、その際に友の会についても説明をし、周知を図った。

5. 公演説明会、見学会等の実施

- (1) 鑑賞団体に対して、制作担当職員等が演目、鑑賞のポイント等を解説する公演説明会を次のとおり実施した。

(本館)	51件	22,989人(歌舞伎:41件2,544人、文楽:10件445人)
(能楽堂)	7件	314人
(文楽劇場)	10件	418人
(新国立劇場)	10件	1,767人(オペラ:900人、舞踊:190人、演劇:677人)

- (2) 施設見学を次のとおり受け入れた。

(本館)	10件	85人
(能楽堂)	5件	87人
(文楽劇場)	2件	5人
(おきなわ)	146件	2,700人
(新国立劇場)	22件	416人(うち外国人36名)

オペラ劇場バック・ステージ・ツアー:12日間、36回実施し、649名の参加を得た。

- (3) ボランティアによる展示解説(文楽劇場)  
 「文楽応援団」としてボランティア53人の登録があり、資料展示室において、11月文楽公演期間中227人、1月文楽公演期間中230人に対して文楽・展示物の解説案内を実施した。

【特記事項】  
 文楽応援団は劇場外においても、公演ポスター、チラシ等の配布活動を行っている。

6. イヤホンガイド、字幕の導入

- (1) イヤホンガイドを次のとおり導入した。

(歌舞伎)	全5公演
(文楽)	5公演(本館3、文楽劇場2)

- (2) 字幕を次のとおり導入した。

(文楽)	2公演(本館2)
(舞踊)	2公演(本館2)
(邦楽)	3公演(本館3)
(声明)	1公演(本館1)
(民俗芸能)	1公演(本館1)
(おきなわ開場記念公演)	全8公演
(オペラ)	全9公演
(演劇)	1公演(「The Game / ザ・ゲーム」、広東語上演)

【特記事項】  
 能楽堂においては、能舞台の構造上の特殊性と観客側に取捨選択の余地が保たれることからイヤホンガイドを平成16年度能楽鑑賞教室において試験的に導入するため調査研究を行った。  
 国立劇場おきなわ開場記念公演のうち、アジア・太平洋地域の芸能の公演については、訳詞をささずに曲目の解説を表示するなど、観客の理解を深める工夫をした。

7. 苦情・要望への対応等  
 (国立劇場)

				<p>国立劇場においては、利用者に直接対応する部門と管理部門の緊密な連絡体制を推進し、迅速な現場対応を図るとともに、管理部門をまとめ役とした全館的な検討と要望の実現を検討する体制を整備した。また、課長会議における連絡を通じて苦情電話に対する適切な対応の徹底を図るなど、各職員への苦情対応への意識を向上させた。</p> <p>各劇場内に設置している箱に寄せられた観客の意見については、迅速な回答を図るとともに、指摘を受けた点についての検討を行った。新たにホームページに設置したご意見・ご感想欄に寄せられた意見や質問等については、担当各課からの回答に努めた。(振興会ホームページ書き込み総数75件、必要に応じて回答を行った。)</p> <p>(新国立劇場)</p> <p>新たに広報広聴担当(職員2名)を設け、一般からの苦情対応を行っており、公演アンケート、電話、手紙、来訪者等の対応を行っている。(新国立劇場ホームページ書き込み総数158件、必要に応じて回答を行った。)</p>		
	会員数の確保	36,150人以上	25,305人以上 36,150人未満	25,305人未満	<p>8. 売店・レストランアンケート</p> <p>アンケートの実施状況は次のとおりである。</p> <p>(本館) 16年1月～3月実施(回収24枚)</p> <p>(演芸場) 16年3月実施(回収87枚)</p> <p>(能楽堂) 16年3月実施(配布500枚、回収159枚、回収率31.8%)</p> <p>(文楽劇場) 16年3月実施(回収38枚)</p> <p>(おきなわ) 16年1月～3月(開場記念公演アンケートに含む形式で実施)</p> <p>(新国立劇場) 16年2月実施(110枚回収)</p>	B
(5) その他		<p>(振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する)</p>			<p>歌舞伎400年記念事業</p> <p>1. 期間及び開場</p> <p>15年12月30日(火)～16年1月6日(火)(7日間、1日を除く)</p> <p>金沢大和香林坊店(石川県金沢市)</p> <p>16年3月2日(火)～3月15日(月)(14日間)</p> <p>そごう広島店(広島県広島市)</p> <p>*トークショーを開催(澤村藤十郎・中村福助・中村芝雀)</p> <p>2. 入場者数</p> <p>金沢 総数4,630人(1日平均661人)</p> <p>広島 総数7,715人(1日平均551人)</p> <p>【特記事項】</p> <p>(平成15年度上半期実績)</p> <p>・15年7月9日(水)～7月28日(月)(20日間)</p> <p>日本橋高島屋(東京都中央区) 総入場者数 60,527人(1日平均3,026人)</p> <p>・15年9月3日(水)～9月8日(月)(6日間)</p> <p>松坂屋栄本店(愛知県名古屋市) 総入場者数 16,470人(1日平均2,745人)</p>	A

資金計画・その他

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評 定 基 準			指標又は評価項目に係る実績	段階的評定	評 定 性 的 評 定 等																																																																																																
		A	B	C																																																																																																			
外部資金等の導入	外部資金の確保	<p>(振興会における自己点検評価の結果を踏まえつつ、委員の協議により、評定を決定する)</p>			<p>1. 収支の状況(単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>予算額</th> <th>決算額</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収 入</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>運営費交付金</td> <td>7,029,928</td> <td>7,029,928</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td>8,264</td> <td>6,298</td> <td>1,966</td> </tr> <tr> <td>施設整備費補助金</td> <td>252,000</td> <td>252,000</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公演事業収入</td> <td>1,659,200</td> <td>1,597,937</td> <td>61,263</td> </tr> <tr> <td>公演受託事業収入</td> <td>8,152</td> <td>11,387</td> <td>3,235</td> </tr> <tr> <td>基金運用収入</td> <td>895,245</td> <td>924,023</td> <td>28,778</td> </tr> <tr> <td>寄附金収入</td> <td>1,000</td> <td>0</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>その他の収入</td> <td>100</td> <td>11,200</td> <td>11,100</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9,853,889</td> <td>9,832,773</td> <td>21,116</td> </tr> <tr> <td>支 出</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般管理費</td> <td>742,825</td> <td>605,726</td> <td>137,099</td> </tr> <tr> <td>うち人件費</td> <td>376,274</td> <td>367,112</td> <td>9,162</td> </tr> <tr> <td>うち物件費</td> <td>366,551</td> <td>238,614</td> <td>127,937</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>6,295,367</td> <td>6,133,697</td> <td>161,670</td> </tr> <tr> <td>うち人件費</td> <td>1,239,965</td> <td>1,153,916</td> <td>86,049</td> </tr> <tr> <td>うち物件費</td> <td>5,055,402</td> <td>4,979,781</td> <td>75,621</td> </tr> <tr> <td>施設整備費</td> <td>252,000</td> <td>252,000</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公演事業費</td> <td>1,757,534</td> <td>1,590,343</td> <td>167,191</td> </tr> <tr> <td>公演受託事業費</td> <td>8,152</td> <td>6,035</td> <td>2,117</td> </tr> <tr> <td>基金助成事業費</td> <td>896,345</td> <td>762,796</td> <td>133,549</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9,952,223</td> <td>9,350,597</td> <td>601,626</td> </tr> <tr> <td>収支差</td> <td>予算額 98,334千円</td> <td>決算額 482,176千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 剰余金</p> <p>(1) 上記収支差482,176千円のうち、運営費交付金債務296,804千円を除く、185,372千円について損益計算の結果、平成15年度の当期純利益は144,508千円である。</p> <p>(2) 利益が生じた主な要因</p> <p>芸術文化振興基金の運用に基づき得られた運用収益を財源として、助成事業を適正かつ効率的に執行した結果、164,650千円の利益が生じた。その主要な内訳はつぎのとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術文化振興基金の運用にあたり、経済情勢の把握や運用を工夫し、運用利回りが当初予定を0.07%上回り2.49%となり、49,872千円(損益計算後)の増収となった。</li> <li>・ 助成対象活動の内容変更等について、助成事業の適正な執行を図るためその変更内容を厳しく精査し、変更が著しいもの等については助成額の減額や要望取上げ等の手続き等を行った結果、130,700千円の助成費を未交付とし、</li> </ul>	区 分	予算額	決算額	増 減	収 入				運営費交付金	7,029,928	7,029,928	0	雑収入	8,264	6,298	1,966	施設整備費補助金	252,000	252,000	0	公演事業収入	1,659,200	1,597,937	61,263	公演受託事業収入	8,152	11,387	3,235	基金運用収入	895,245	924,023	28,778	寄附金収入	1,000	0	1,000	その他の収入	100	11,200	11,100	計	9,853,889	9,832,773	21,116	支 出				一般管理費	742,825	605,726	137,099	うち人件費	376,274	367,112	9,162	うち物件費	366,551	238,614	127,937	事業費	6,295,367	6,133,697	161,670	うち人件費	1,239,965	1,153,916	86,049	うち物件費	5,055,402	4,979,781	75,621	施設整備費	252,000	252,000	0	公演事業費	1,757,534	1,590,343	167,191	公演受託事業費	8,152	6,035	2,117	基金助成事業費	896,345	762,796	133,549	計	9,952,223	9,350,597	601,626	収支差	予算額 98,334千円	決算額 482,176千円		A	<p>基金の運用を工夫し高い運用利回りを達成したことなど、目標に沿った成果があがっているものと認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>振興会としては、常に公演の企画及び内容の充実など劇場利用者へのサービス等の業務の質の向上を第一義としつつ、独立行政法人として、適切な財務内容を維持していくことが望まれる。</p> <p>また、今後とも、外部資金の確保に向けた努力を継続していくことが望まれる。</p>
区 分	予算額	決算額	増 減																																																																																																				
収 入																																																																																																							
運営費交付金	7,029,928	7,029,928	0																																																																																																				
雑収入	8,264	6,298	1,966																																																																																																				
施設整備費補助金	252,000	252,000	0																																																																																																				
公演事業収入	1,659,200	1,597,937	61,263																																																																																																				
公演受託事業収入	8,152	11,387	3,235																																																																																																				
基金運用収入	895,245	924,023	28,778																																																																																																				
寄附金収入	1,000	0	1,000																																																																																																				
その他の収入	100	11,200	11,100																																																																																																				
計	9,853,889	9,832,773	21,116																																																																																																				
支 出																																																																																																							
一般管理費	742,825	605,726	137,099																																																																																																				
うち人件費	376,274	367,112	9,162																																																																																																				
うち物件費	366,551	238,614	127,937																																																																																																				
事業費	6,295,367	6,133,697	161,670																																																																																																				
うち人件費	1,239,965	1,153,916	86,049																																																																																																				
うち物件費	5,055,402	4,979,781	75,621																																																																																																				
施設整備費	252,000	252,000	0																																																																																																				
公演事業費	1,757,534	1,590,343	167,191																																																																																																				
公演受託事業費	8,152	6,035	2,117																																																																																																				
基金助成事業費	896,345	762,796	133,549																																																																																																				
計	9,952,223	9,350,597	601,626																																																																																																				
収支差	予算額 98,334千円	決算額 482,176千円																																																																																																					

5,000千円の助成費を返還させた。  
 ・ 助成業務に係る経費について内容の見直し等により、5,364千円を削減した。  
 ・ その他公演事業・研修事業・調査研究事業・施設利用事業の実施に伴い発生する当期損益を併せ、振興会全体の利益は144,508千円となる。

3. 運営費交付金債務

平成16年3月31日現在における運営費交付金債務は296,804千円で、うち繰り越して使用する運営費交付金債務の金額、内訳は次のとおりである。については16年度の人件費に充当すべきものである。についてはいずれも施工時期が限定され、施工期間不足等の事情により着工が延期されたものである。については舞台芸術振興事業費において、助成対象活動の内容変更等について、助成事業の適正な執行を図るためその変更内容を厳しく精査し、変更が著しいもの等については要望取下げ等の手続きを行った結果生じた助成金の残余である。については契約済み未執行分である。

繰り越して使用する運営費交付金債務の金額 252,681千円  
 (内訳) 16年度人件費に充当 51,637千円  
 大劇場舞台機構改修工事 82,509千円  
 小劇場舞台機構改修工事 89,641千円  
 舞台芸術振興事業費に充当 27,157千円  
 その他 1,737千円

4. 外部資金の獲得状況(6件、62,337千円)

芸術祭主催公演における受託事業収入 1件、11,387千円  
 芸術祭主催公演における負担金による収入 3件、45,500千円  
 11月歌舞伎公演における協賛金 1件、5,250千円  
 芸術文化振興基金に対する民間出せん金 1件、200千円

5. 短期借入金

なし。

【特記事項】

予算額における収支差 98,334千円は、15年度上半期の公演事業による利益を、旧法人より積立金として承継し、公演事業の財源とする計画によるものである。